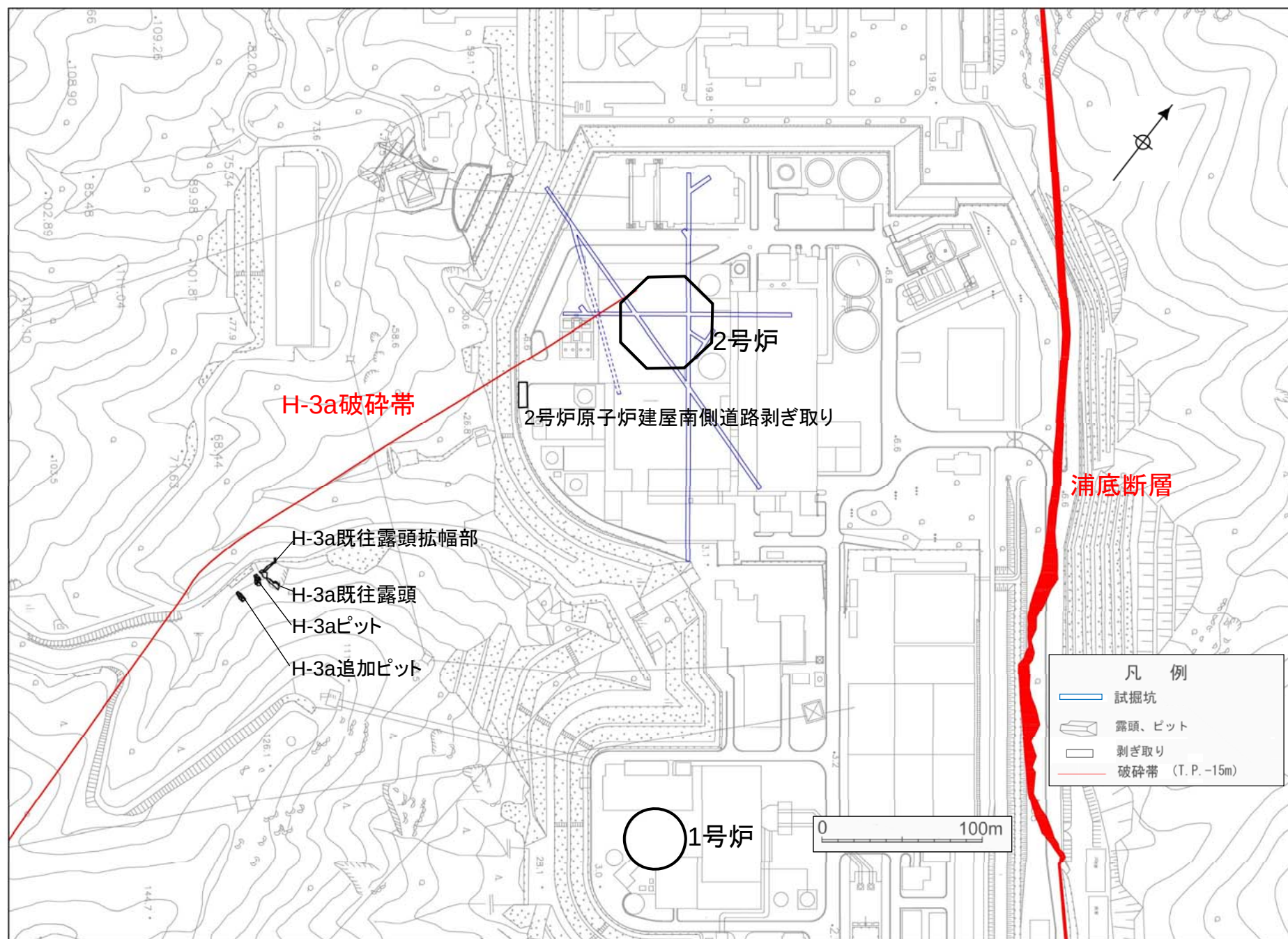




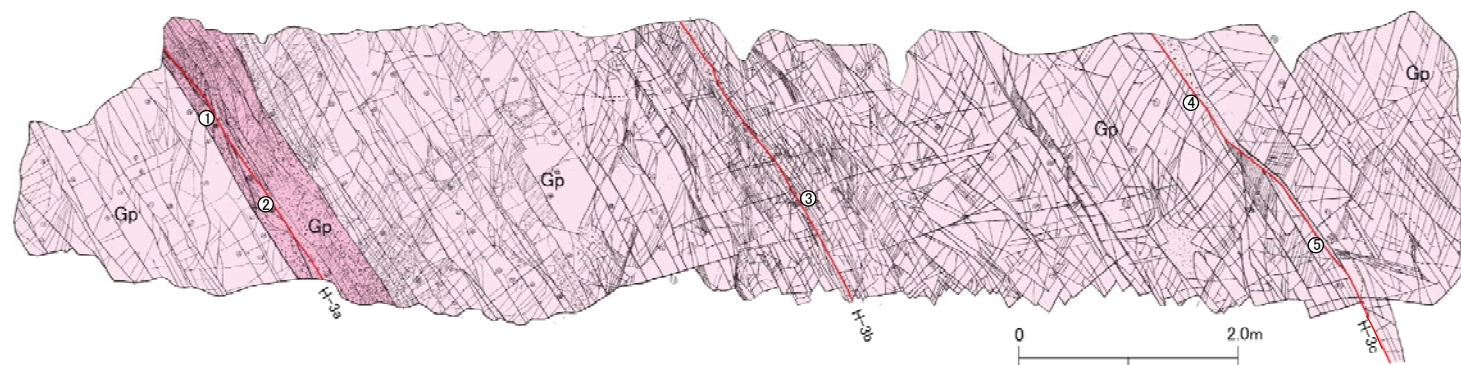
第7.4.4.136図 H-3a 破碎帯 調査位置図
6-7-4-966



□ ブロック, SEMサンプル採取位置



調査位置図



H-3a 破碎帯

- ① f: N22° E82° W
- ② f: N21° E85° W
- ・断層ガウジ 幅 0.1-1.3 cm程度
(灰白色, 暗灰色粘土からなる)
- ・カタクレーサイト 幅 15-20 cm程度
- ・下盤側に角礫状破碎部を伴う

f: せん断面

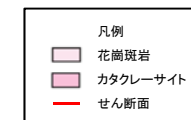
* 走向は偏角未補正である

H-3b 破碎帯

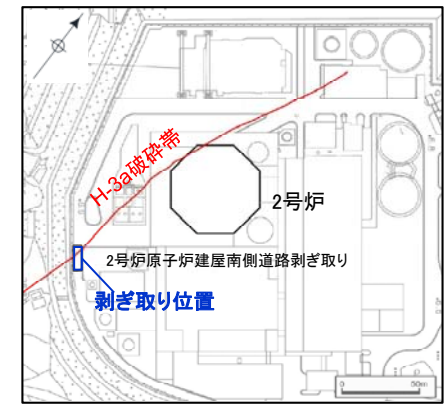
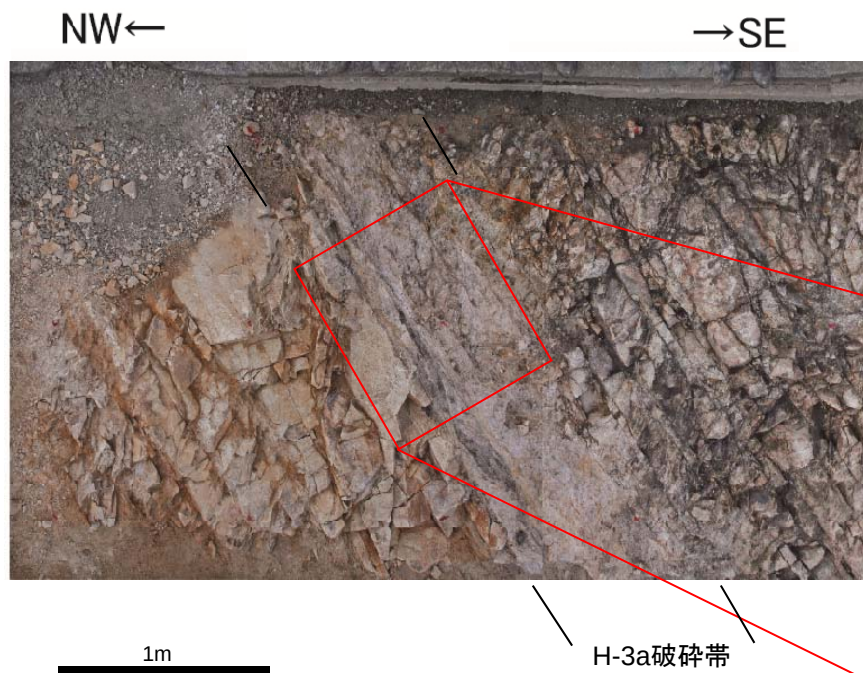
- ③ f: N23° E75° W
- ・断層ガウジは認められない
- f: せん断面
- * 走向は偏角未補正である

H-3c 破碎帯

- ④ f: N11° E83° W
- ⑤ f: N12° E85° W
- ・断層ガウジは認められない
- f: せん断面
- * 走向は偏角未補正である

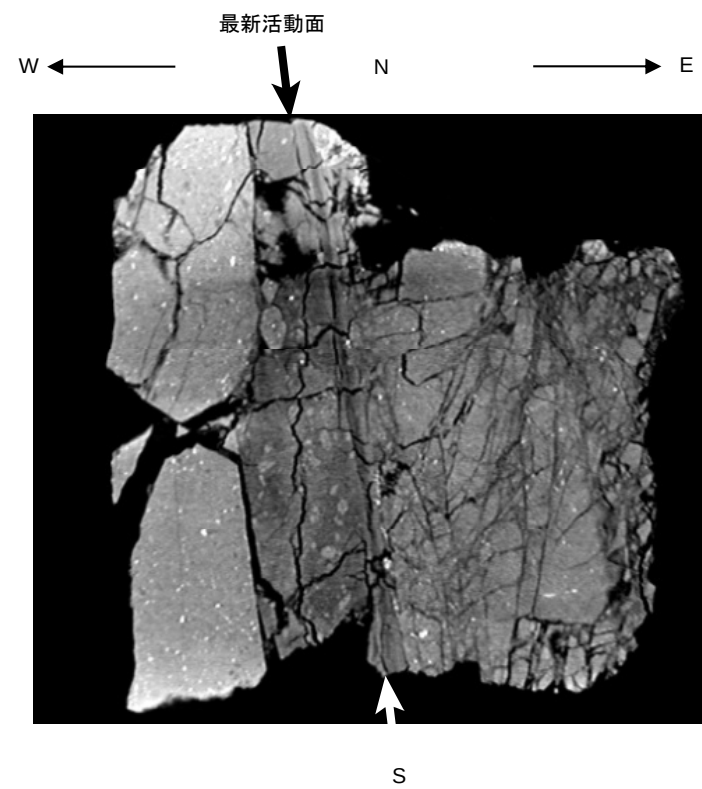


第7.4.4.137図 (1) H-3 a 破碎帯 剥ぎ取り調査結果 (2号炉原子炉建屋南側道路) (その1)

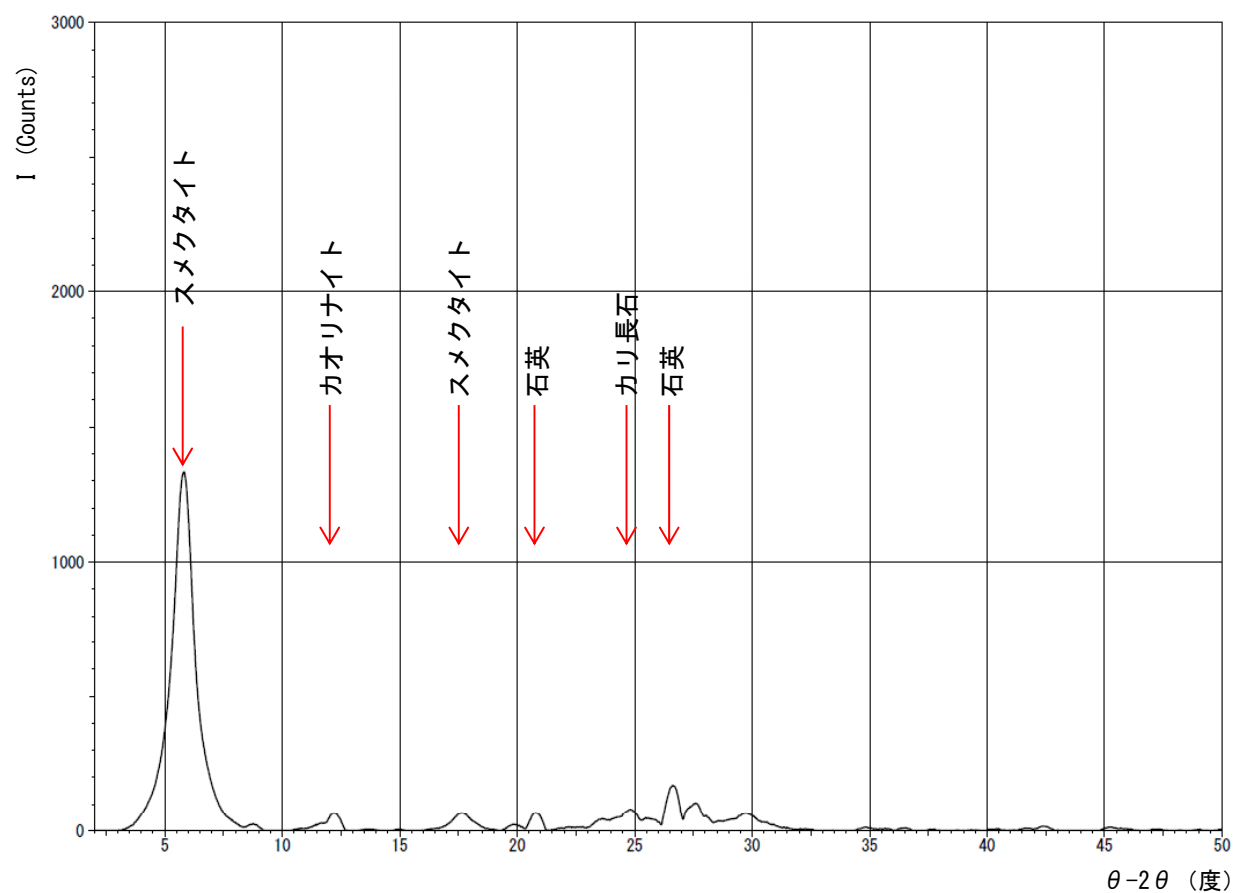
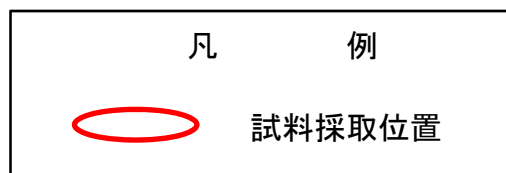
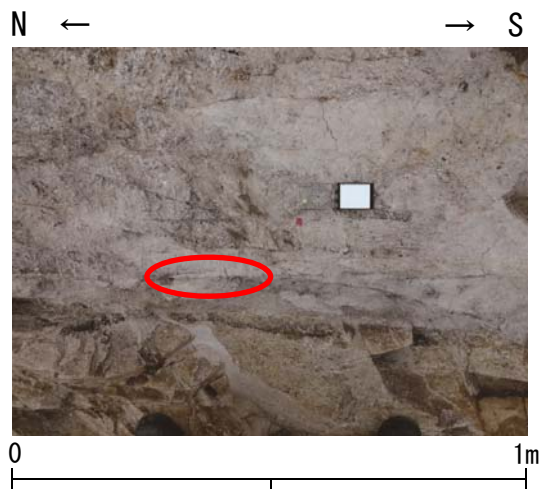


調査位置図

第7. 4. 4. 137図 (2) H-3 a 破碎帯 剥ぎ取り調査結果 (2号炉原子炉建屋南側道路) (その2)



第7. 4. 4. 138図 H－3 a 破碎帯 研磨片試料及びC T画像（2号炉原子炉建屋南側道路）

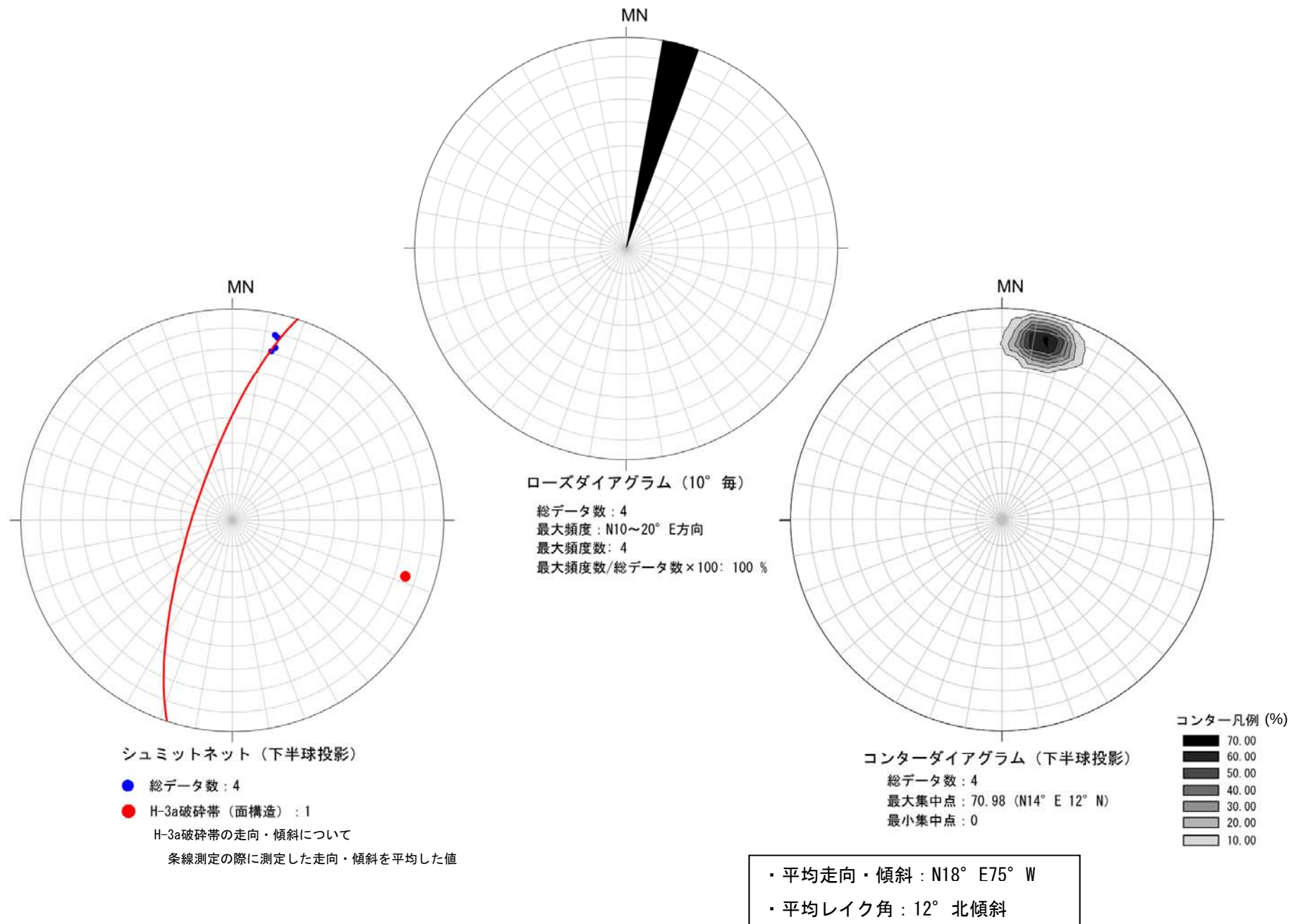


第7.4.4.139図 H-3 a 破碎帯 X線回折分析結果 (2号炉原子炉建屋南側道路)

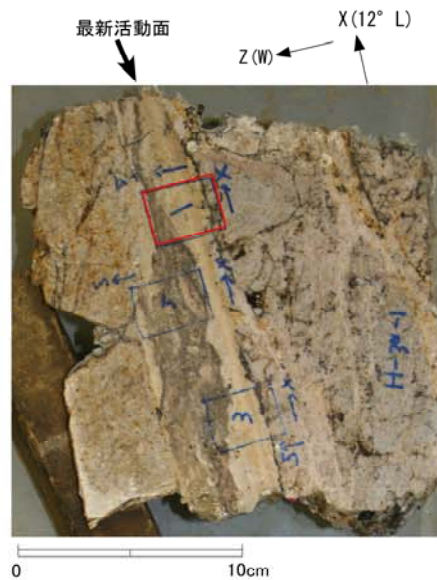


条線の例

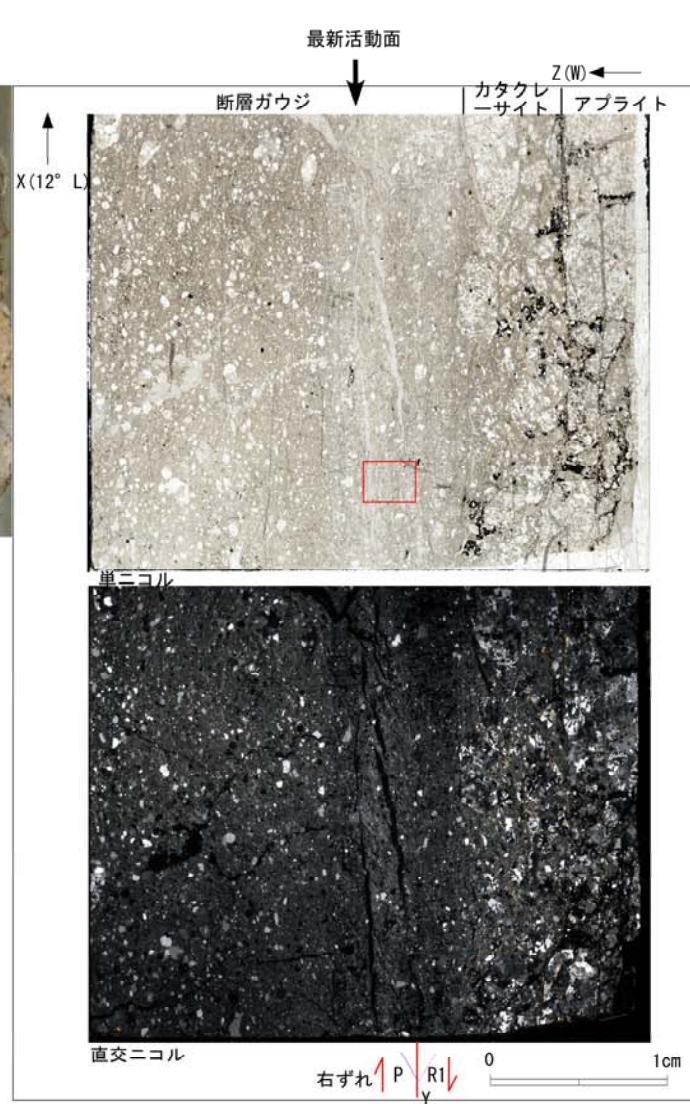
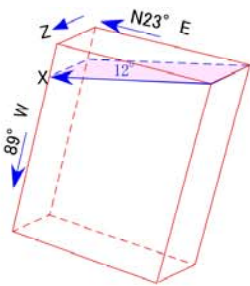
- ・ 平均走向・傾斜: N13° E81° W
- ・ 平均レイク角: 12° 北傾斜



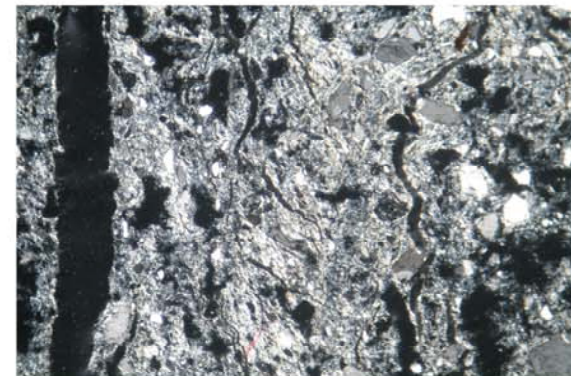
第7.4.4.140図 (2) H-3a破砕帯 条線観察結果 (2号炉原子炉建屋南側道路) (その2)



走向・傾斜 N23° E89° W



赤枠内の拡大



・断層ガウジ(最新活動面)

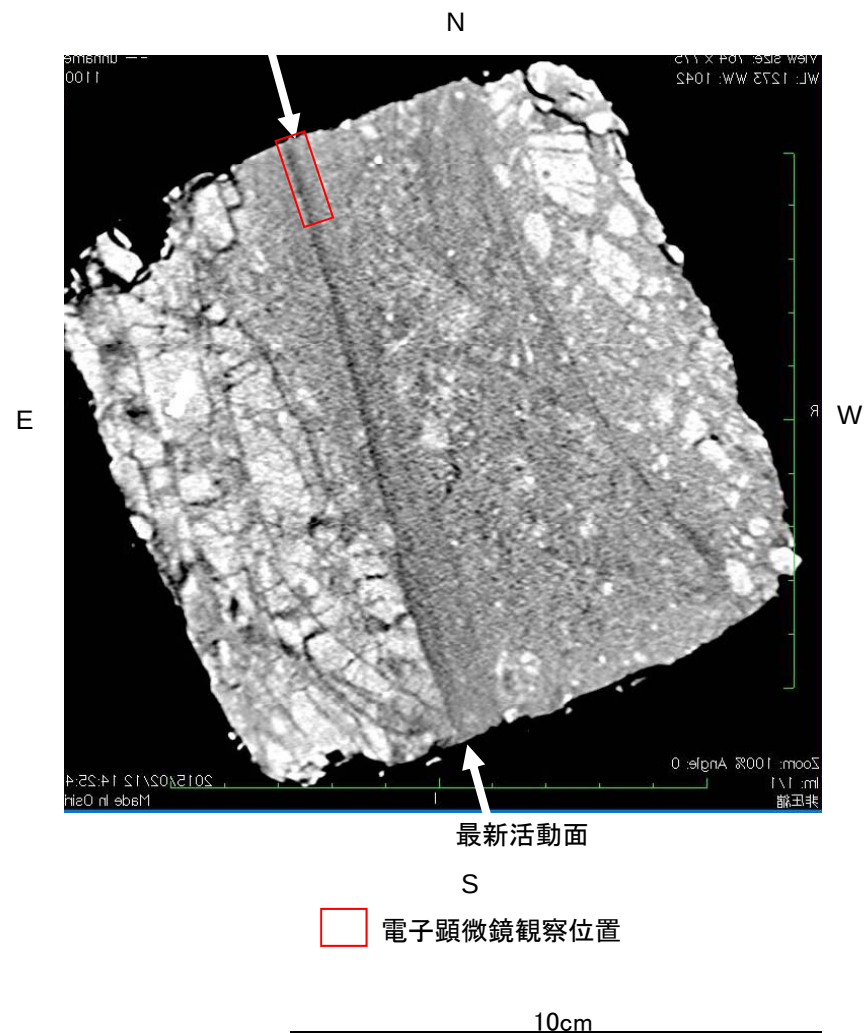
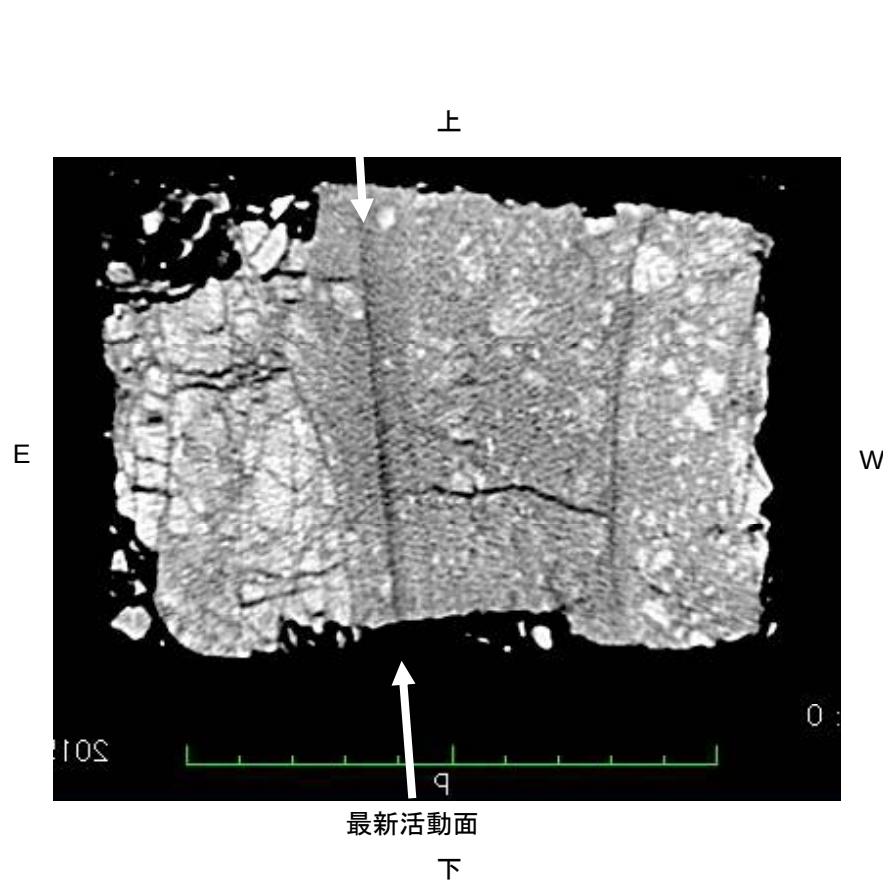
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～3mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイト、アブライトからなる。基質には粘土鉱物が多い。R1面及びP面から右ずれセンスが判読される。

・カタクレーサイト

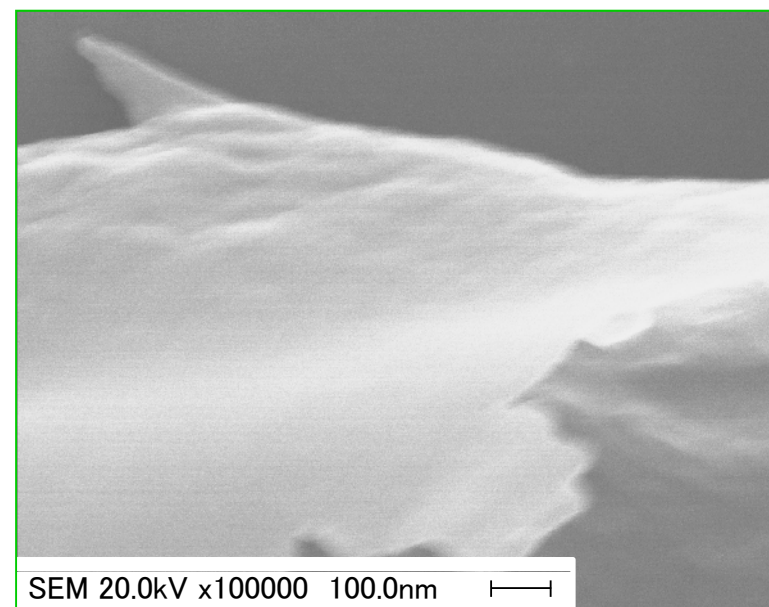
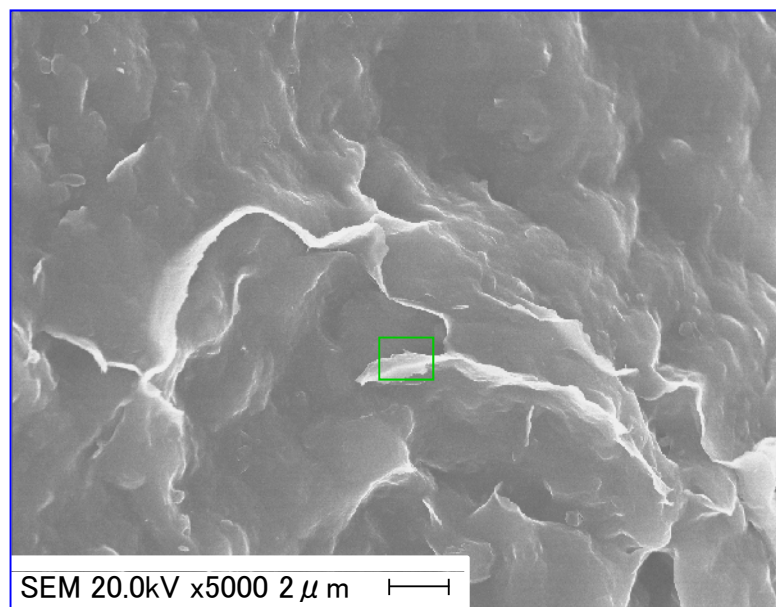
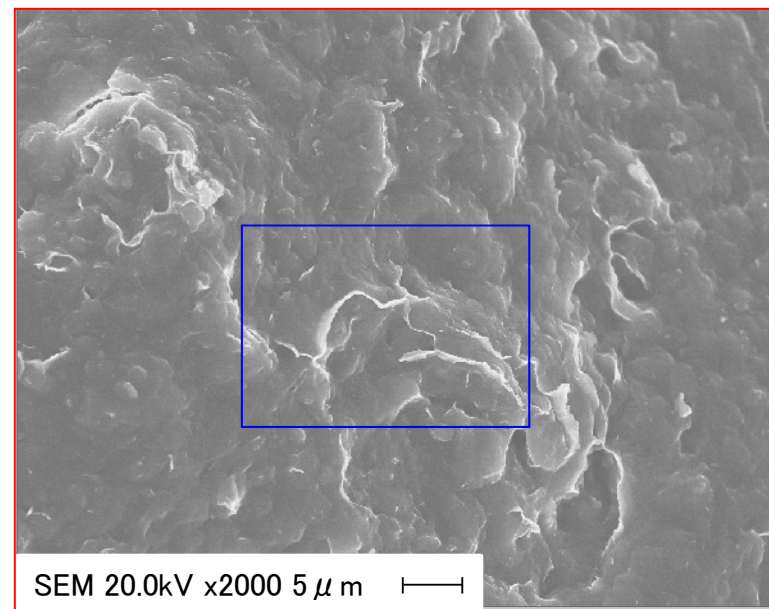
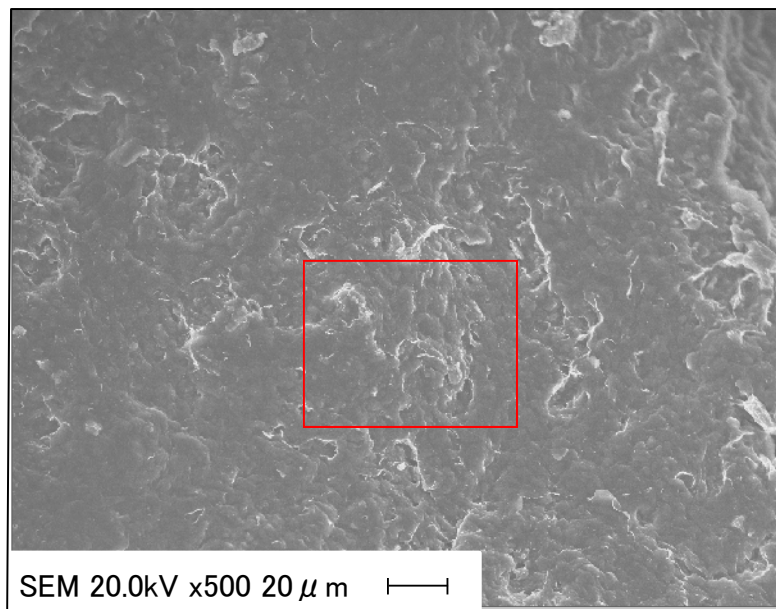
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～8mmの垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイト、アブライトからなる。基質には粘土鉱物が少ない。

・アブライト

石英、カリ長石、斜長石、不透明鉱物、黒雲母からなる。

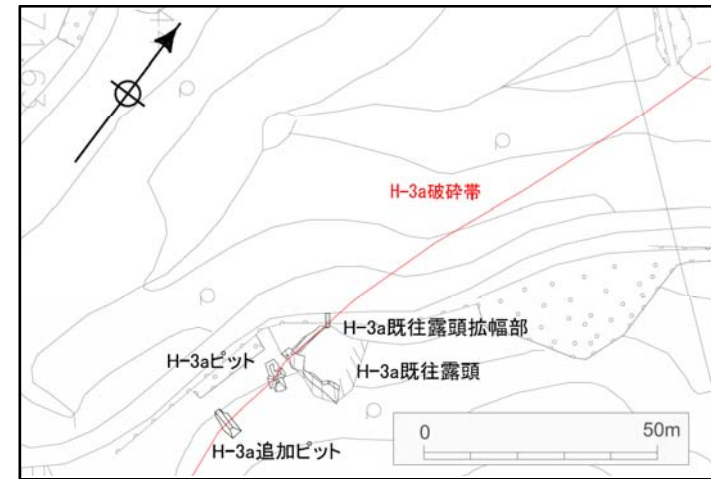
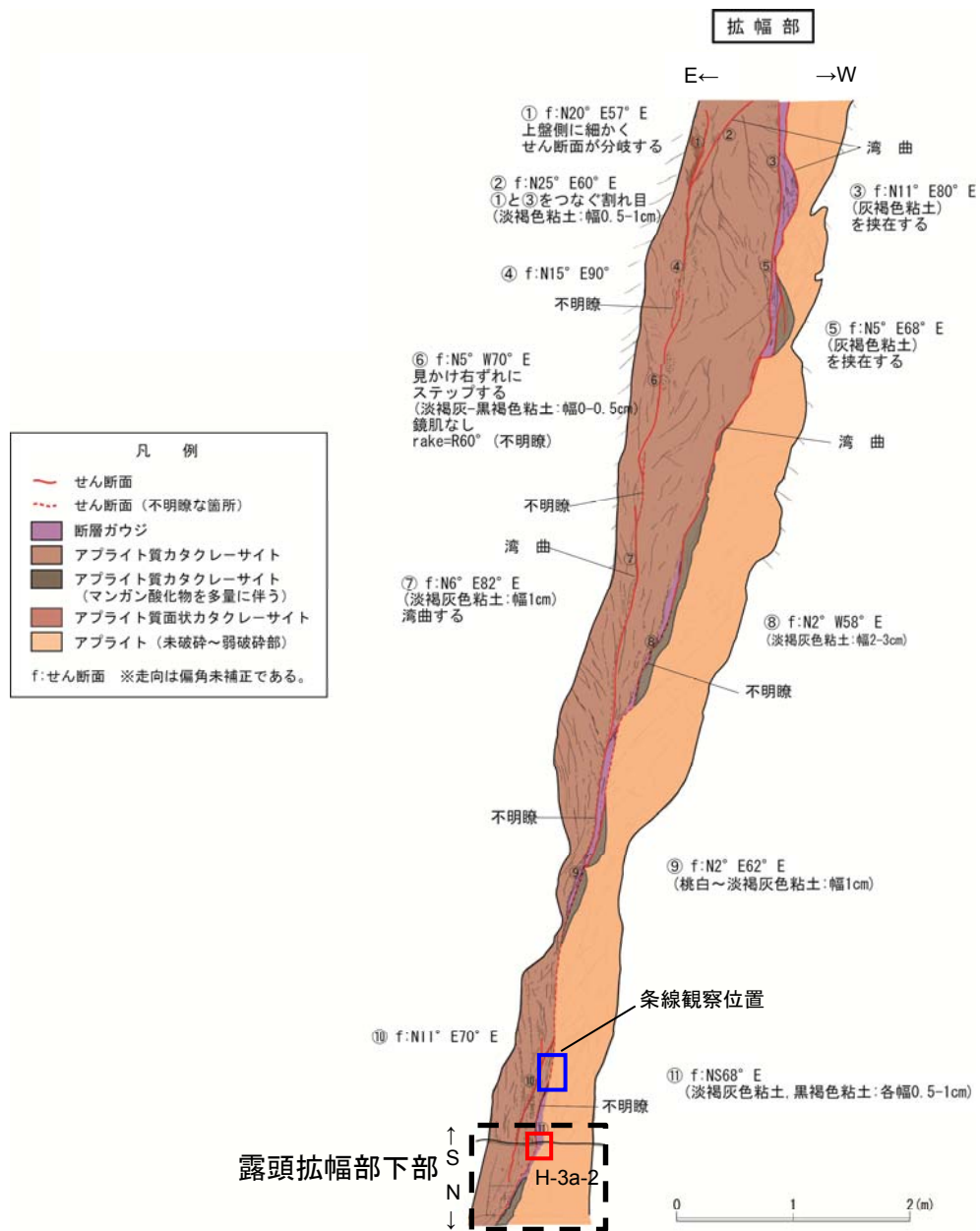


第7.4.4.142図 (1) H-3 a 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (2号炉原子炉建屋南側道路) (その1)



イライト、スメクタイトがカードハウス状を呈する

第7.4.4.142図 (2) H-3 a 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (2号炉原子炉建屋南側道路) (その2)

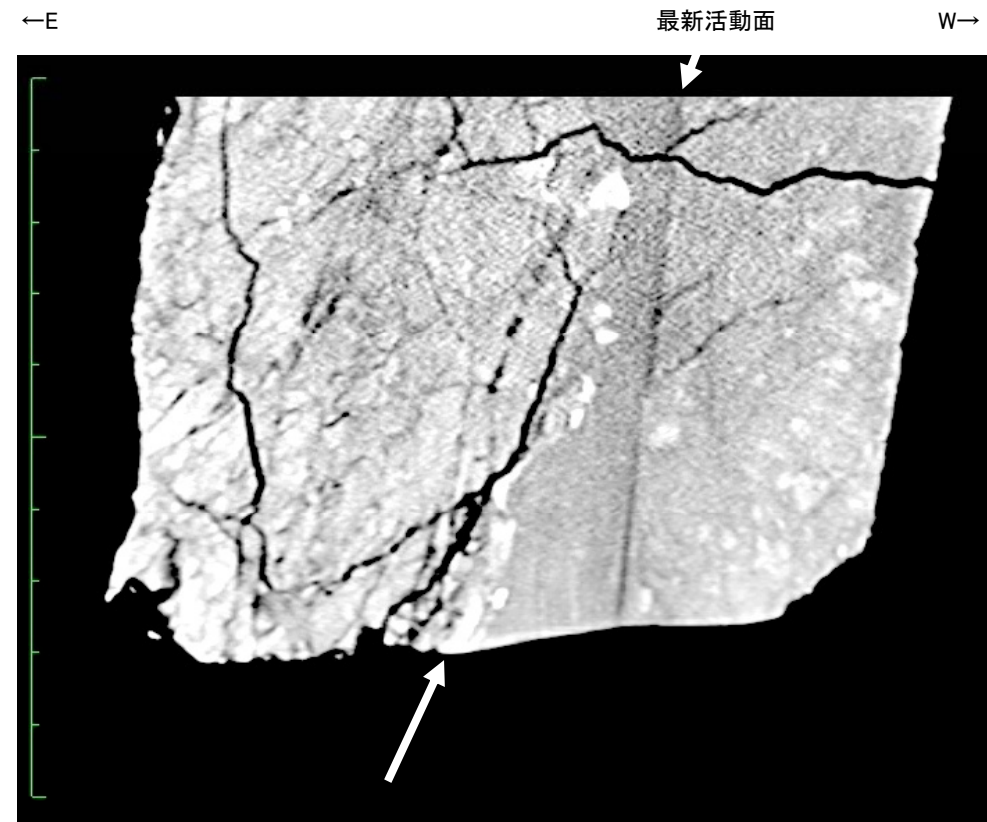


調査位置図

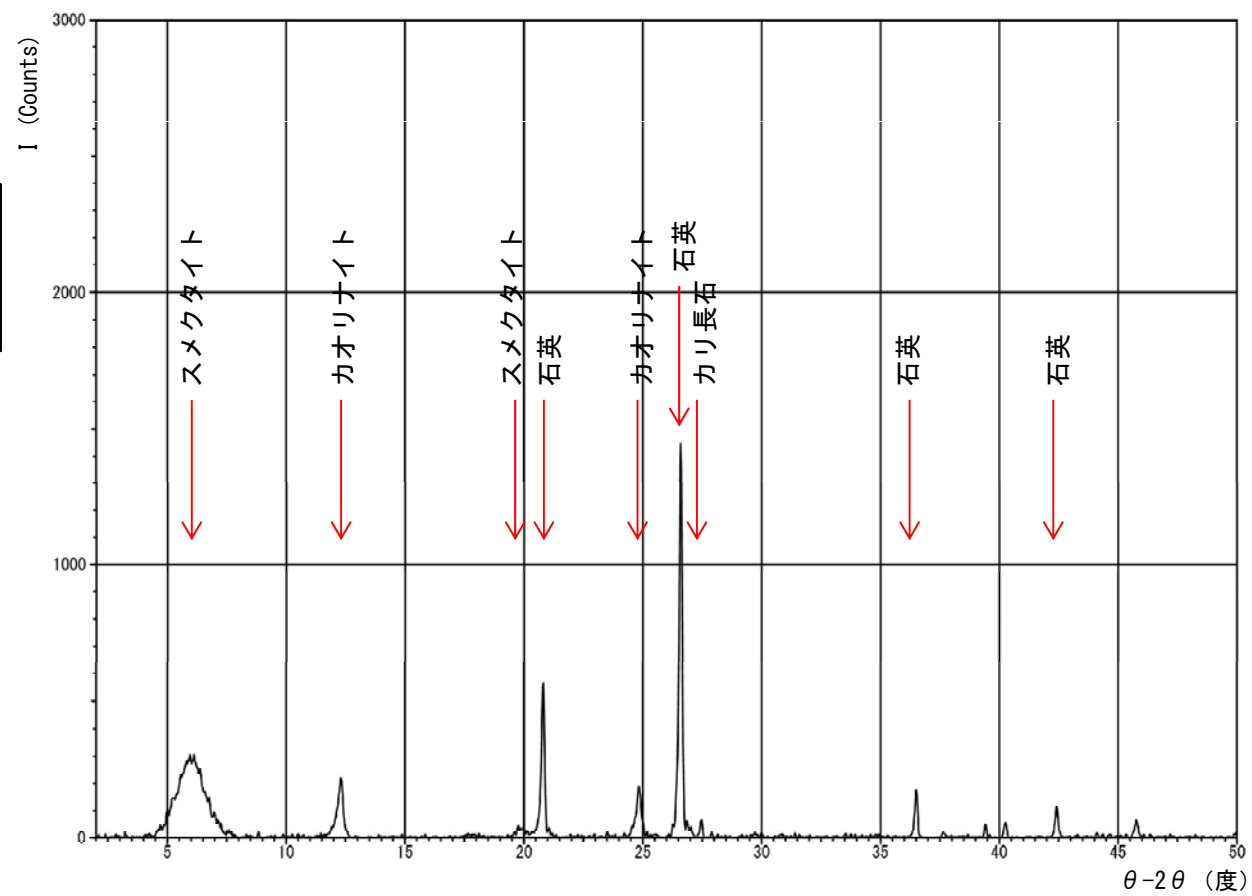
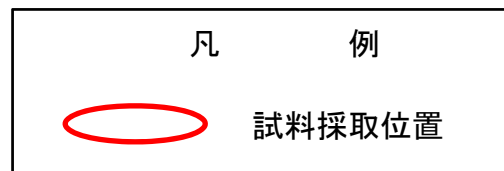


露頭拡幅部下部写真

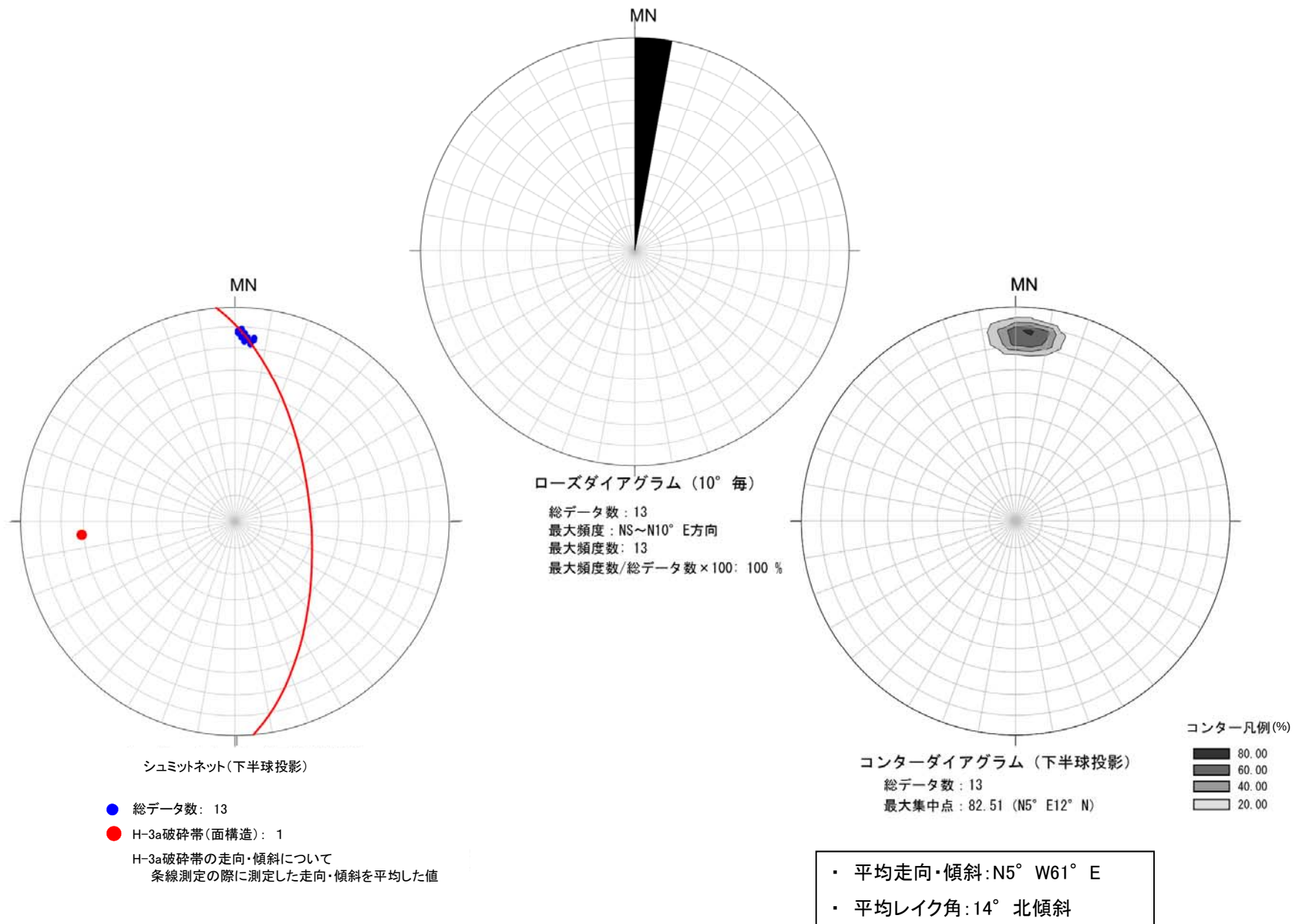
試料番号：H-3a



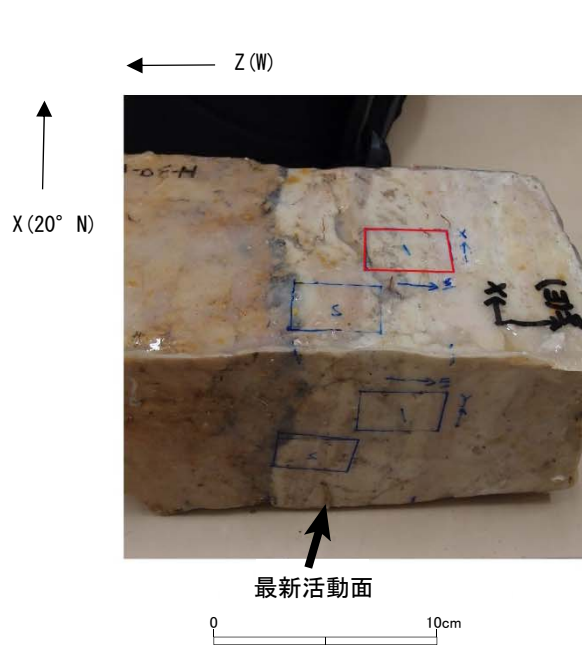
第7.4.4.144図 H-3 a 破碎帯 研磨片試料及びCT画像 (H-3 a 既往露頭)



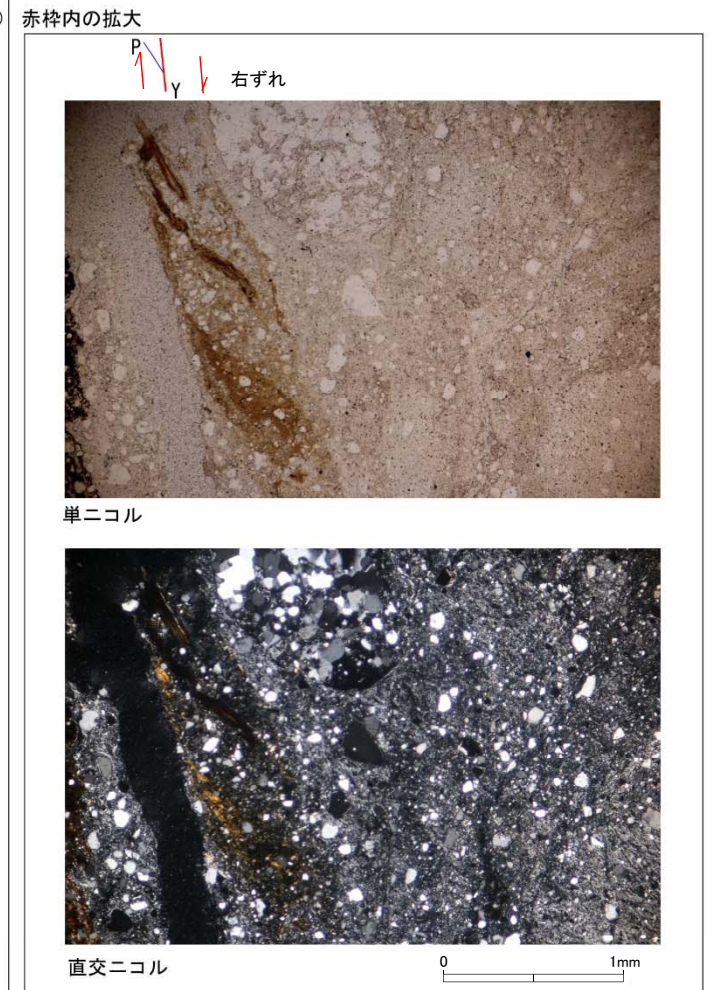
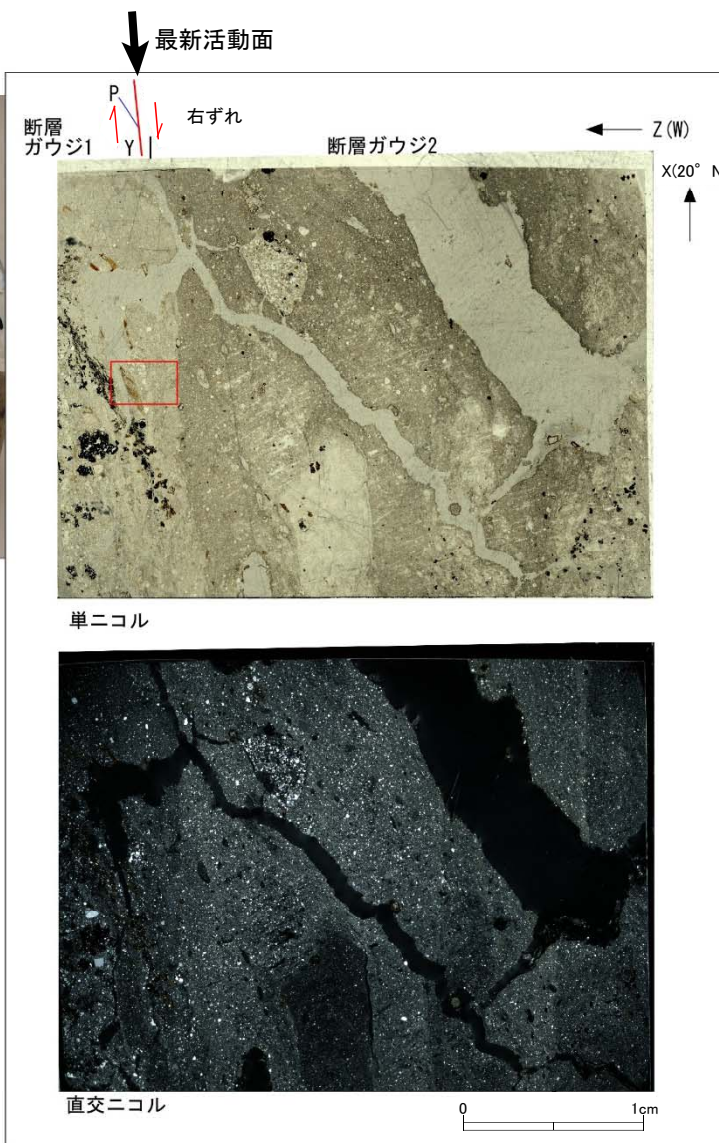
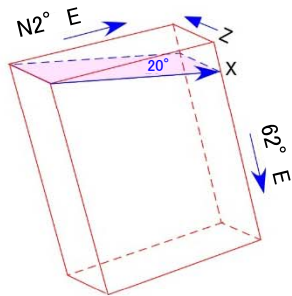
第7.4.4.145図 H-3 a 破碎帯 X線回折分析結果 (H-3 a 既往露頭)



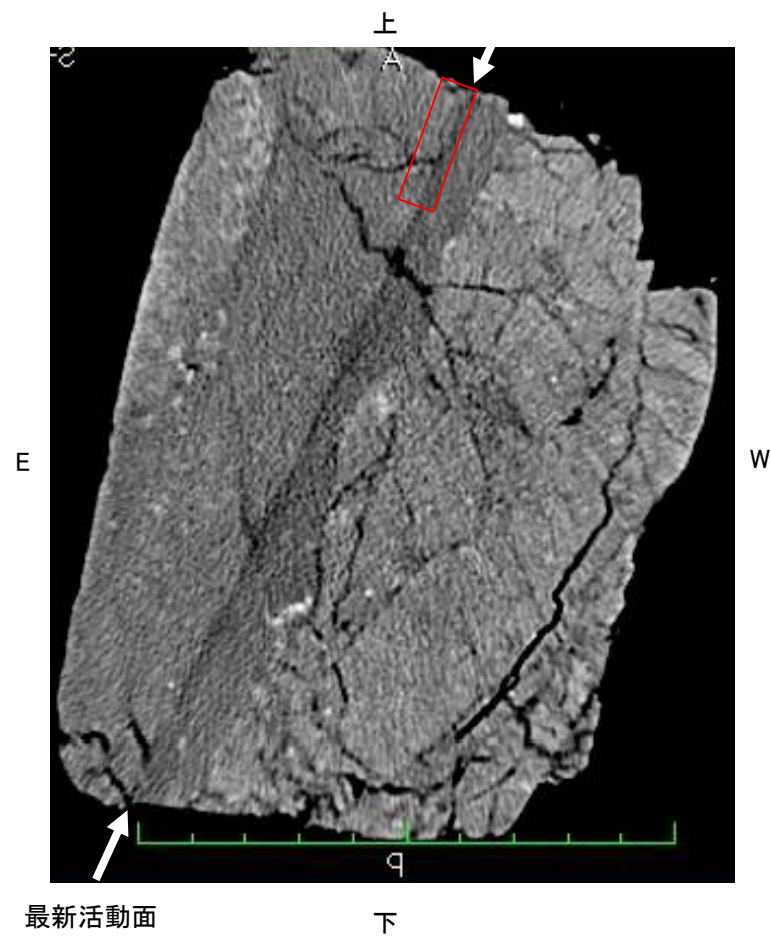
第7.4.4.146 図 H-3 a 破砕帯 条線観察結果 (H-3 a 既往露頭)



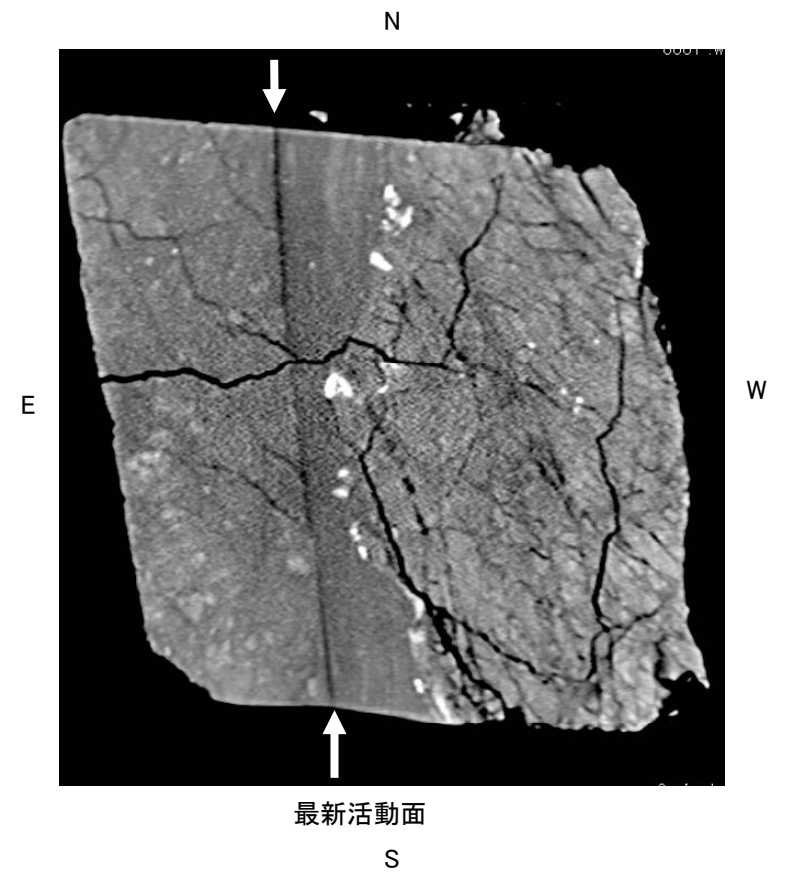
走向・傾斜 N2° E 62° E



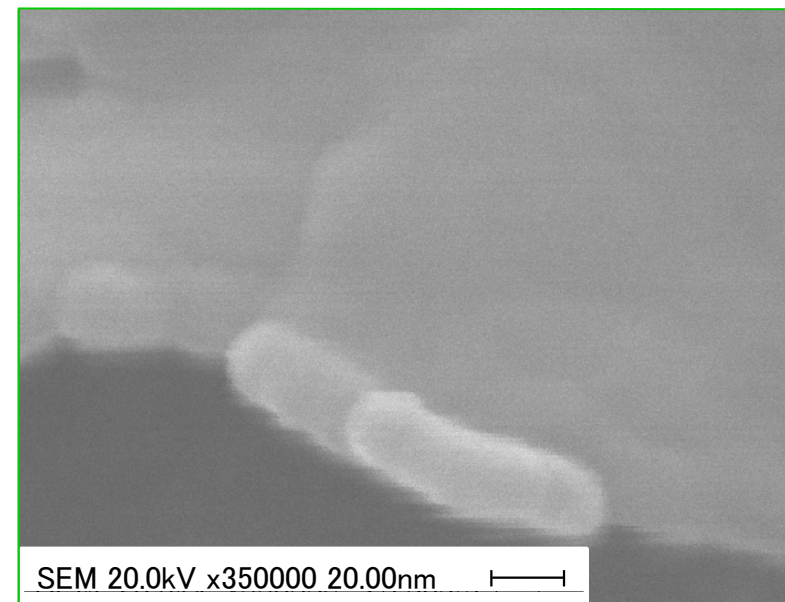
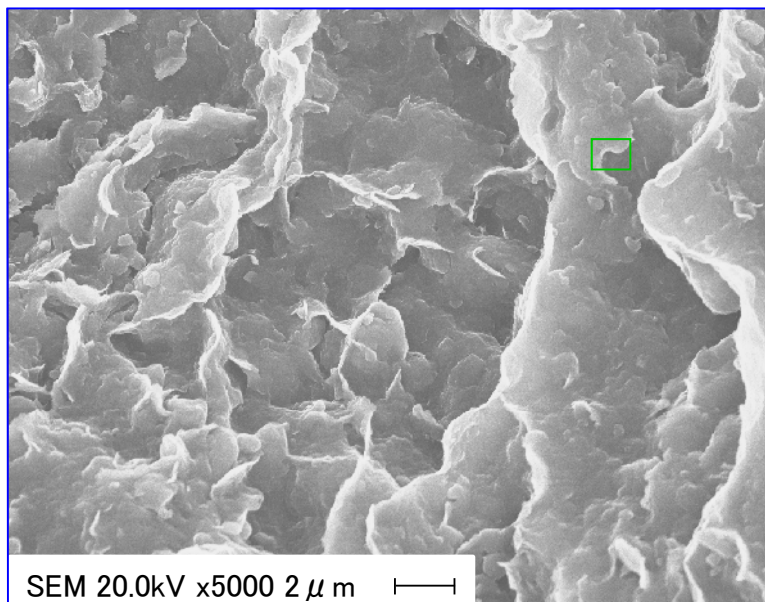
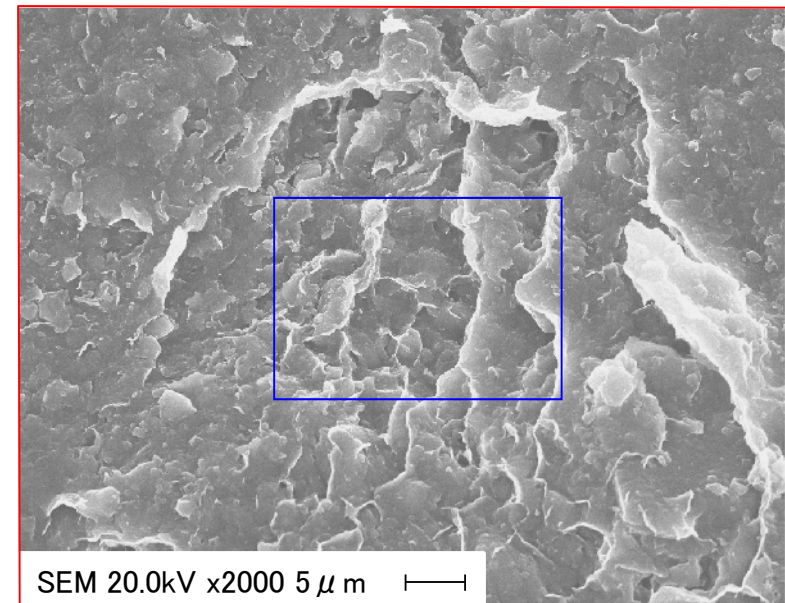
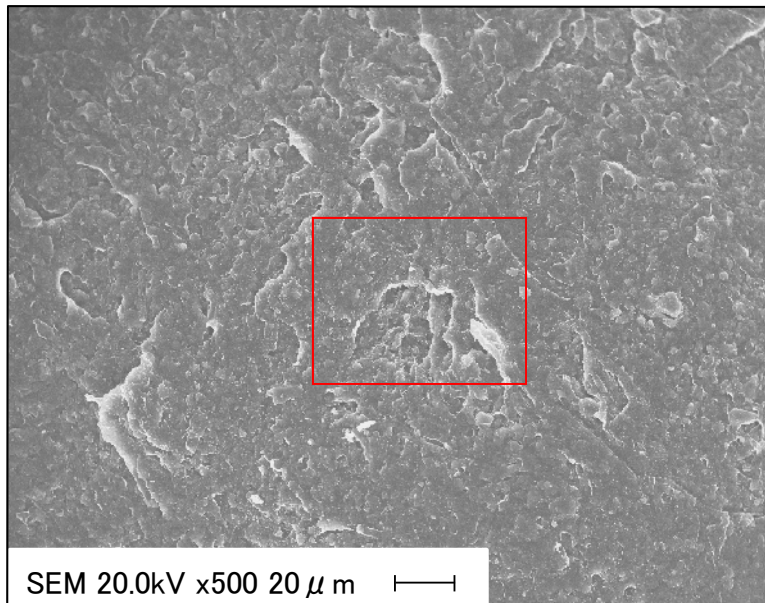
- ・断層ガウジ1(最新活動面)
 褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm~1mmの垂円~垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
 基質には粘土鉱物が多い。P面から右ずれのセンスが判読される。フラグメントは円磨されている
- ・断層ガウジ2
 褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm~7mmの垂円~垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
 基質には粘土鉱物が多い。P面から右ずれのセンスが判読される。フラグメントは円磨されている。



電子顕微鏡観察位置

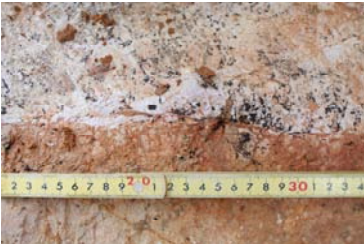
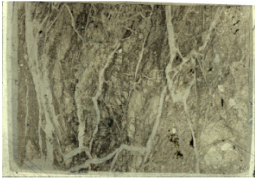
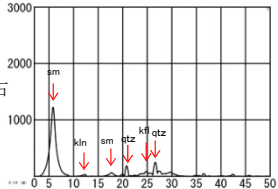
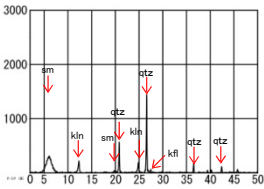


第7.4.4.148図 (1) H-3 a 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (H-3 a 既往露頭) (その1)

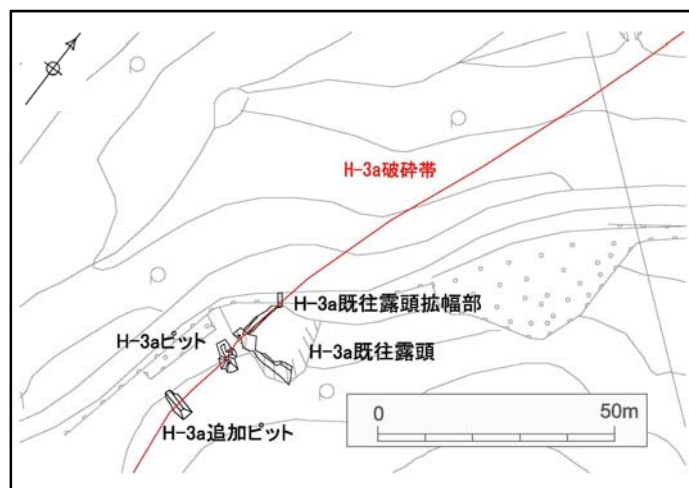


スメクタイト、イライトがカードハウス状を呈する。鉱物の二次成長が認められる。

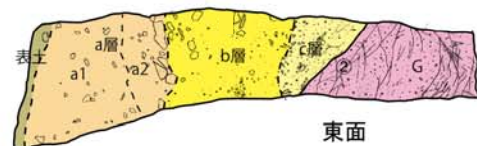
第7.4.4.148図 (2) H-3 a 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (H-3 a 既往露頭) (その2)

性状	H-3a破砕帯			
	2号炉原子炉建屋南側道路	H-3a既往露頭	H-3a露頭拡幅部	H-3a追加ビット
走向・傾斜	NNE-SSW, 高角度西傾斜	N-S, 高角度東傾斜	N-S, 高角度東傾斜	NNE-SSW, 高角度東傾斜
破砕幅	約60cm	約300cm	約100cm	約250cm
断層ガウジの状況				
断層ガウジの色調	灰白色	灰白色, 淡橙色	灰白色, 淡橙色	灰白色, 明赤灰色
断層ガウジの状態	軟らかい	軟らかい	軟らかい	軟らかい
断層ガウジの構造	弱い縞状	弱い縞状	弱い縞状	弱い縞状
断層ガウジの微細構造	- 構成粒子の円形度: 0.3~0.4程度(亜円礫状) - 面構造が弱い 	- 構成粒子の円形度: 0.4程度(亜円礫状) - 面構造が弱い 	- 構成粒子の円形度: 0.4程度(亜円礫状) - 面構造が弱い 	—
変位センス	右ずれ	右ずれ	右ずれ	—
X線回折分析	・スメクタイト, カオリナイト, 石英, カリ長石を含む。 	・スメクタイト, カオリナイト, 石英, カリ長石を含む。 	—	—

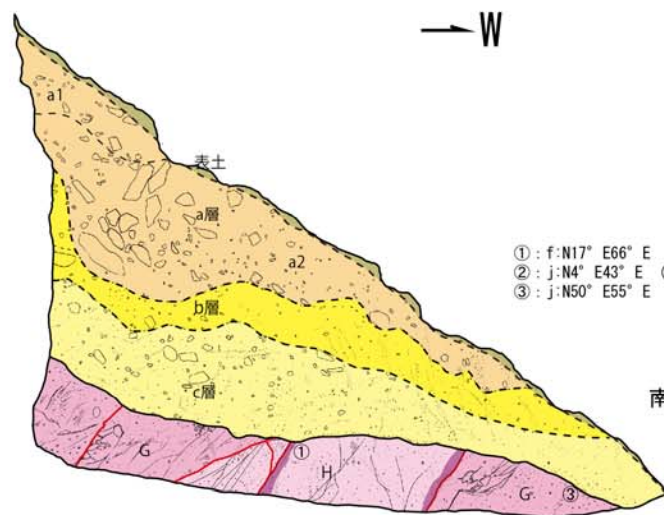
第7.4.4.149図 H-3a破砕帯 性状整理表



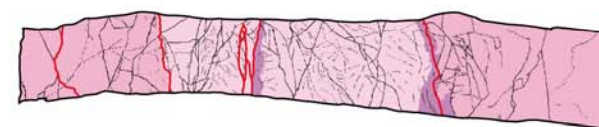
調査位置図



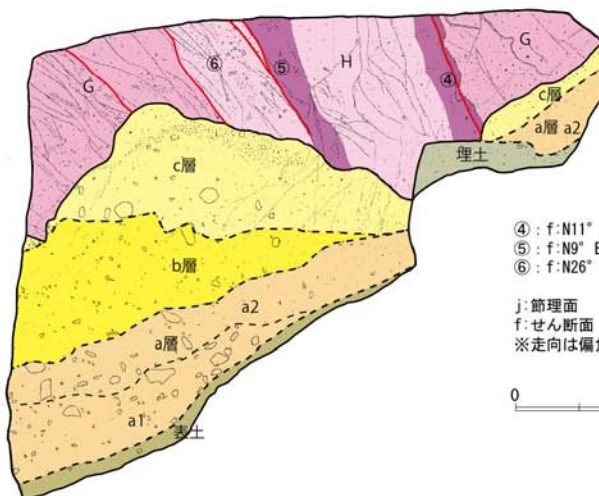
東面



南面



底盤



北面

凡 例	
	埋土
	表土
	a層
	b層
	c層
	花崗斑岩
	カタクレーサイト
	熱水変質部
	せん断面

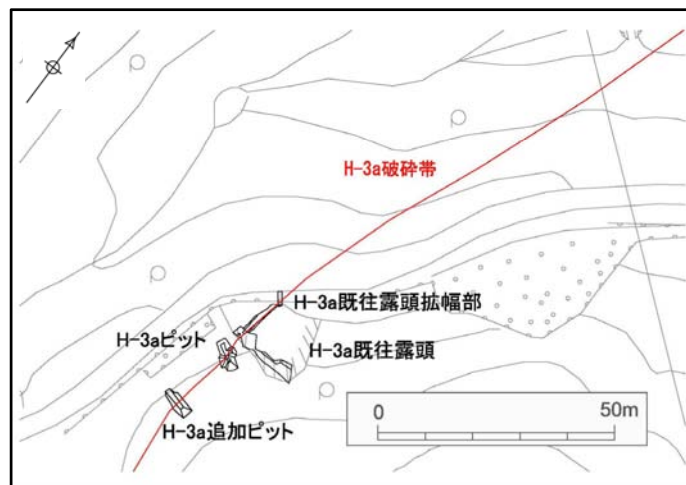
- ① : f: N17° E66° E (明赤灰～灰白(5YR7/1～5YR8/1):幅15～20mm)
 ② : j: N4° E43° E (灰白(10YR8/2):幅2mm)
 ③ : j: N50° E55° E (黄橙～浅黄橙(10YR8/8～8/6):幅1～2mm)

- ④ : f: N11° E70° E (明赤灰～灰白(5YR7/1～5YR8/1):幅15～50mm)
 ⑤ : f: N9° E57° E (明赤灰～灰白(5YR7/1～2/8):幅7～20mm)
 ⑥ : f: N26° E43° E (黄橙(7.5YR7/8):幅3～5mm)

j: 節理面
 f: せん断面
 ※走向は偏角未補正である。

埋土: 黄褐～にぶい黄褐(10YR5/8～5/4)。下位層のものを不規則に含む。
 a層: シルト質砂礫層。明赤褐～明褐(5YR5/8～7.5YR5/8)。礫は径5～30cmの垂円礫～
 亜角礫を主体とする。a1は、基質の締りが悪い。a2は、基質の締りがよい。
 b層: 礫混じり砂層。明黄褐～黄褐(10YR6/8～5/8)。礫は半クサリ礫を含む。
 c層: 礫質砂層。浅黄橙～浅黄(10YR8/4～2.5YR8/4)。部分的に有色鉱物に富んだ礫が混じる。
 下部は斑状の模様を呈する。
 G : 花崗斑岩。灰白～浅黄橙(10YR8/2～8/3)。全体に東傾斜の割れ目が発達。
 H : 熱水変質部。灰白色(10YR8/2)。全体に軟質である。

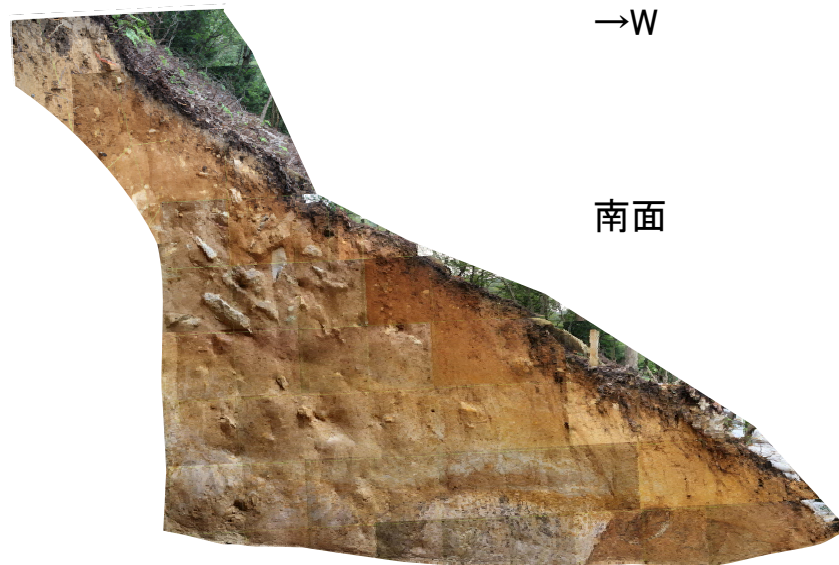
第7.4.4.150図 (1) H-3a 破碎帯 ビット調査 (H-3a 追加ビット) (その1)



調査位置図

←E

→W



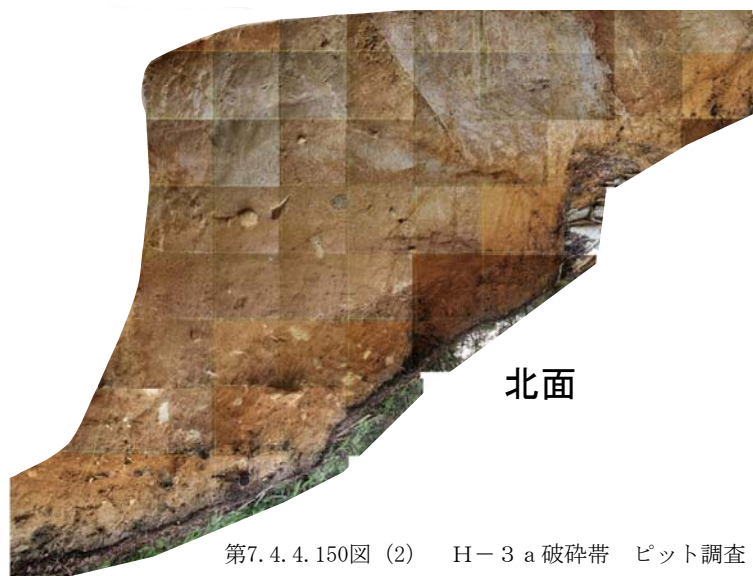
南面



東南面



底盤



北面

第7.4.4.150図(2) H-3a 破碎帯 ビット調査 (H-3a 追加ビット) (その2)

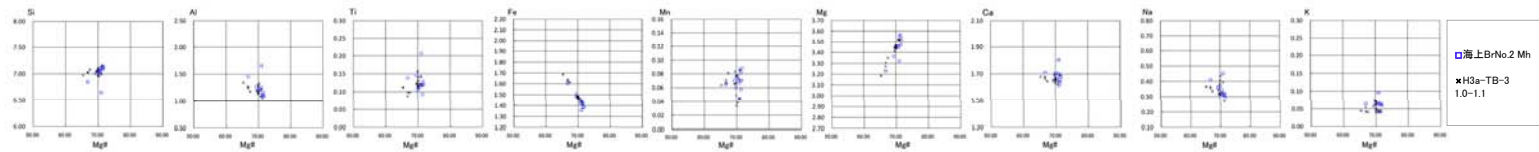
普通角閃石

(試料番号)

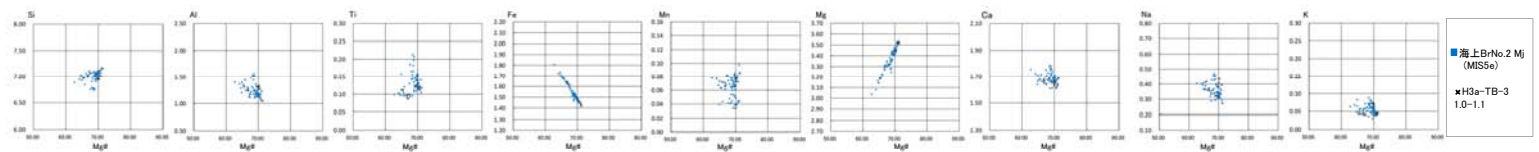
H3a-TB-3

試料番号	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β 石英 (/3000粒子)
	Opx 1 0 2	GHo 1 0 2 0	Cum 0 1 0 2	
2.2-2.3				
2.1-2.2				
2.0-2.1				
1.9-2.0				
1.8-1.9				
1.7-1.8				
1.6-1.7				
1.5-1.6				
1.4-1.5				
1.3-1.4				
1.2-1.3				
1.1-1.2				
1.0-1.1				
0.9-1.0				
0.8-0.9				
0.7-0.8				
0.6-0.7				
0.5-0.6				
0.4-0.5				
0.3-0.4				
0.2-0.3				
0.1-0.2				
0.0-0.1				

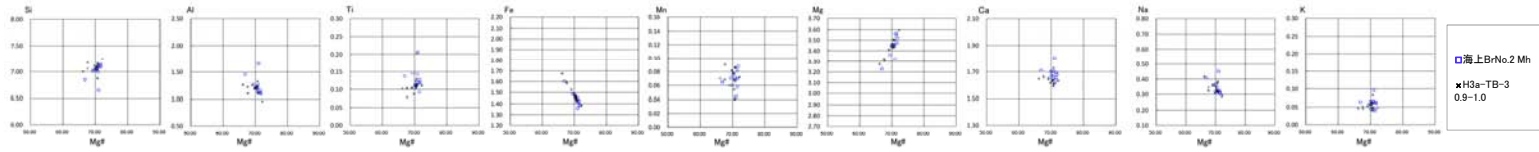
1.0-1.1m



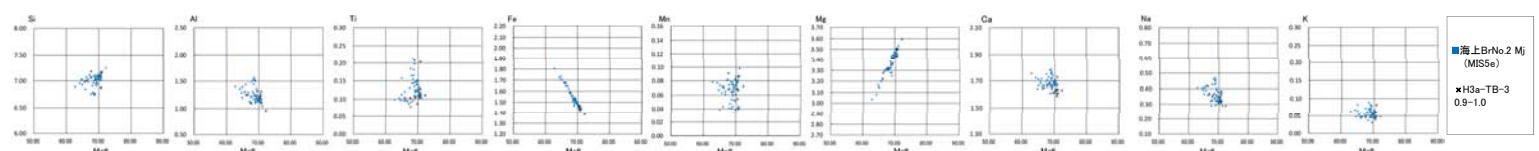
1.0-1.1m



0.9-1.0m



0.9-1.0m



● :主成分分析実施箇所

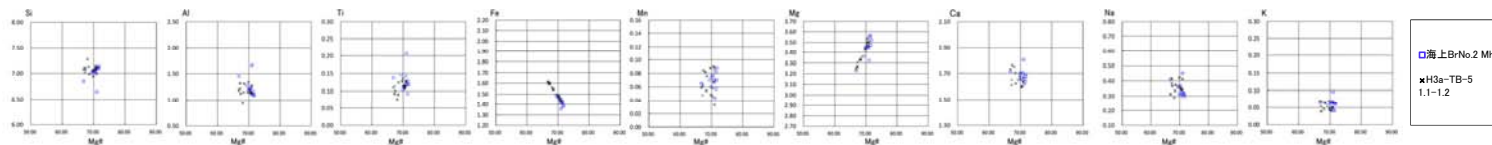
普通角閃石

(試料番号)

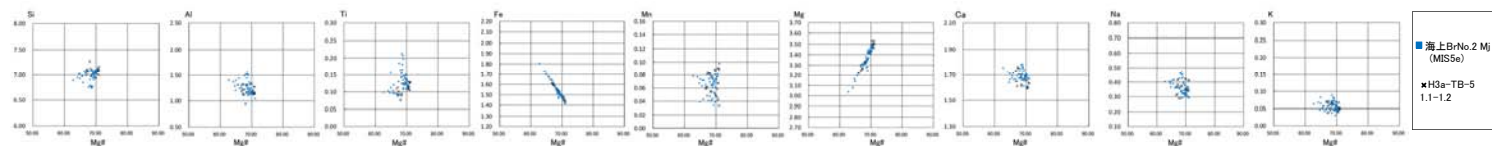
H3a-TB-5

試料番号	重鉱物の含有量 (/3000粒子)						β 石英 (/3000粒子)
	Opx		GHo		Cum		
	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	
1.6-1.7							3
1.5-1.6							6
1.4-1.5							6
1.3-1.4							1
1.2-1.3							1
1.1-1.2							
1.0-1.1							
0.9-1.0							
0.8-0.9							
0.7-0.8							
0.6-0.7							
0.5-0.6							
0.4-0.5							
0.3-0.4							
0.2-0.3							
0.1-0.2							
0.0-0.1							

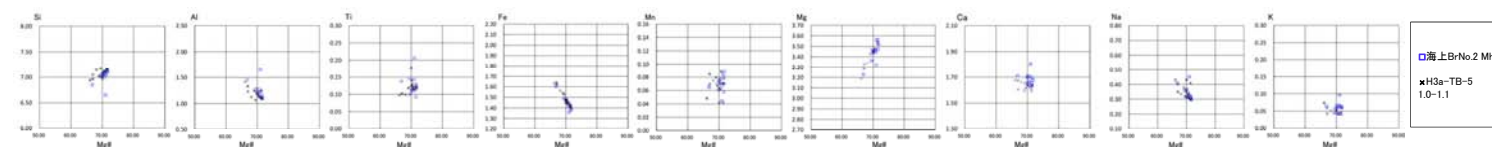
1.1-1.2m



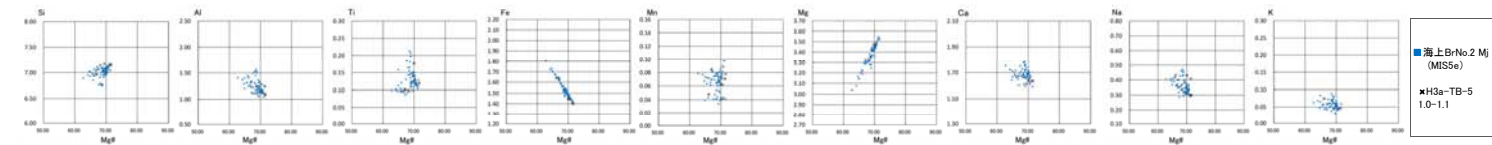
1.1-1.2m



1.0-1.1m



1.0-1.1m



● :主成分分析実施箇所

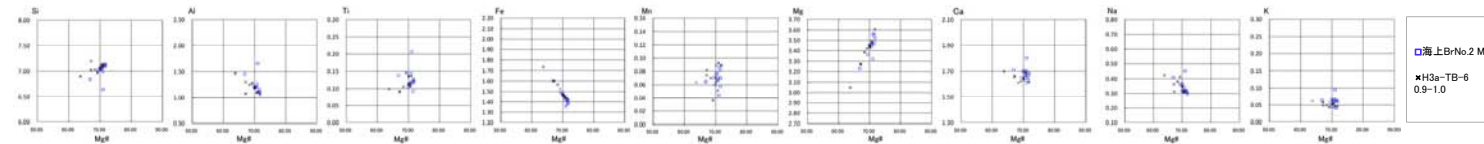
普通角閃石

H3a-TB-6

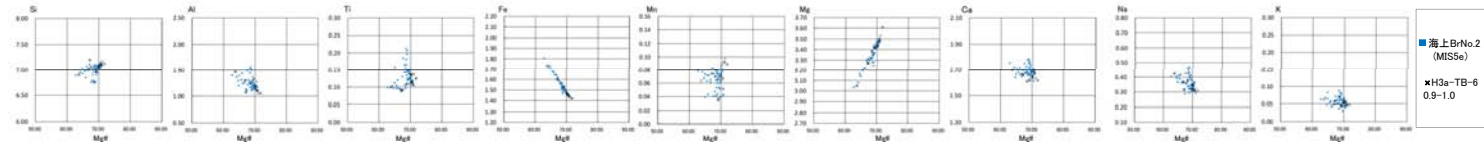
試料番号	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β 石英 (/3000粒子)
	Opx 0.1 0.2	GHo 0.1 0.2	Cum 0.1 0.2	
1.5-1.6				
1.4-1.5				
1.3-1.4				
1.2-1.3				
1.1-1.2				
1.0-1.1				
0.9-1.0				
0.8-0.9				
0.7-0.8				
0.6-0.7				
0.5-0.6				
0.4-0.5				
0.3-0.4				
0.2-0.3				
0.1-0.2				
0.0-0.1				

(試料番号)

0.9-1.0m



0.9-1.0m



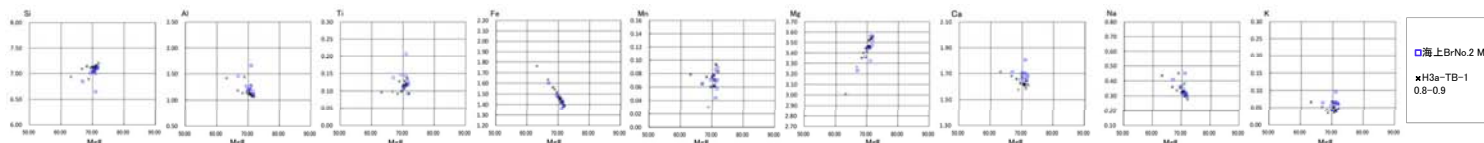
普通角閃石

H3a-TB-1

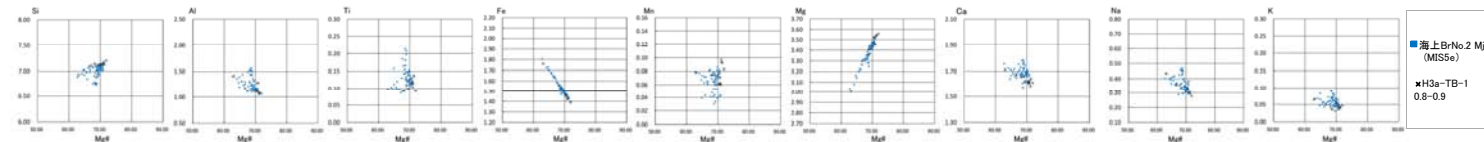
試料番号	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β 石英 (/3000粒子)
	Opx 0.1 0.2	GHo 0.1 0.2	Cum 0.1 0.2	
1.10-1.20				
1.00-1.10				
0.90-1.00				
0.80-0.90				
0.70-0.80				
0.60-0.70				
0.50-0.60				
0.40-0.50				
0.30-0.40				
0.25-0.30				
0.20-0.25				
0.15-0.20				
0.10-0.15				
0.05-0.10				
0.00-0.05				

(試料番号)

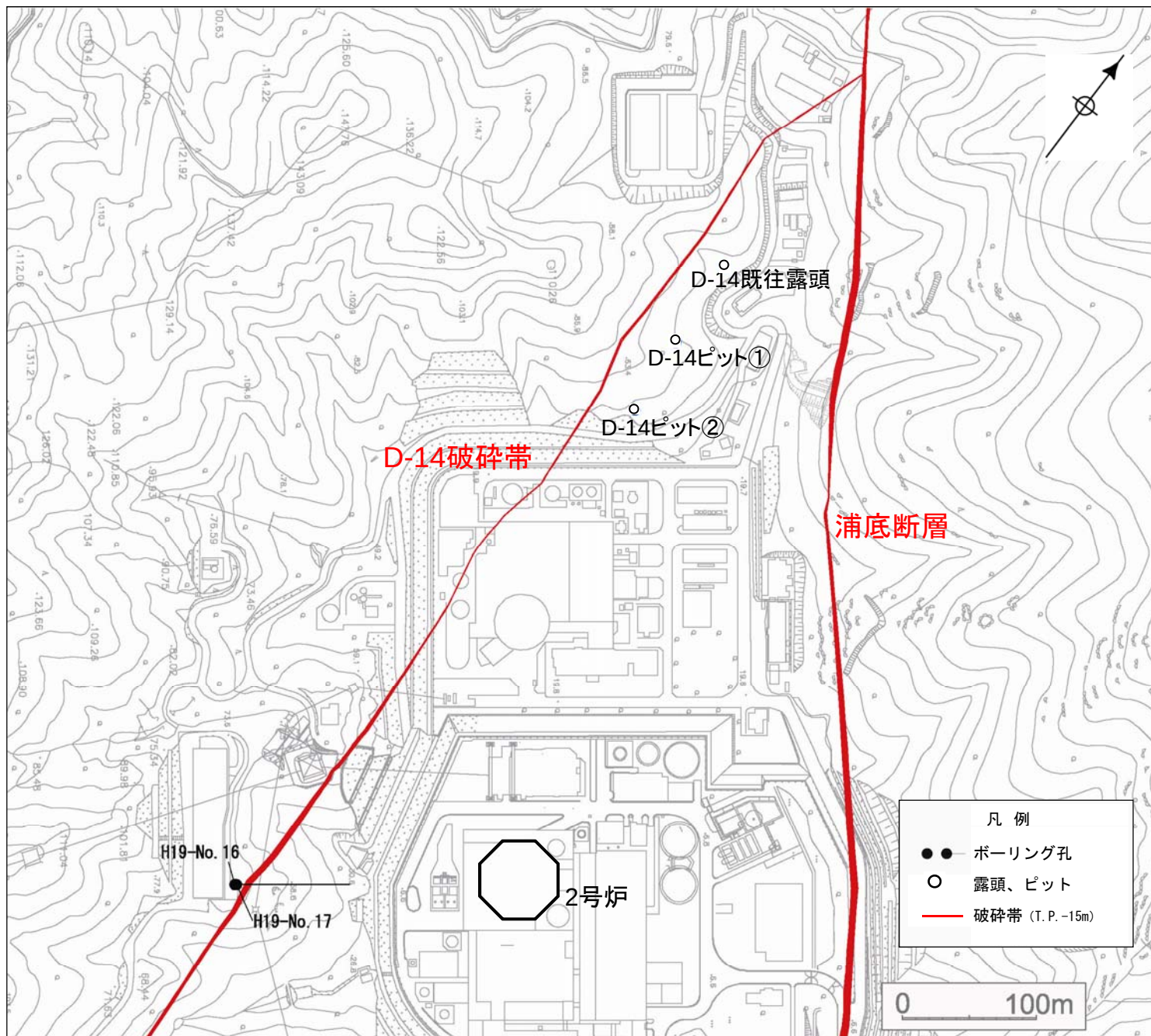
0.8-0.9m



0.8-0.9m



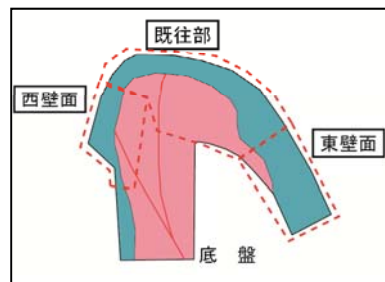
● :主成分分析実施箇所



第7.4.4.152図 D-14破碎帯 調査位置図
6-7-4-990

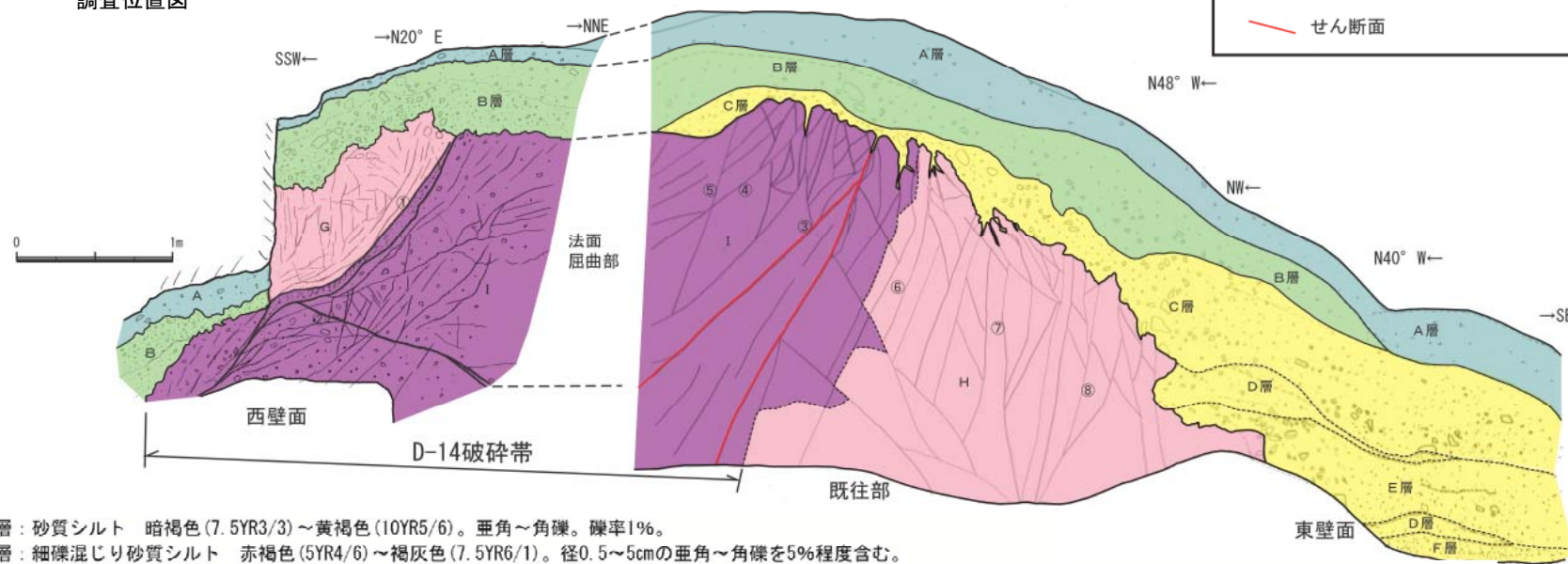
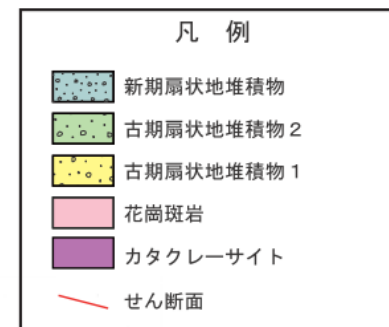


調査位置図



露頭見取図

露頭面の方向
→N80° E



A層：砂質シルト 暗褐色(7.5YR3/3)～黄褐色(10YR5/6)。垂角～角礫。礫率1%。

B層：細礫混じり砂質シルト 赤褐色(5YR4/6)～褐灰色(7.5YR6/1)。径0.5～5cmの垂角～角礫を5%程度含む。

C層：砂質シルト～細礫混じり砂質シルト 明褐色(7.5YR5/6)～赤褐色(5YR4/6)。径0.5～5cmの垂角～角礫を5～20%程度含む。
露頭上部が砂質シルトで、東壁面へ礫率が高くなる。

D層：細礫混じりシルト 灰白色(5Y7/2)。径1cm以下の角礫を20～30%含む。

E層：細礫混じり砂質シルト にぶい黄褐色(10YR7/4)。径0.5～10cmの角礫を30～40%含む。

F層：細礫混じり砂 明黄褐色(2.5Y7/6)。径0.5cm程度の鉱物片(主に石英)を5～10%含む。ほぼ水平な流理を示す。

G：花崗斑岩(風化部) 割れ目によって岩片状に崩れる。

H：花崗斑岩

I：花崗斑岩質カタクレーサイト

① f: N5° W75° W

② f: N43° E52° N (褐灰色粘土：幅1～2cm)

③ f: N16° E46° W (淡褐灰色粘土：幅0.1～0.5cm)

④ j: NS 30° W

⑤ j: N14° E66° W

⑥ j: N52° E79° W

⑦ j: N29° E83° W f: せん断面

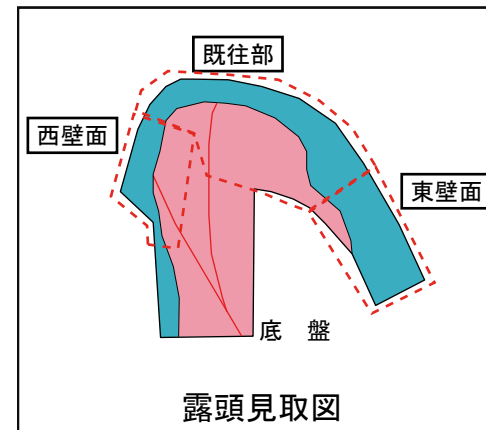
⑧ j: N47° E81° W j: 節理面

※走向は偏角未補正である。

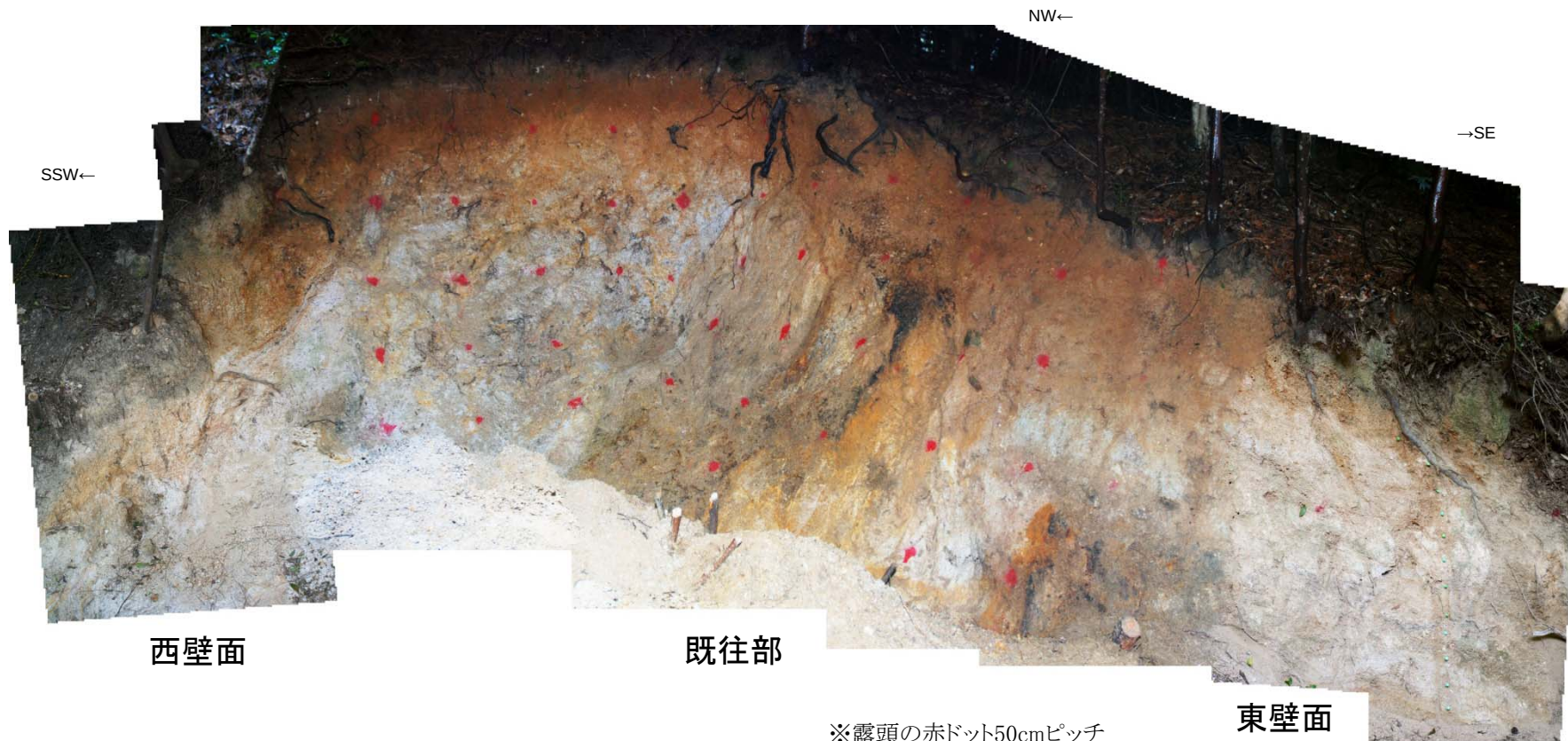


調査位置図

→NNE



露頭見取図



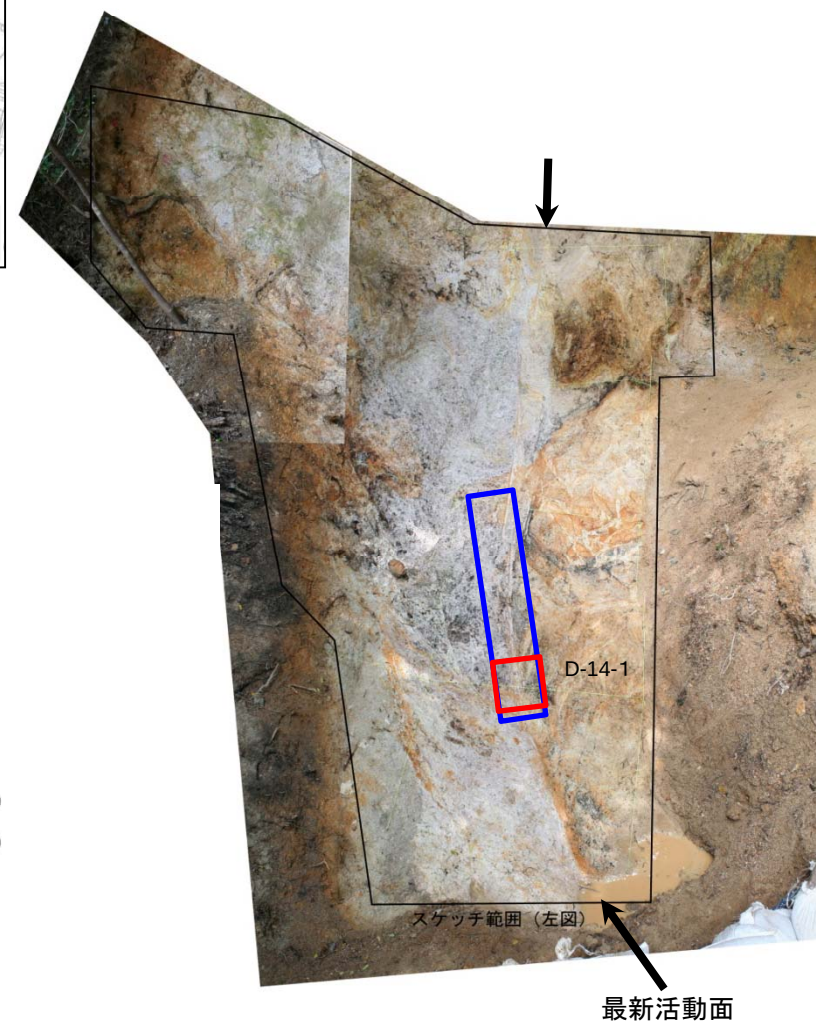
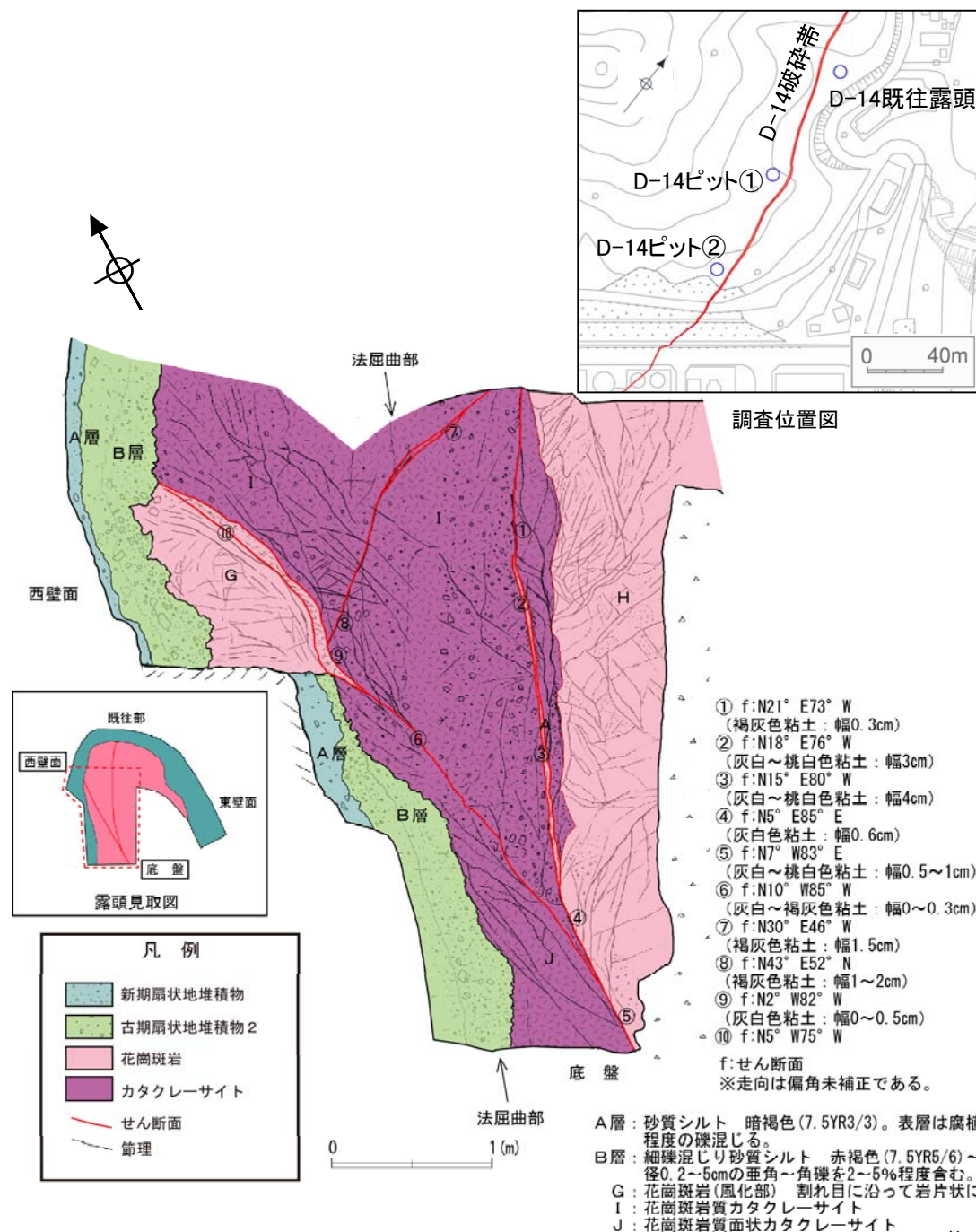
西壁面

既往部

東壁面

※露頭の赤ドット50cmピッチ

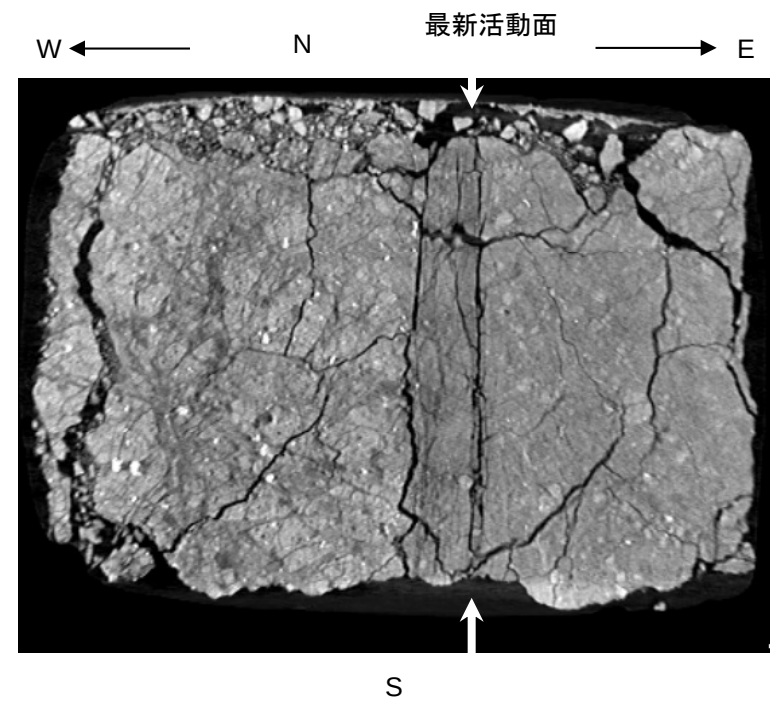
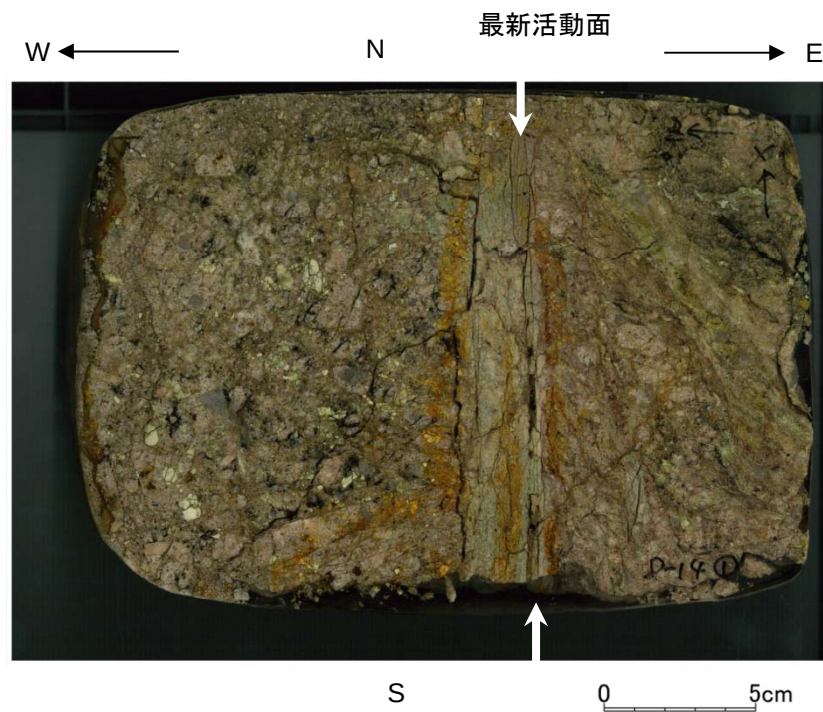
第7.4.4.153図(2) D-14 破砕帯 露頭調査結果 (D-14 既往露頭) (その2)



条線観察位置

ブロックサンプリング位置

第7.4.4.153図(3) D-14破砕帯 露頭調査結果(D-14既往露頭)(その3)



第7.4.4.154図 D-14 破碎帯 研磨片試料及びC T画像 (D-14 既往露頭)

SSW← →NNE

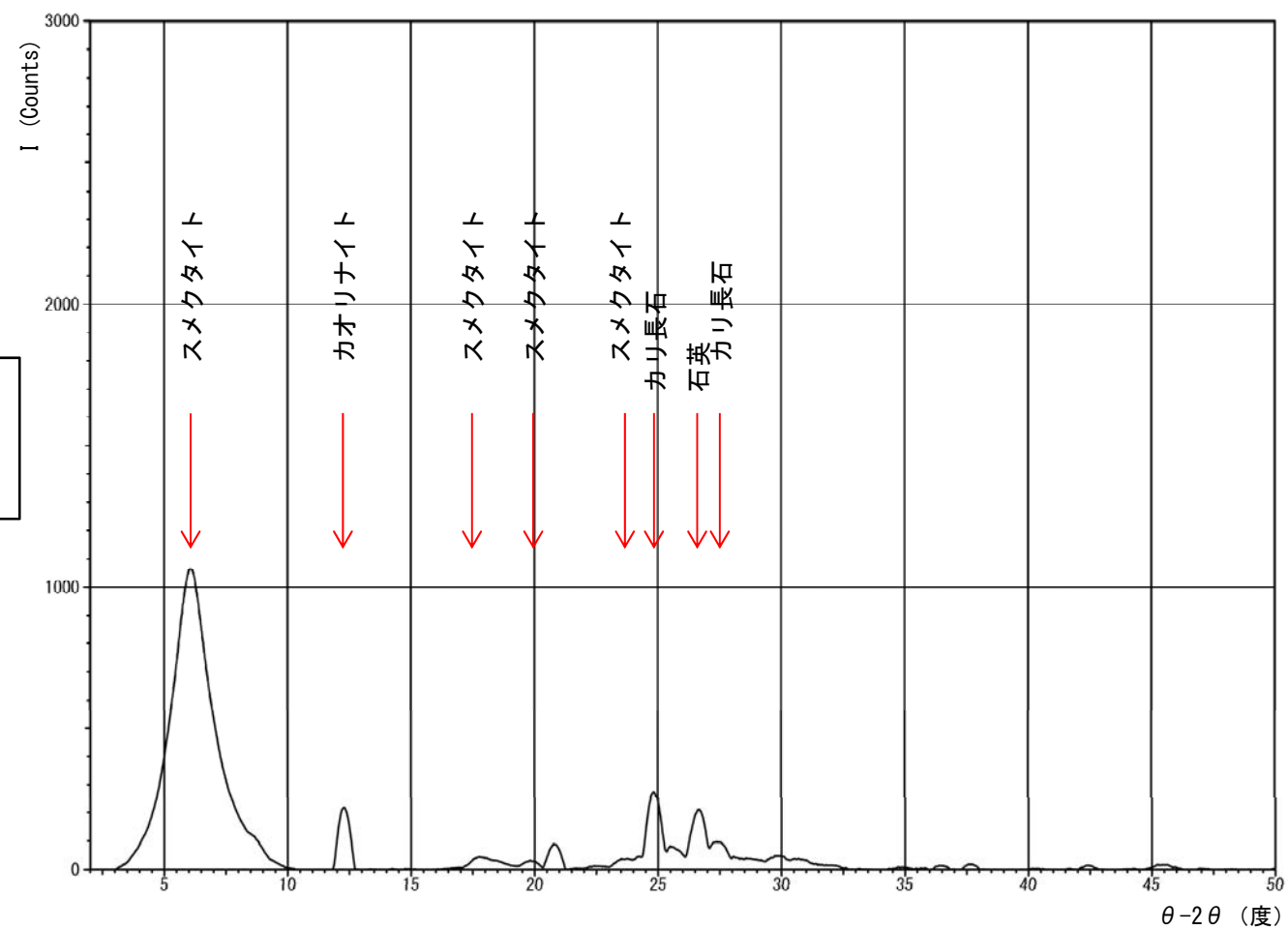


0 50cm

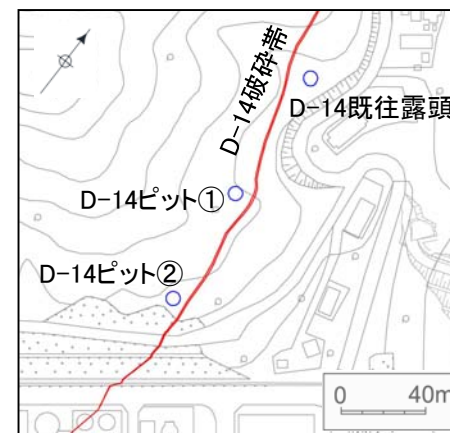
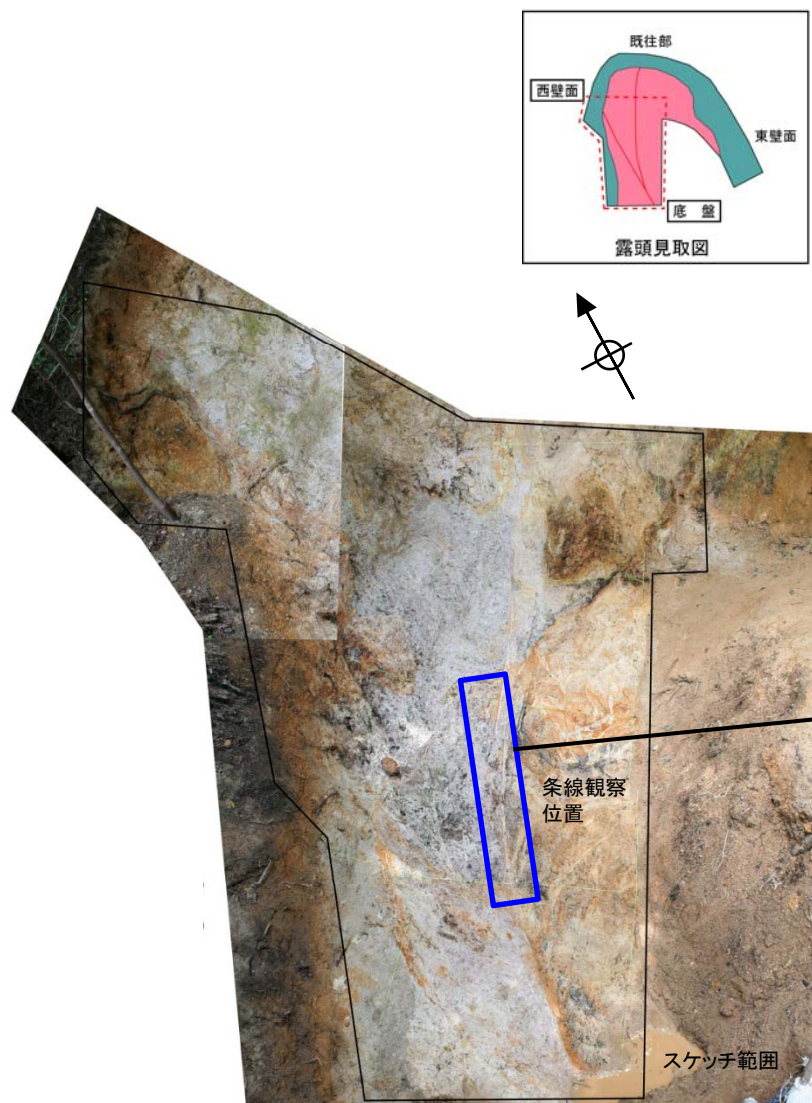
凡 例



試料採取位置



第7.4.4.155図 D-1 4 破碎帯 X線回折分析結果 (D-1 4 既往露頭)



調査位置図

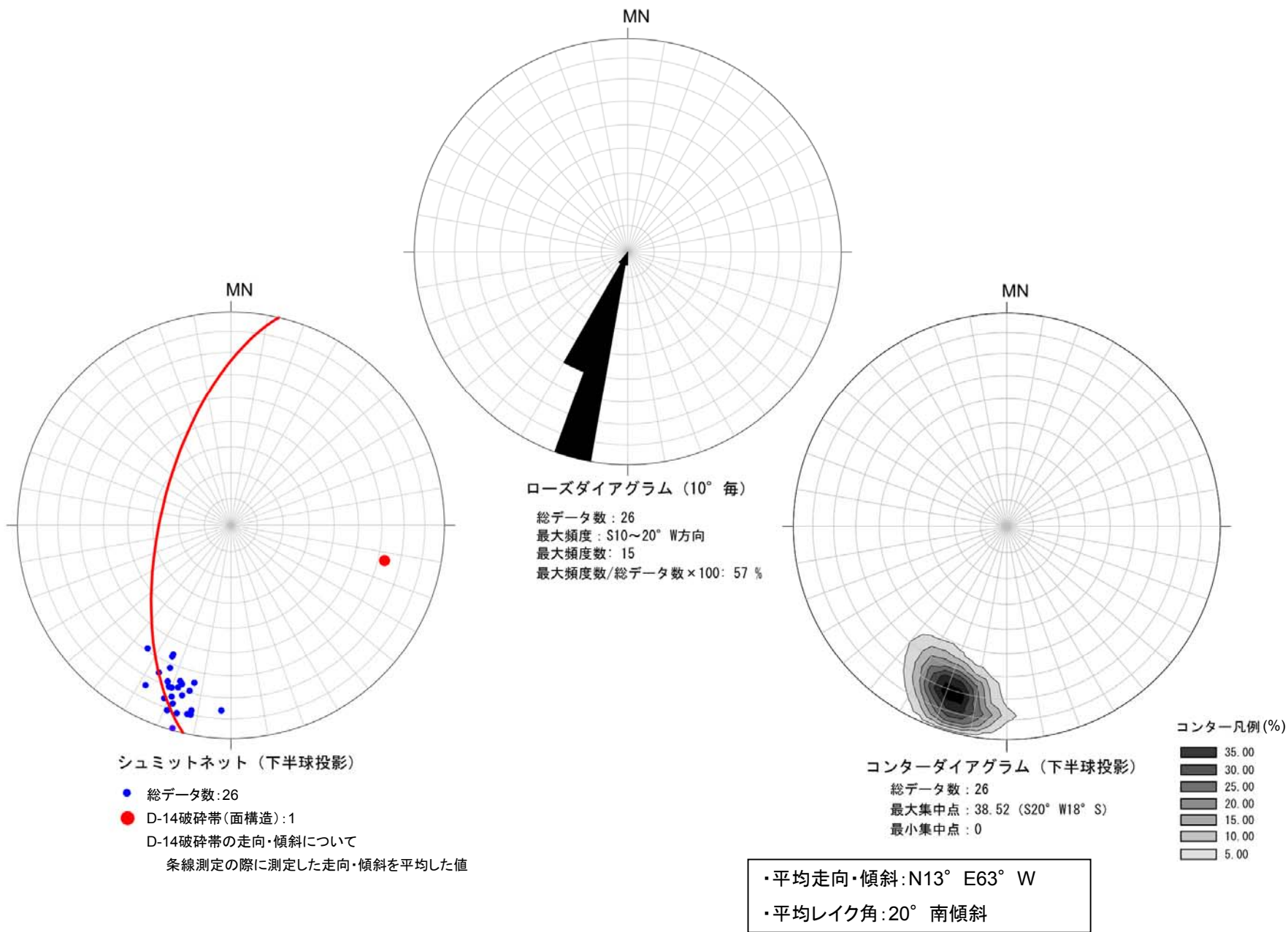
N ←

→ S

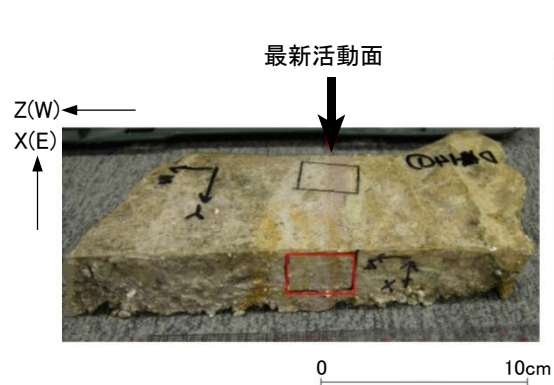


条線の例

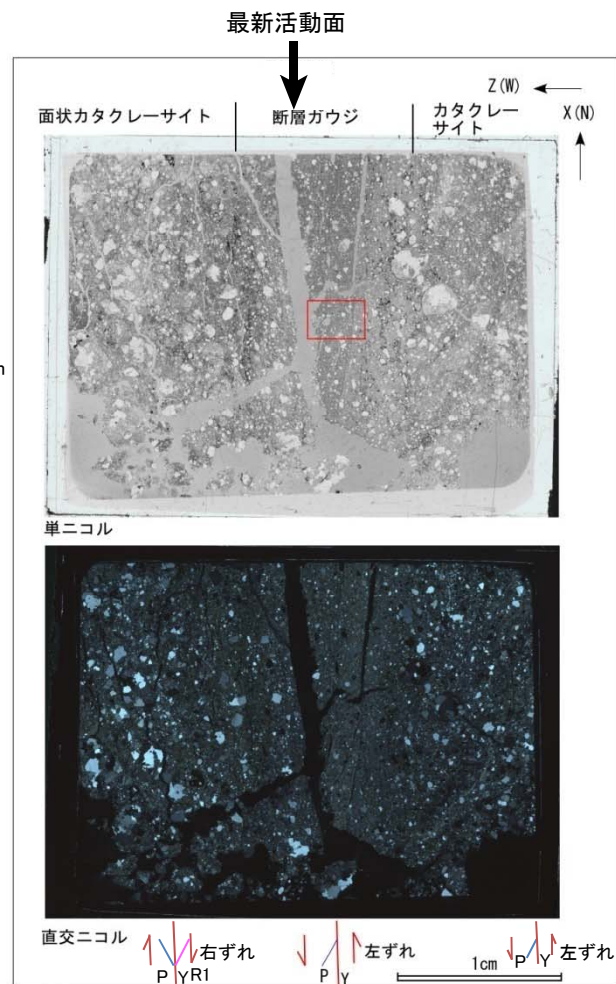
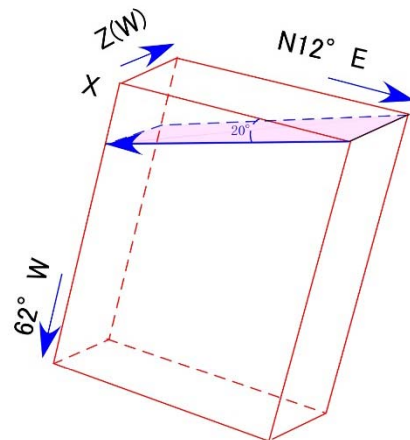
- ・ 走向・傾斜 : N12° E62° W
- ・ レイク角 : 23° 南傾斜



第7.4.4.156図 (2) D-14破砕帯 条線観察結果 (D-14既往露頭) (その2)



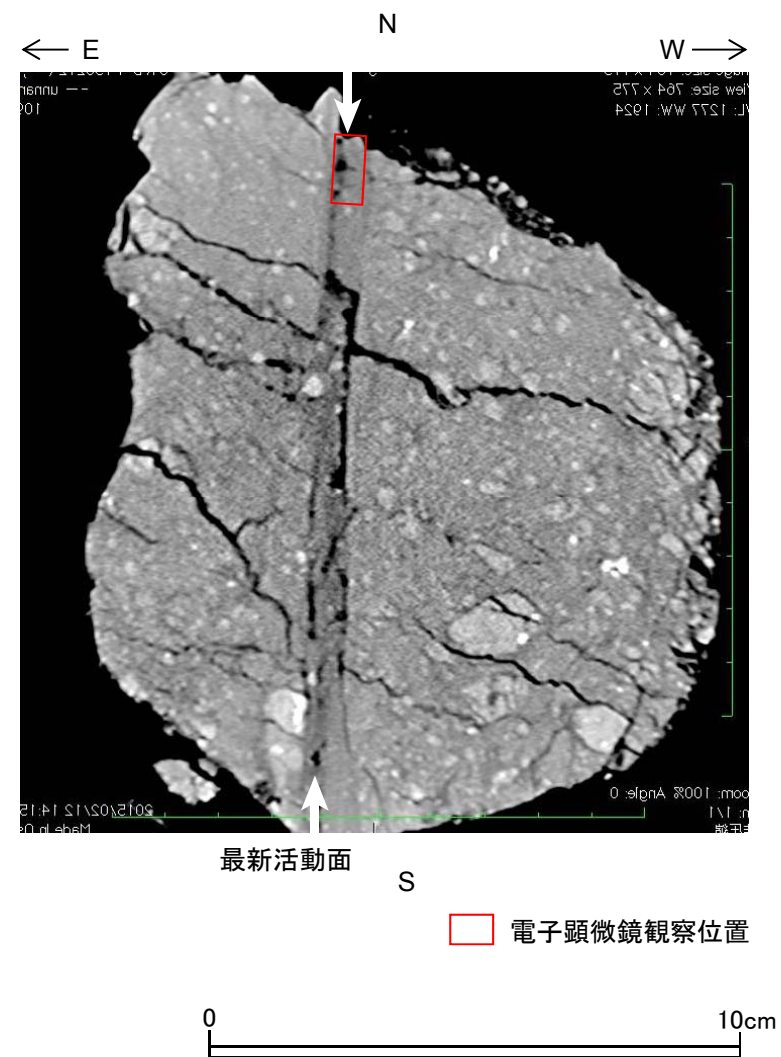
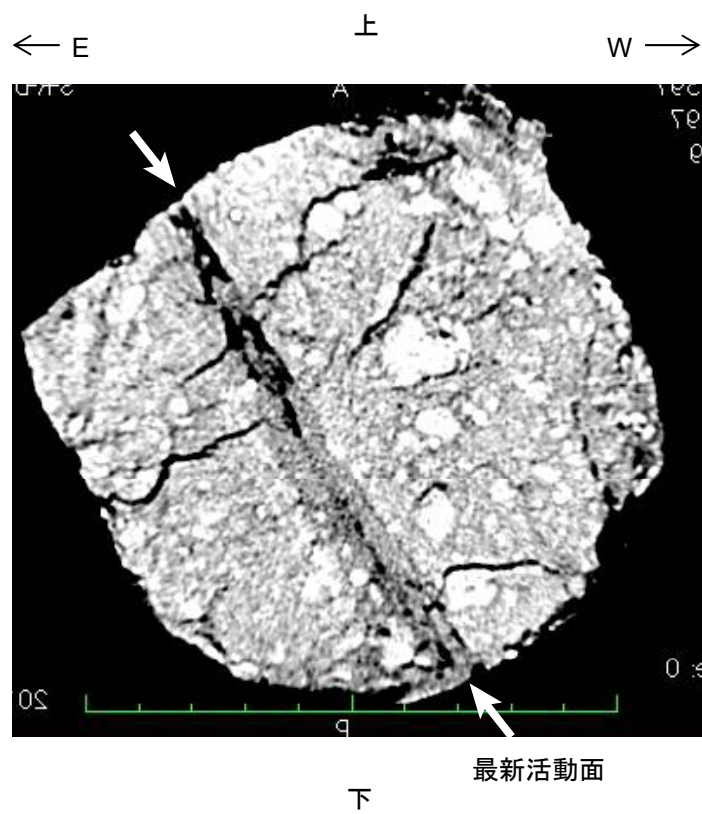
走向・傾斜 N12° E62° W



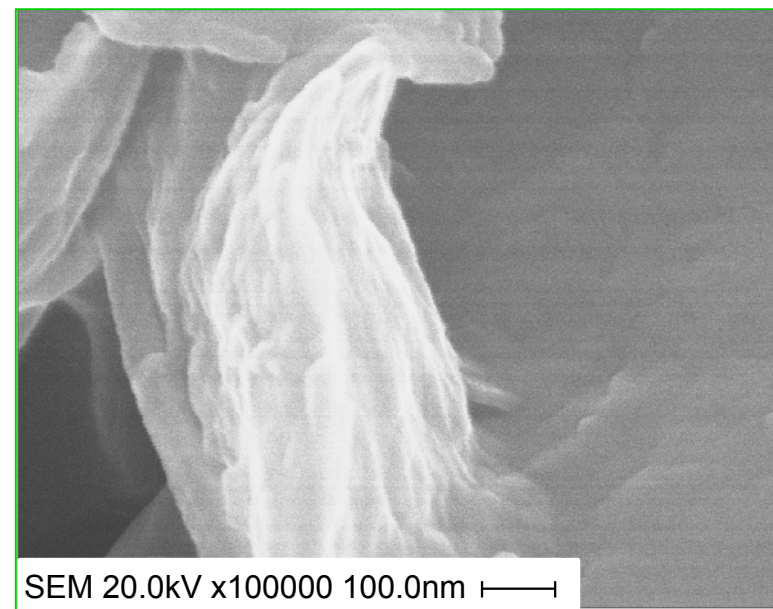
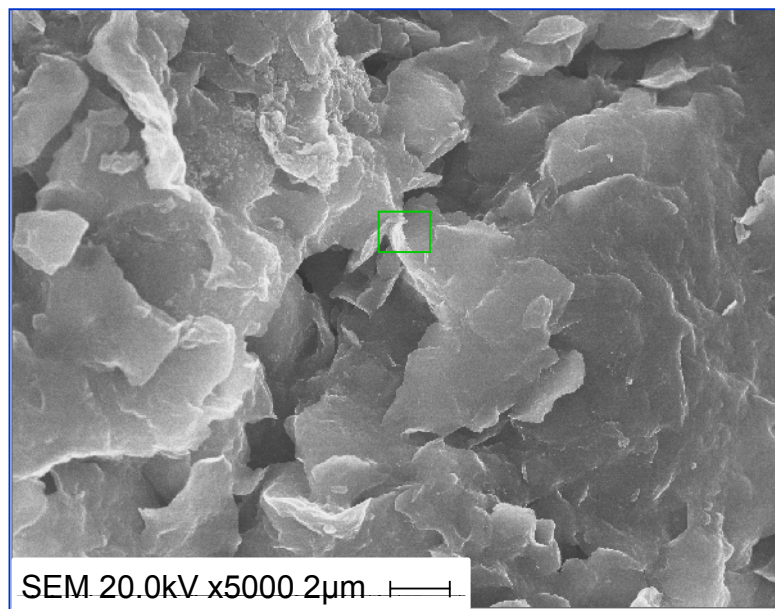
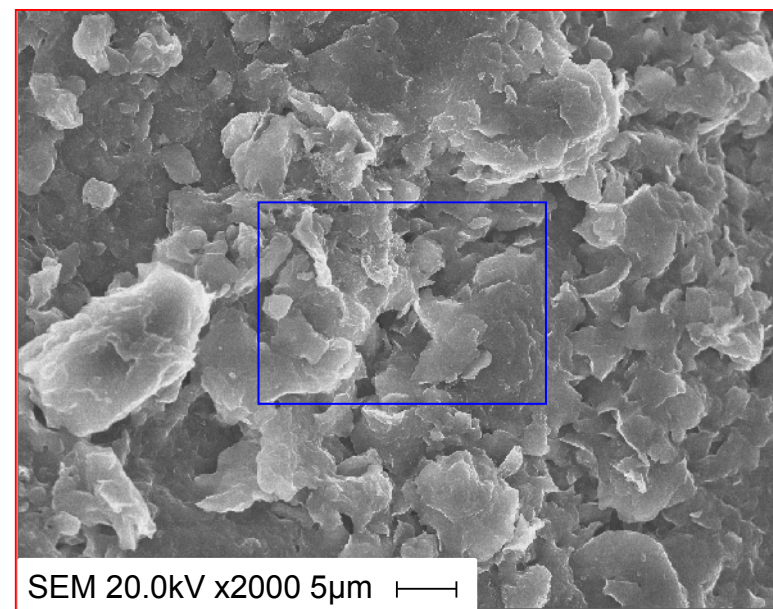
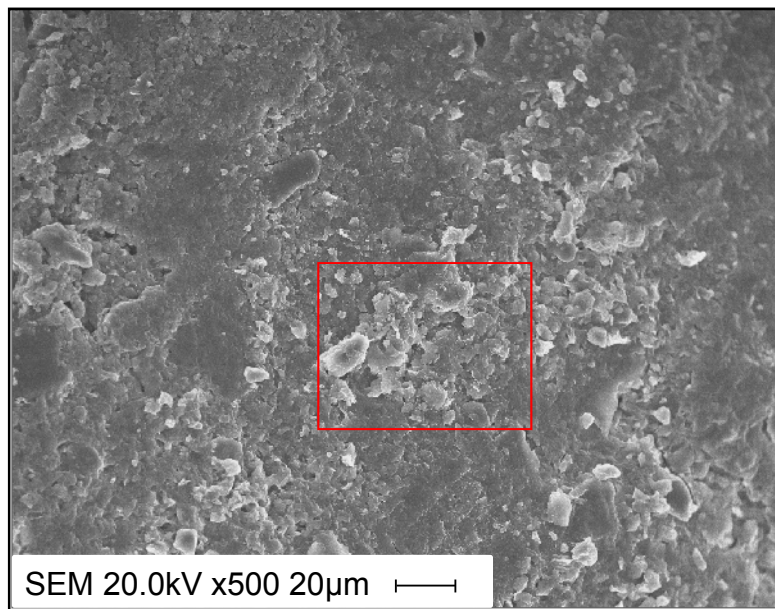
赤枠内の拡大



- ・面状カタクレーサイト
灰白色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～2mmの亜角礫状の花崗斑岩岩片、石英、長石のフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物が少ない。P面及びR1面から右ずれの変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ（最新活動面）
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～1mの亜角～亜円礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物が多い。P面から左ずれの変位センスが判読される。
- ・カタクレーサイト
灰白色～褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～2mmの亜角礫状の花崗斑岩岩片、石英、長石のフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物が少ない。P面から左ずれの変位センスが判読される。



第7.4.4.158図 (1) D-14 破砕帯 電子顕微鏡観察結果 (D-14 既往露頭) (その1)



イライト、スメクタイトがカードハウス状を呈する。

第7.4.4.158図 (2) D-1 4 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (D-1 4 既往露頭) (その2)

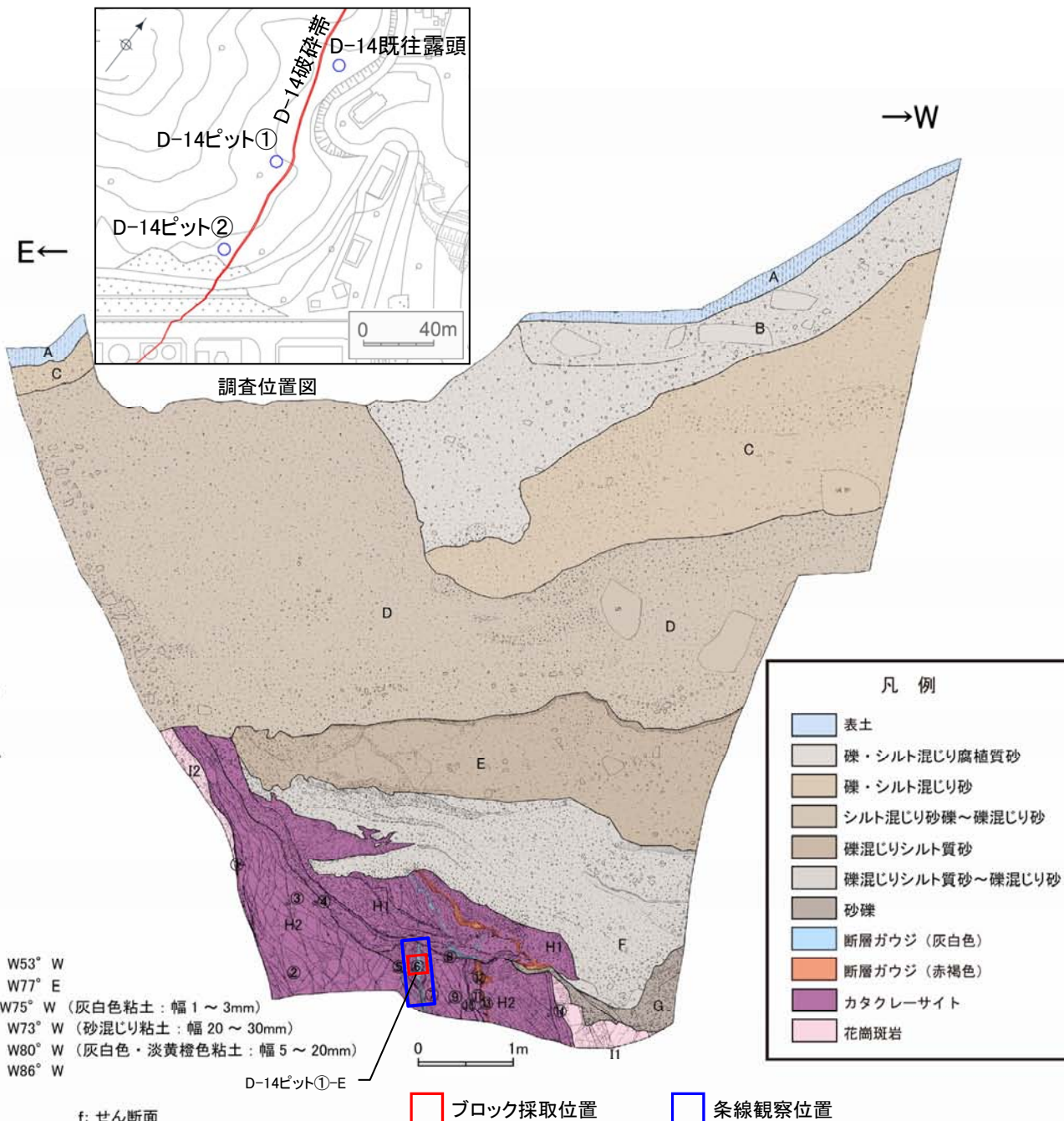
- A層：表土
シルト混じり腐植質砂主体。褐灰色（5YR4/1）。
ルーズ。植物片・炭質物を多く含む。
- B層：礫・シルト混じり腐植質砂
基質は細～中粒砂主体。植物片・腐植物を多く含む。
礫は径5cm以下の角礫。まれに30cmのものも見られる。
にぶい褐色（7.5YR5/3）。
- C層：礫・シルト混じり砂
基質は中～粗粒砂主体。淘汰悪い。
やや軟質。礫は主に径5cm以下の風化した角～亜角礫。
まれに径70cmのものも見られる。
橙～黄橙（7.5YR7/6～7.5YR8/8）。
- D層：シルト混じり砂礫～礫混じり砂
基質は中～極粗粒砂主体。一部シルトを含む。
にぶい橙（7.5YR6/4）。淘汰悪い。
礫は径2cm以下で、まれに径70cmのものも見られる。
- E層：礫混じりシルト質砂
基質は細～粗粒砂、シルト主体。橙（5YR7/6）。
礫は主に径5cm以下の風化礫からなる。
一部に径5～20cmのものも含まれる。
- F層：礫混じりシルト質砂～礫混じり砂
基質は細～粗粒砂、シルト主体。全体的にやや軟質。
礫は主に径1cm以下の風化礫からなる。
明緑灰～にぶい橙（7.5GY8/1～7.5YR8/3）。
- G：砂礫
基質は中～粗粒砂主体。全体的にルーズ。褐（7.5YR4/4）。
礫率30%。礫は主に径8cm以下の亜角礫～亜円礫。
- H1：カタクレーサイト
礫混じりシルト質砂～砂・シルト質礫状。全体的にやや軟質。
灰黄褐（10YR4/2）。
- H2：カタクレーサイト
砂混じり細角礫～細角礫状。
にぶい橙～にぶい黄橙（5YR7/4～10YR7/4）。
- I1：花崗斑岩
全体的に風化を受け、細かい割れ目が多く発達。
主に角礫状。淡橙～浅黄橙（5YR8/4～7.5YR8/4）。
- I2：花崗斑岩

- ①：f：N2° E83° W（灰白色粘土：幅2～5mm）
②：j：N17° W59° W
③：j：N14° W75° W（黄褐色砂質粘土：幅1mm）
④：地すべり面：N27° E38° W
⑤：f：N10° E52° W（灰白色粘土：幅1mm）
⑥：f：N7° E86° W（砂混じり粘土：幅10～30mm）
⑦：f：N7° E83° W（灰白色粘土：幅10～25mm）
⑧：地すべり面：N62° E28° N（砂混じりシルト状：幅5～15mm）
- ⑨：f：N32° W53° W
⑩：f：N20° W77° E
⑪：f：N2° W75° W（灰白色粘土：幅1～3mm）
⑫：f：N18° W73° W（砂混じり粘土：幅20～30mm）
⑬：f：N18° W80° W（灰白色・淡黄橙色粘土：幅5～20mm）
⑭：f：N28° W86° W

f：せん断面

j：節理面

※走向は偏角未補正である。



第7.4.4.159図 (1) D-14破碎帯 ピット調査結果 (D-14ピット①) (その1)



調査位置図



□ ブロック採取位置 □ 条線観察位置

第7.4.4.159図 (2) D-14 破碎帯 ピット調査結果 (D-14ピット①) (その2)



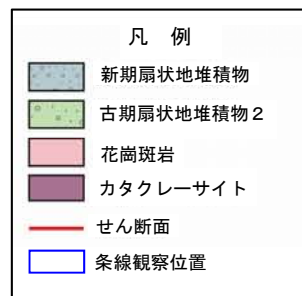
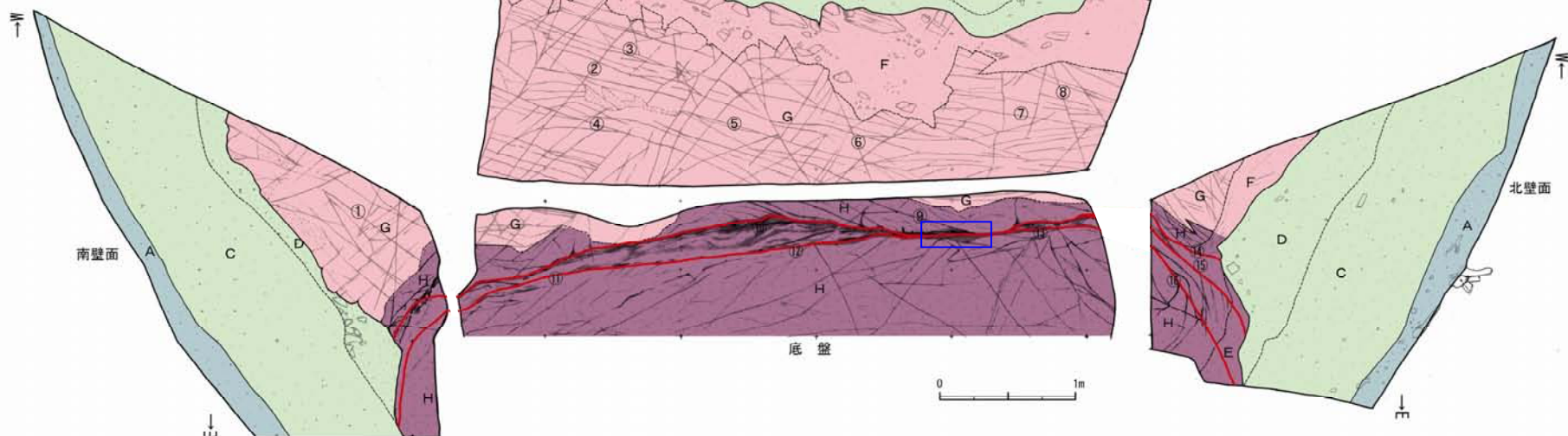
調査位置図



第7.4.4.159図 (3) D-14 破砕帯 ピット調査結果 (D-14ピット①) (その3)



調査位置図



- A層: 礫混じり砂質シルト～シルト混じり砂: 褐色 (10YR4/4)～暗褐色 (10YR3/4)
径5mm程度の垂角礫を含む。北壁面では最大径50mmの垂角～垂円礫を含む。
- B層: シルト混じり砂: 褐色 (10YR4/6)。細砂主体。中砂も比較的多い。シルトを少量含む
- C層: 腐植物・シルト混じり砂: 褐色 (10YR4/6)。細砂主体。腐植質土を不規則に含む
最大径40mm程度の垂角～垂円礫及び長辺100mm程度の扁平な垂角礫をまれに含む(とくに北壁面)
- D層: シルト混じり砂～砂礫: 明黄褐色 (10YR6/6)。細～中砂主体。全体に径5mm程度の角礫(石英片、長石片)を含む。
最大径100mm程度の角礫を不規則に含む。ところにより礫の配列が岩盤の構造に調和的
- E: 花崗斑岩質カタクレーサイト(粘土状部): 北壁面のみ分布
- F: 花崗斑岩(強風化砂礫状部)
- G: 花崗斑岩(風化部): 節理は全体に酸化変色進む。岩片は軟質で、ハンマー打撃で容易に粉砕する。
比較的良好部では割れ目に沿って岩片状に崩れる。
- H: 花崗斑岩質カタクレーサイト

- ① j: N74° E53° S
② j: N47° W70° S
③ j: N24° E55° W
④ j: N26° E50° W
⑤ j: N28° E46° W
⑥ j: N85° E70° N
⑦ j: N20° E45° W
⑧ j: N70° E74° N
⑨ j: N24° E59° W
- ⑩ f: N2° W70° W (にぶい黄褐色シルト質粘土: 幅30mm)
⑪ f: NS63° W (灰白色粘土: 幅5mm)
⑫ f: N5° E51° W (灰白色粘土: 幅5mm)
⑬ f: NS53° W (灰白色粘土: 幅3mm)
⑭ f: N33° W61° W (赤褐色粘土: 幅10mm)
⑮ f: N10° W46° W (灰白色粘土: 幅1mm)
⑯ f: N25° E44° W (淡灰色粘土: 幅2mm)

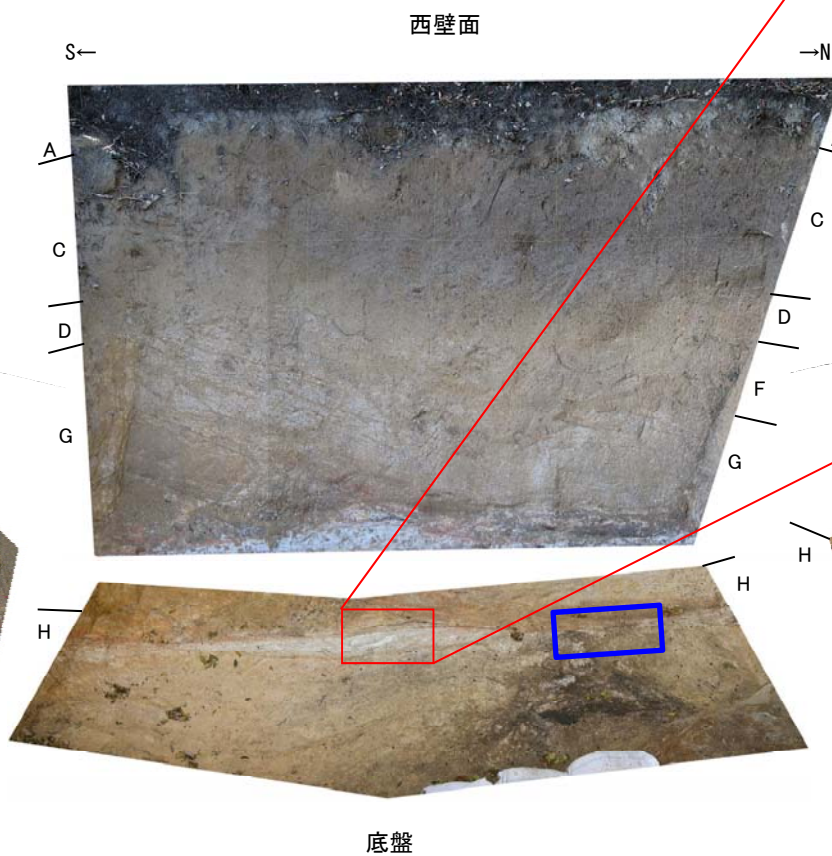
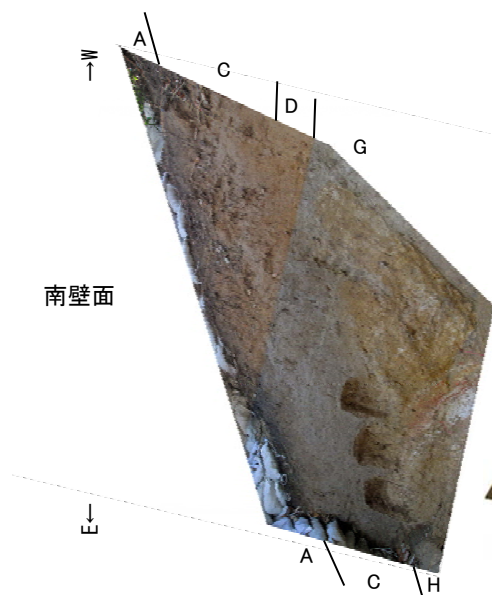
※走向は偏角未補正

f: せん断面, j: 節理面

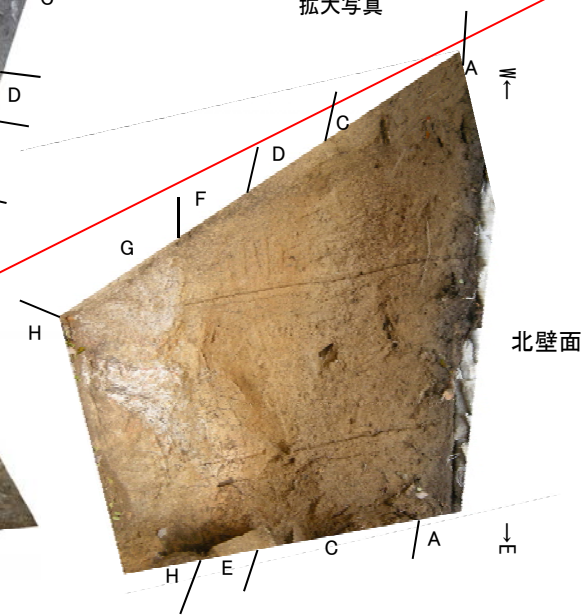
第7.4.4.160図 (1) D-14破砕帯 ピット調査結果 (D-14ピット②) (その1)



調査位置図



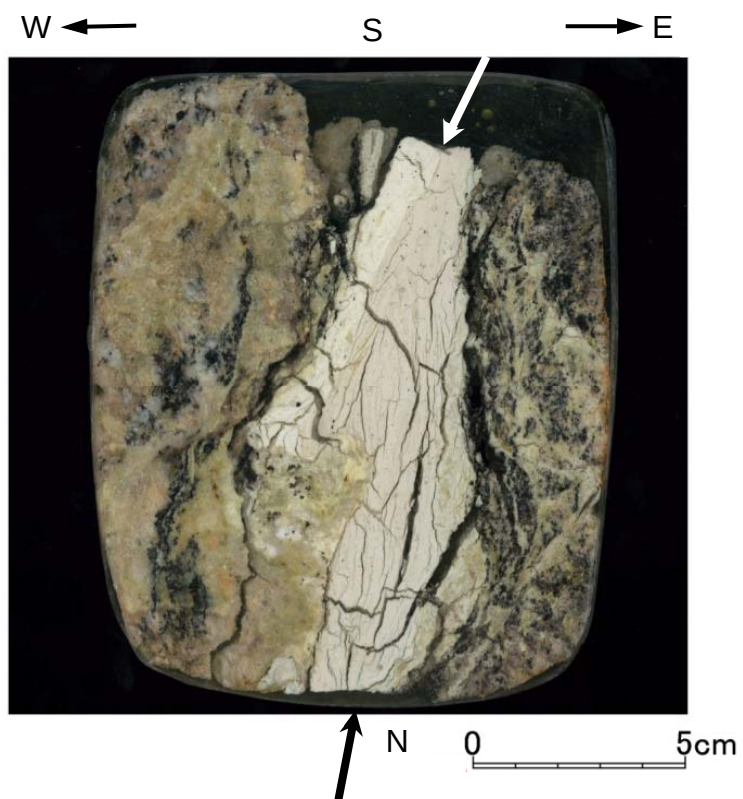
拡大写真



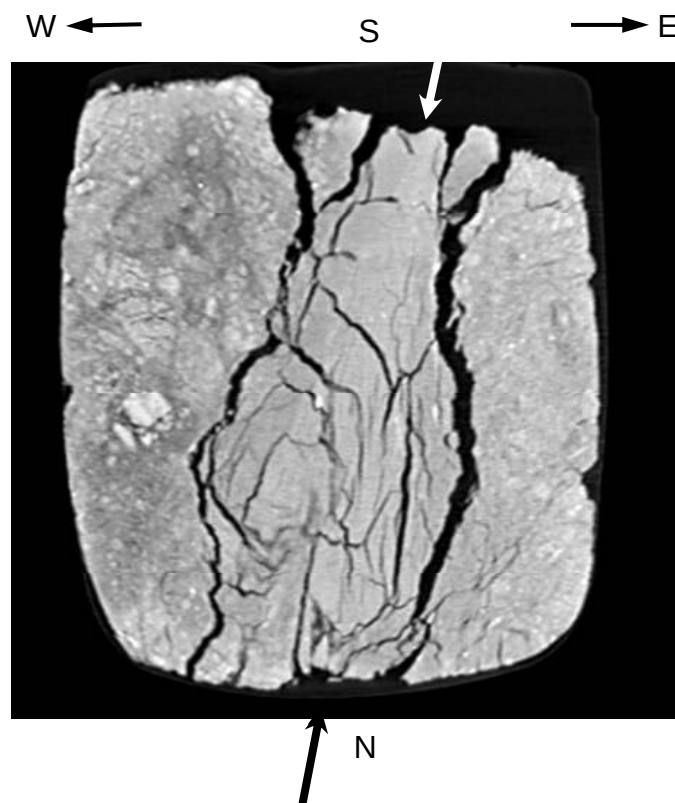
条線観察位置

第7.4.4.160図 (2) D-14破碎帯 ピット調査結果 (D-14ピット②) (その2)

試料番号:D-14ピット①-E



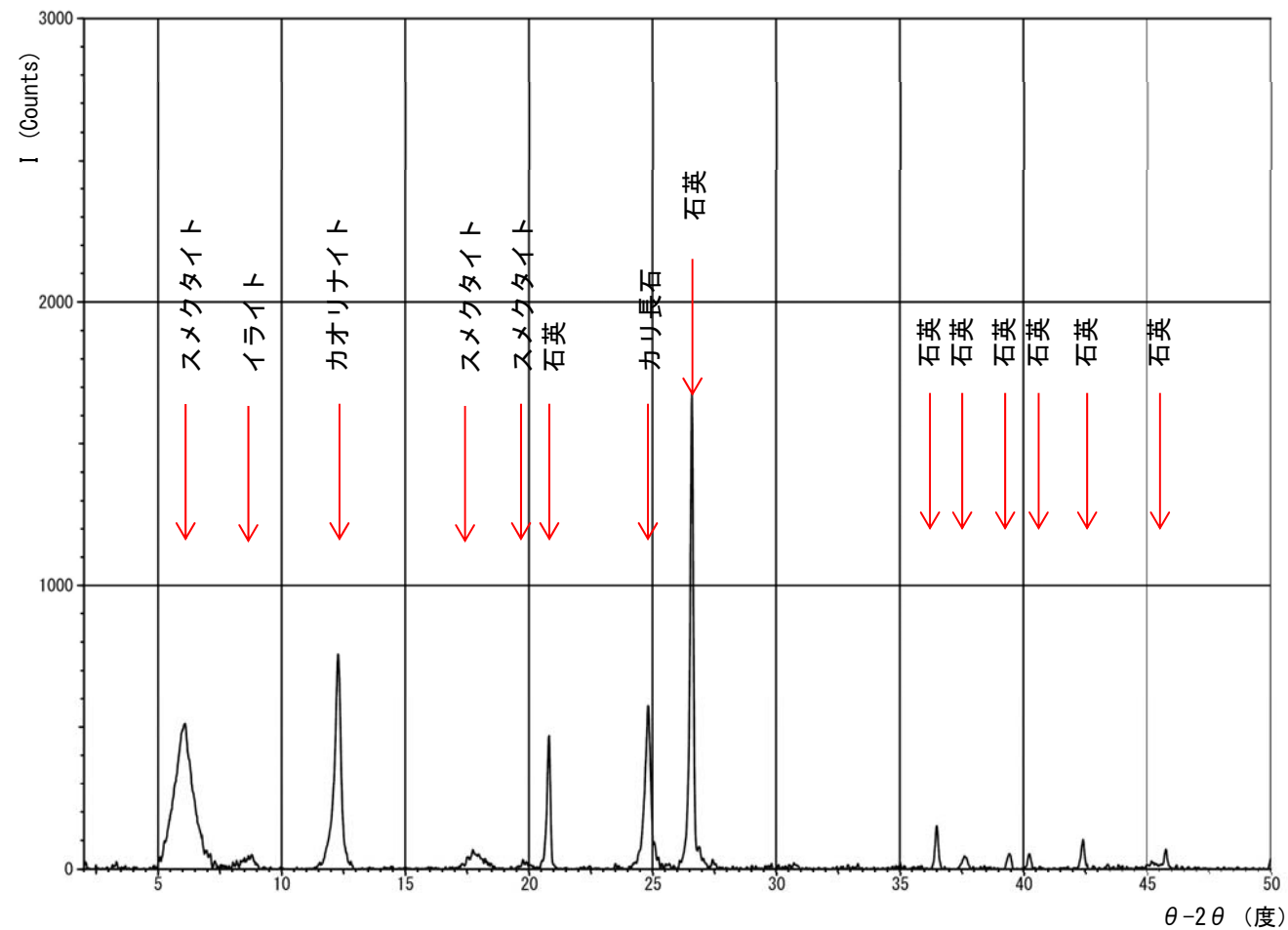
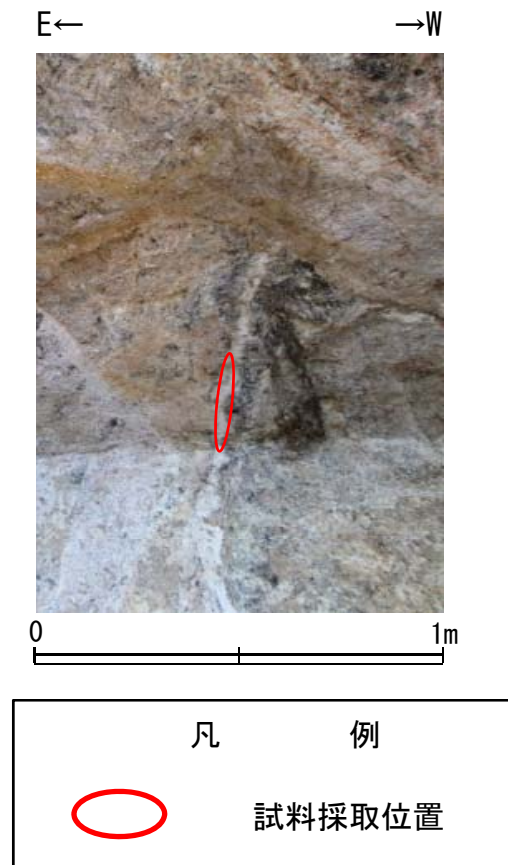
最新活動面



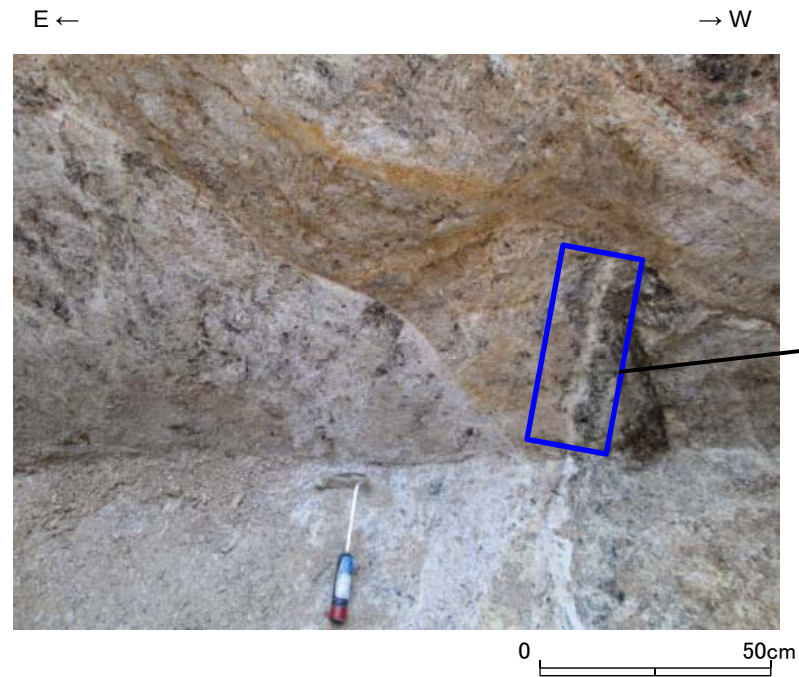
最新活動面

第7.4.4.161 図 D-14 破碎帯 研磨片試料及びCT画像 (D-14ピット①)

6-7-4-1006



第7.4.4.162図 D-1 4 破碎帯 X線回折分析結果 (D-1 4 ピット①)



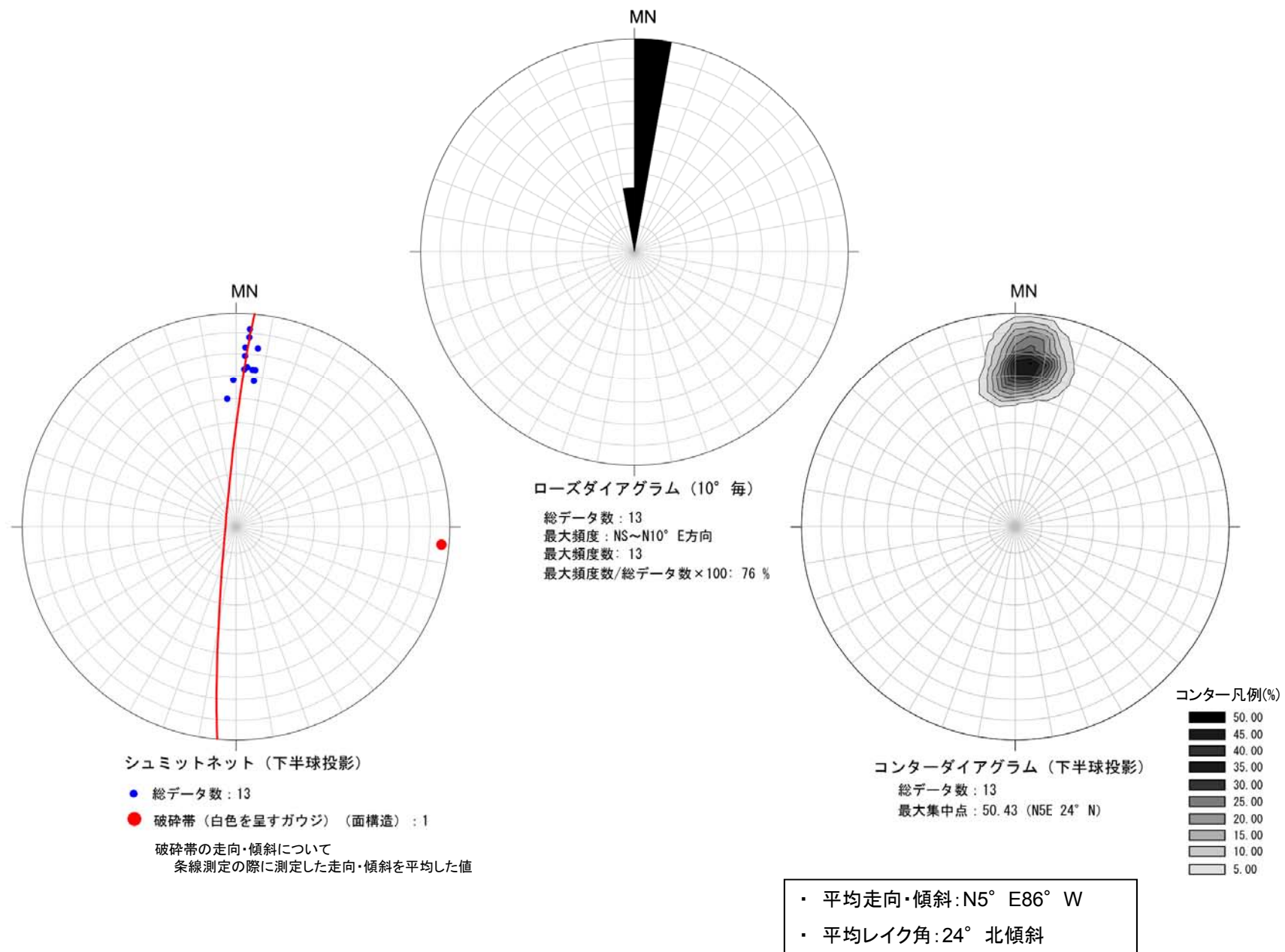
条線の例(下盤側から撮影)



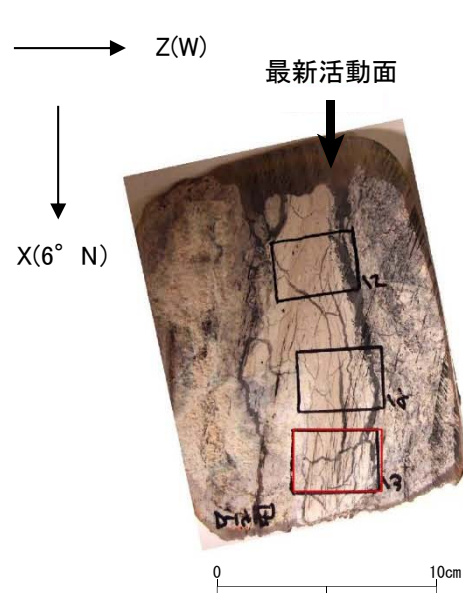
調査位置図

 条線観察位置

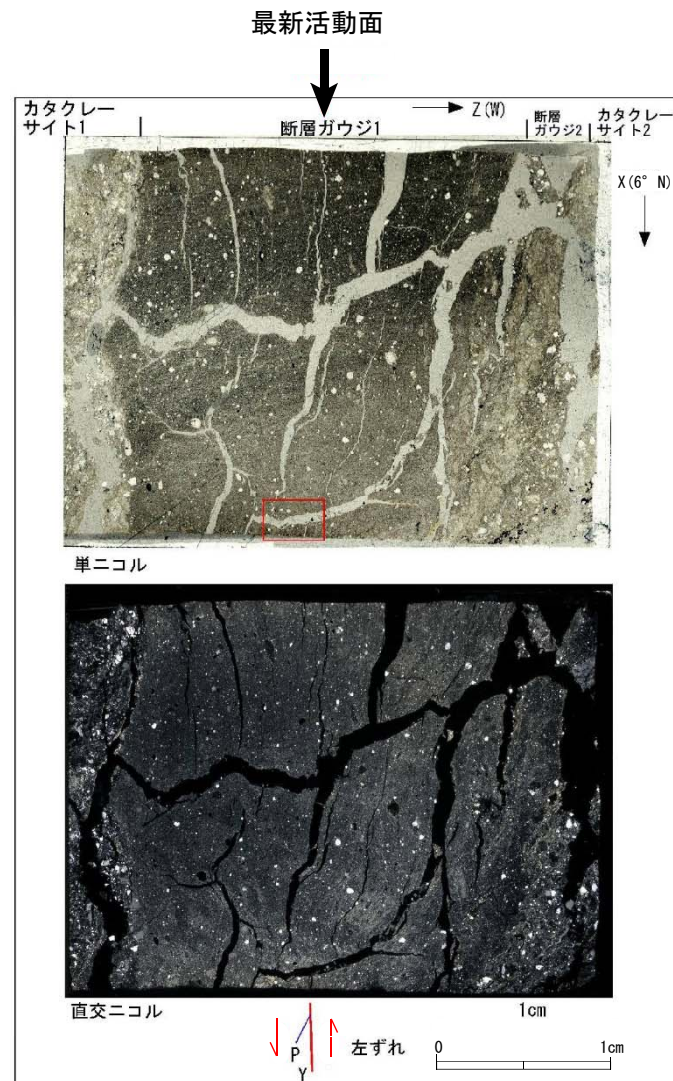
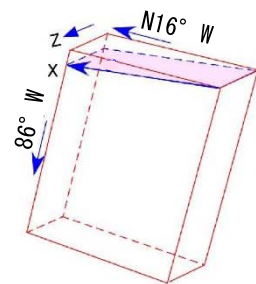
- ・ 走向・傾斜: N5° E86° W
- ・ レイク角: 24° 北傾斜



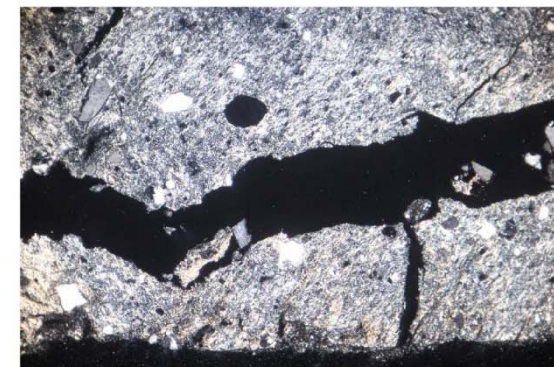
第7.4.4.163図 (2) D-1 4 破碎帯 条線観察結果 (D-1 4 ピット①) (その 2)



走向・傾斜 N16° W86° W

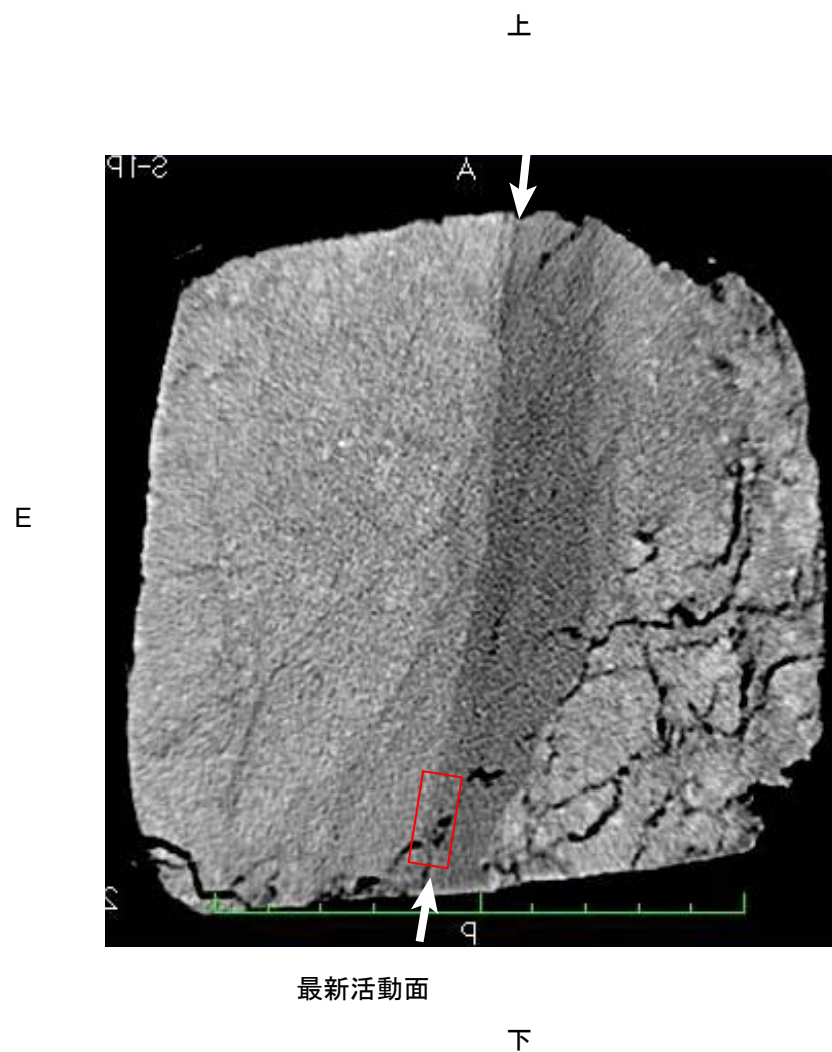


赤枠内の拡大

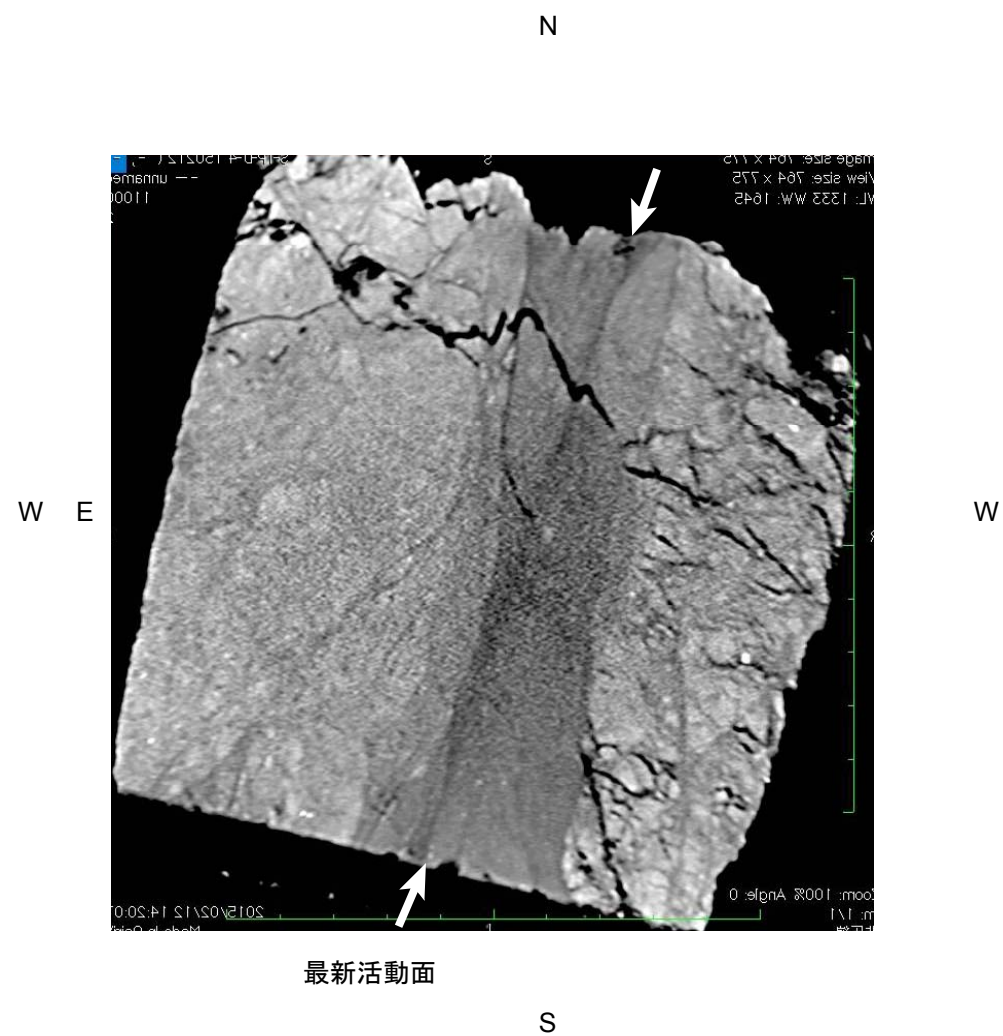


- ・断層サイト1 (最新活動面)
褐色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～2mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を多く含む。不明瞭であるが、P面から左ずれの変位センスが判読される。フラグメントは円磨されたものが多い。
- ・断層サイト2
褐色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～3mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を多く含む。不明瞭であるが、P面から左ずれの変位センスが判読される。
- ・カタクレサイト1
径0.1mm～2mmの花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。褐色を呈する基質には局所的に粘土鉱物が見られるが、全体に少ない。
- ・カタクレサイト2
径0.1mm～2mmの花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。褐色を呈する基質には局所的に粘土鉱物が見られるが、全体に少ない。

第7.4.4.164図 D-14 破碎帯 薄片試料観察結果 (D-14 ピット①)

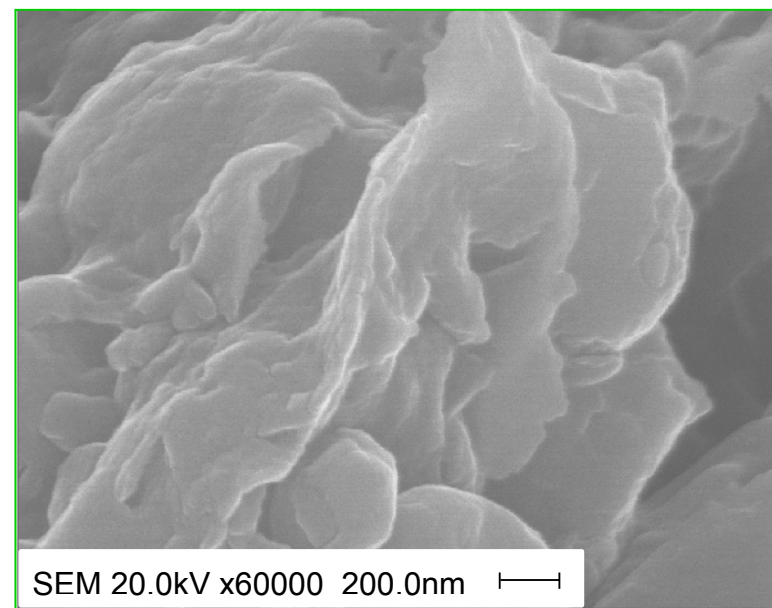
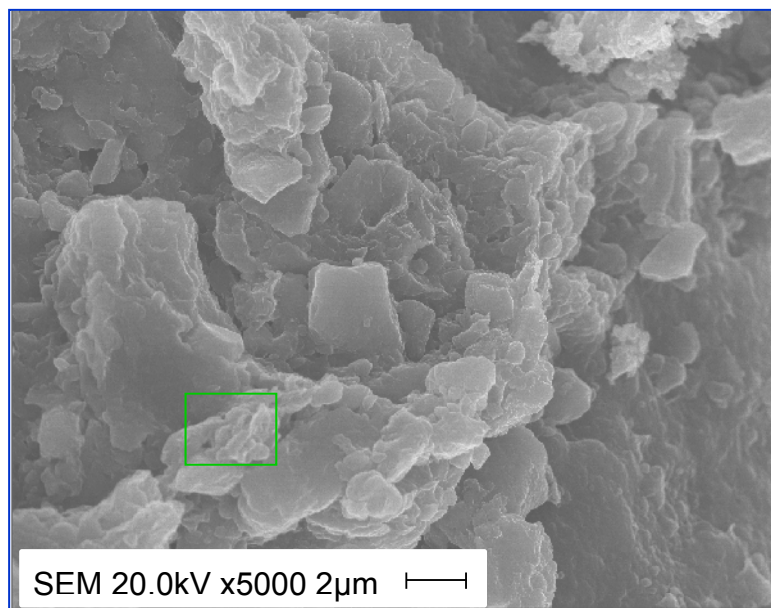
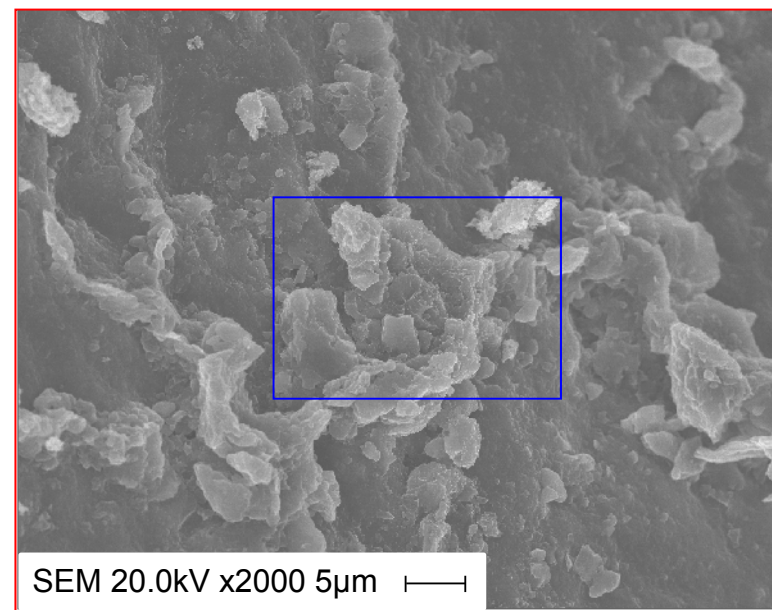
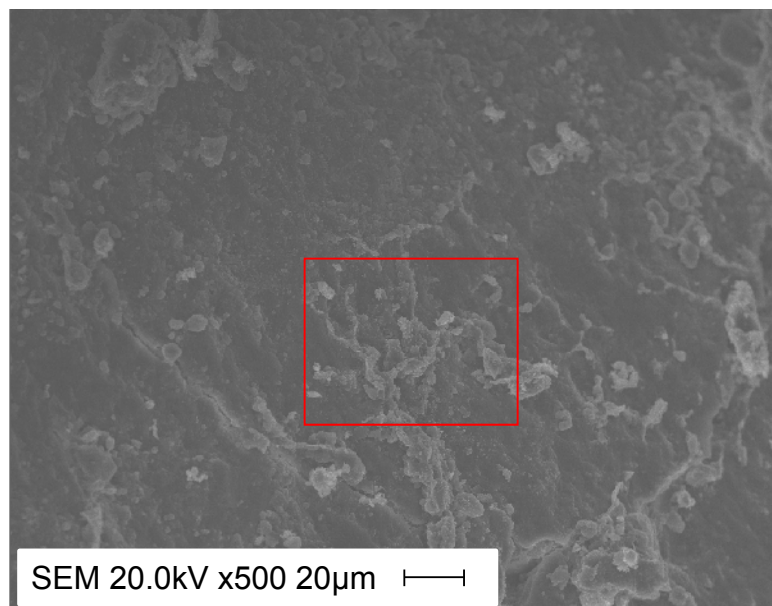


□ 電子顕微鏡観察位置



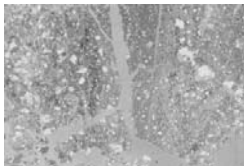
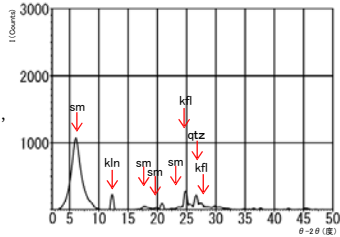
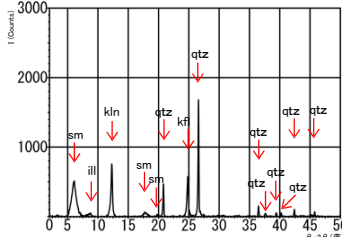
10cm

第7.4.4.165図 (1) D-14 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (D-14 ピット①) (その1)



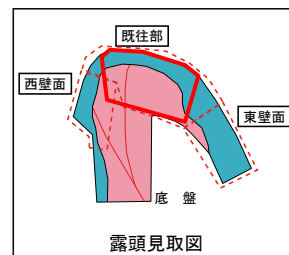
スメクタイト、イライトがカードハウス状を呈する。

第7.4.4.165図 (2) D-14 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (D-14 ピット①) (その2)

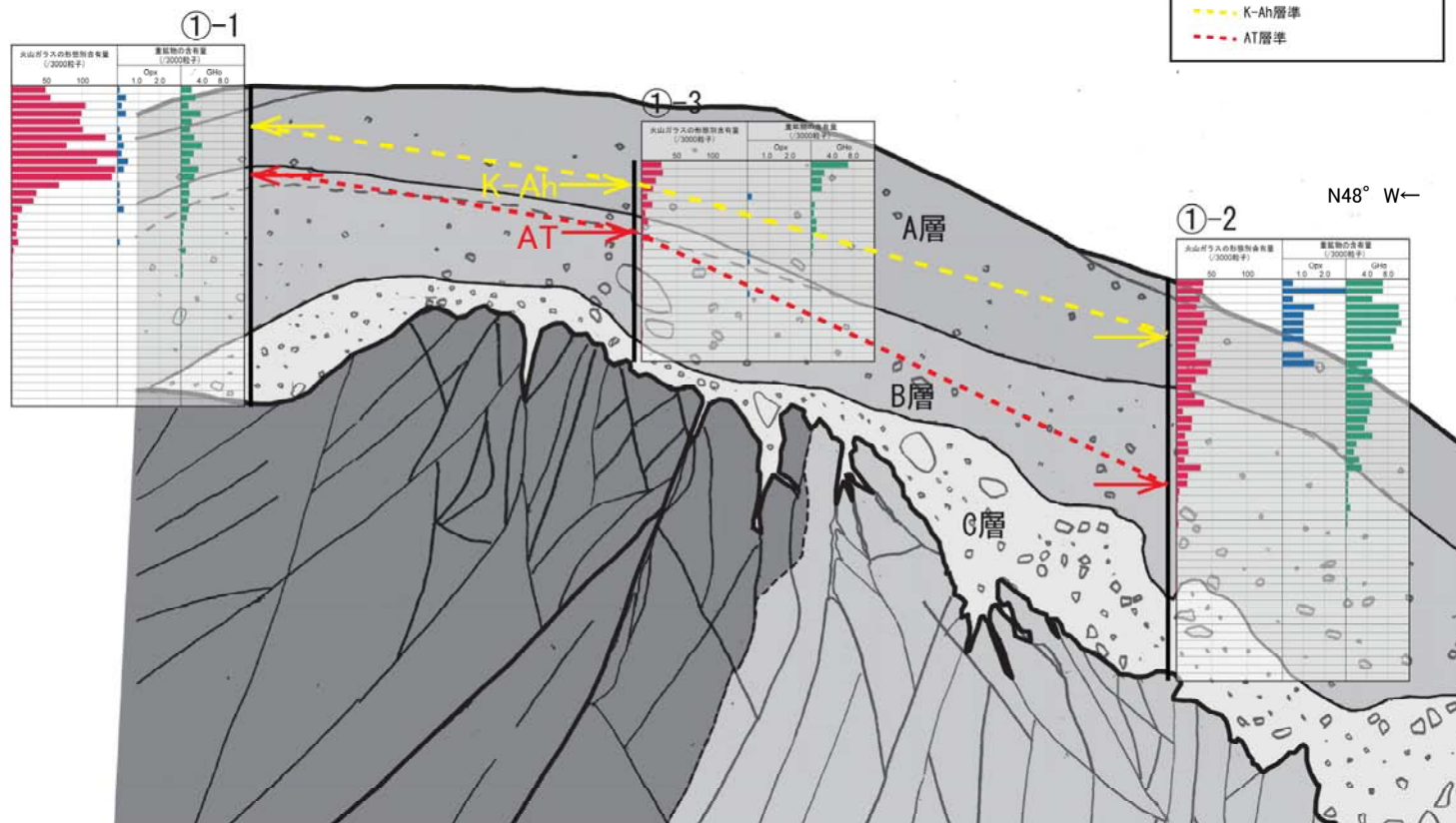
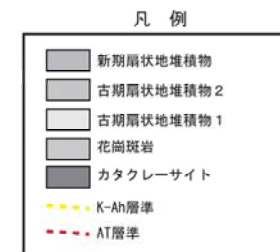
性状	D-14破碎帯		
	D-14既往露頭	D-14ピット①	D-14ピット②
走向・傾斜	NNE-SSW, 高角度西傾斜	NNW-SSE, 高角度西傾斜	N-S, 中角度西傾斜
破碎幅	約50cm～約260cm	約50cm～約120cm	約100cm
断層ガウジの状況			
断層ガウジの色調	灰白色, 褐灰色	灰白色, 褐灰色	灰白色, 赤褐色
断層ガウジの状態	軟らかい	軟らかい	軟らかい
断層ガウジの構造	無構造	縞状	—
断層ガウジの微細構造	・構成粒子の円形度: 0.4程度(垂円礫状) ・面構造が弱い 	・構成粒子の円形度: 0.4程度(垂円礫状) ・面構造が弱い 	—
変位センス	左ずれ	左ずれ	—
X線回折分析	・スメクタイト, カオリナイト, 石英, カリ長石を含む。 	・スメクタイト, イライト, カオリナイト, 石英, カリ長石を含む。 	—



調査位置図



→N80° E



D-14破砕帯

第7.4.4.167図 D-14破砕帯 テフラ分析結果 (D-14既往露頭)

孔口標高	T.P.	掘削長	33.00m
------	------	-----	--------

6-7-4-1015

掘削長	6.90m	T.P.	孔口標高
			60.00m

6-7-4-1016

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
50			+	花崗斑岩	明褐色	CL'	100	7	0	0	0	100	7	0	0	●52.13～52.28m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰褐色～灰白～明褐色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・にふい煙～明赤灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN7° E70° Wである。 ●56.88～57.24m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・明褐色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・にふい赤褐色粘土：累計厚8mm ・走向・傾斜はN2° E89° Wである。 58.29～58.53m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							100	13	13	0	0	100	13	0	0	
							100	8	0	0	0	100	8	0	0	
							100	12	12	0	0	100	12	0	0	
							100	11	11	0	0	100	11	0	0	
							100	10	10	0	0	100	10	0	0	
							100	8	0	0	0	100	8	0	0	
							100	8	0	0	0	100	8	0	0	
							100	5	0	0	0	100	5	0	0	
							100	7	0	0	0	100	7	0	0	
							100	6	0	0	0	100	6	0	0	
							100	5	0	0	0	100	5	0	0	
							100	6	0	0	0	100	6	0	0	
							100	5	0	0	0	100	5	0	0	
							100	6	0	0	0	100	6	0	0	
							100	4	0	0	0	100	4	0	0	
							100	3	0	0	0	100	3	0	0	
							100	5	0	0	0	100	5	0	0	
							100	6	0	0	0	100	6	0	0	

H24-D1-4

孔 口 標 高	I.P.	6.95m	掘 削 長	70.00m
---------	------	-------	-------	--------

標 尺	標 高	深 度	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	記 事
				埋土	黒強 にふい い 褐		100							0.00~2.94m ・埋土である。
	4.87	2.94		改良土	明黄褐 にふい 黄 橙		100							2.94~7.62m ・改良土である。
	1.56	7.62					100							7.62~17.89m ・花崗斑岩である。
10				花崗斑岩	明黄褐 にふい 黄 橙	CL'	100	7	0					10.76~10.88m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							100	3	0					●10.91~10.93m (D-I 破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・浅黄褐~灰白~浅黄色の礫混り粘土状を呈する。
							100	6	0					・浅黄褐~灰白~浅黄色粘土：累計厚18mm ・走向・傾斜はN13° W78° Wである。
							100	7	0					11.22~17.89m ・割れ目が少なく、短柱状を呈する。
							100	8	0					17.89~18.44m ・黒雲母花崗岩である。
20	-5.70	17.89		花崗岩	にふい 橙	D'	100	6	0					18.44~70.00m ・花崗斑岩である。
	-6.09	18.44					100	7	0					
							100	7	0					
							100	18	36					
							100	10	10					
							100	8	0					23.40~23.77m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							100	9	0					
							100	9	0					
							100	5	0					
							100	3	0					●27.75~28.43m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・明褐灰~灰白~明赤灰色の礫混じり粘土状~粘土混じり礫状を呈する。
							100	5	0					・灰黄褐色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN65° E83° Wである。
							100	9	0					
							100	12	12					
							100	7	0					
							100	9	0					
							100	13	34					34.57~34.63m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							100	9	0					
							100	9	0					
							100	6	0					
							100	6	0					
							100	4	0					
							100	7	0					42.37~42.61m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							100	7	0					

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
						CL'	100	10	10	0	0	10	0	0	0	100	10	
						CM'	100	7	0	0	0	7	0	0	0	100	7	49.83～52.07m ・緑灰色に変色する。
						CL'	100	12	12	0	0	12	0	0	0	100	12	52.07～52.97m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
						CL'	100	6	0	0	0	6	0	0	0	100	6	
						CL'	100	5	0	0	0	5	0	0	0	100	5	
						CH'	100	12	33	0	0	12	33	0	0	100	12	
						CH'	100	18	34	0	0	18	34	0	0	100	18	
						CL'	100	9	0	0	0	9	0	0	0	100	9	
						CL'	100	8	0	0	0	8	0	0	0	100	8	
						CM'	100	9	0	0	0	9	0	0	0	100	9	●52.97～53.46m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。
						D'	100	8	0	0	0	8	0	0	0	100	8	灰白色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。
						CL'	100	2	0	0	0	2	0	0	0	100	2	・褐灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN41° E50° NWである。
						CL'	100	4	0	0	0	4	0	0	0	100	4	
						CL'	100	4	0	0	0	4	0	0	0	100	4	
						CL'	100	12	12	0	0	12	12	0	0	100	12	●56.57～59.47m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
						CM'	100	6	0	0	0	6	0	0	0	100	6	
						CM'	100	9	0	0	0	9	0	0	0	100	9	●60.06～60.38m ・破砕部である。
						CL'	100	7	0	0	0	7	0	0	0	100	7	・右ずれセンスである。
						CL'	100	4	0	0	0	4	0	0	0	100	4	灰褐～灰白色の粘土状～粘土混り礫状を呈する。
						CL'	100	4	0	0	0	4	0	0	0	100	4	・暗緑灰色粘土：累計厚8mm ・走向・傾斜はN18° E86° Wである。
						D'	100	3	0	0	0	3	0	0	0	100	3	60.38～61.39m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
						D'	100	3	0	0	0	3	0	0	0	100	3	●61.47～61.52m ・破砕部である。
						CL'	100	9	0	0	0	9	0	0	0	100	9	・右ずれ正断層センスである。
						CL'	100	5	0	0	0	5	0	0	0	100	5	灰白色の粘土状～礫質粘土状を呈する。
						CL'	100	4	0	0	0	4	0	0	0	100	4	・暗緑灰色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN27° W83° Wである。
						CL'	100	2	0	0	0	2	0	0	0	100	2	●63.67～63.90m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。
						CL'	100	3	0	0	0	3	0	0	0	100	3	・灰白～赤灰色の粘土状～礫混じり粘土状を呈する。
						CL'	100	5	0	0	0	5	0	0	0	100	5	赤灰色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN19° W89° Wである。
						CL'	100	5	0	0	0	5	0	0	0	100	5	66.65～67.05m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

掘削長	7.03m	掘削長	54.00m
-----	-------	-----	--------

6-7-4-1020

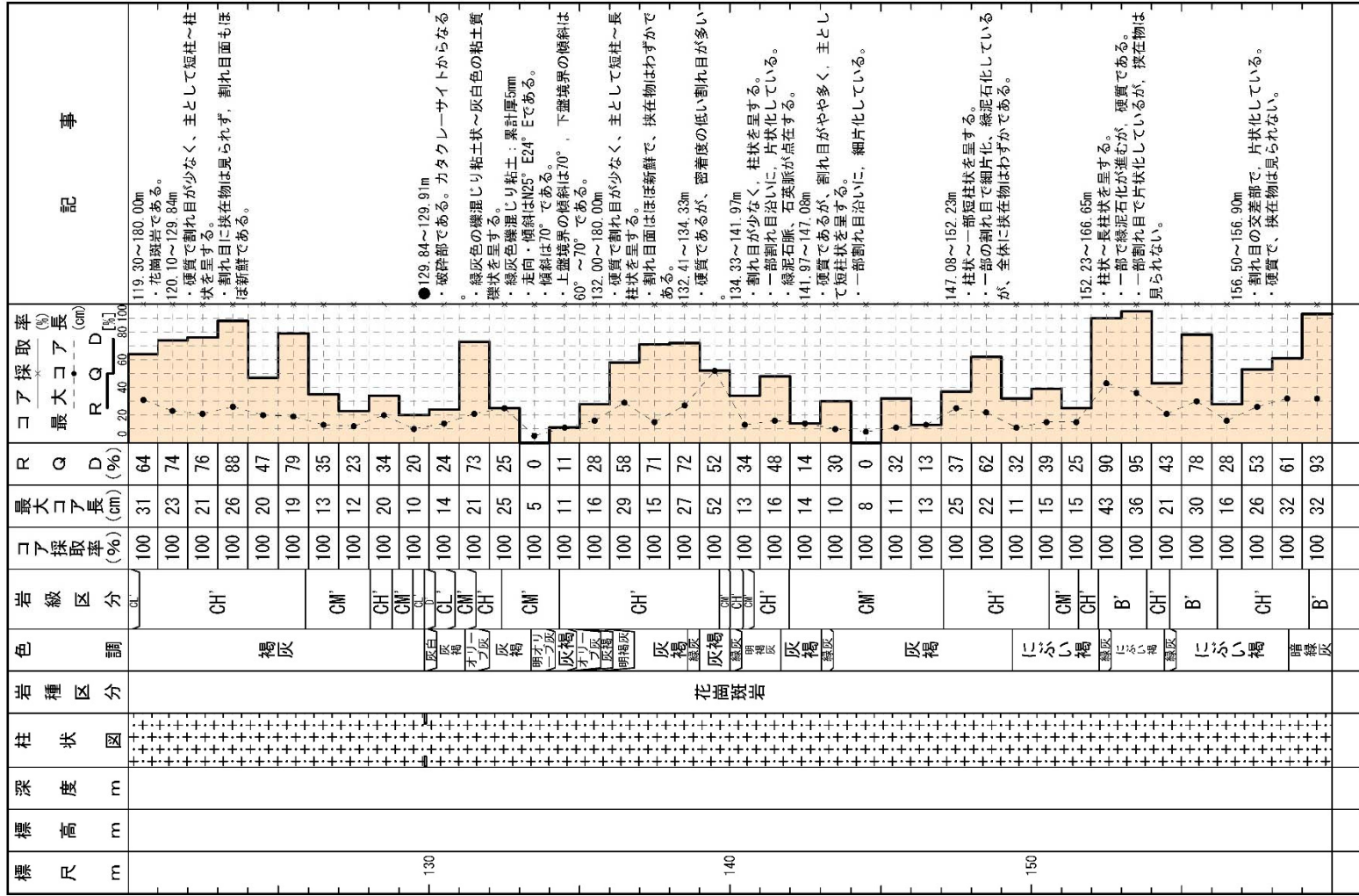
H27-B-3

孔口標高	T.P.	掘削長	180.00m
------	------	-----	---------

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事				
m	5.36	1.70		埋土	にぶい 黄褐色 灰黄褐		100			0	20	40	60	80	100	0.00～10.06m ・盛土である。 ・よく締まる粗砂～砂礫からなる。 ・0.00～1.70mはボーリング開始前に実施した試験の埋戻土である。
							100			0	20	40	60	80	100	
m	-2.99	10.05		盛土	にぶい 黄褐色 灰黄褐		100			0	20	40	60	80	100	10.05～119.14m ・花崗斑岩である。
							100			0	20	40	60	80	100	
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CL'	100	4	0							12.96～14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑状～脈状に含む。
							100	7	0							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	D' CL' W	100	9	0							15.33～15.43m ・軟質化著しい。
							100	3	0							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CL'	100	6	0							18.05～18.47m ・注質化している。
							100	5	0							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CL'	100	9	0							20.04～20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。
							100	14	24							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CL'	100	3	0							22.50～22.64m ・軟質化著しい。 ・上端に褐色の粘土脈、下端に褐色の砂を伴う。
							100	5	0							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CL'	100	6	0							26.70～26.90m ・一部に灰白色の粘土を脈状に含む。
							100	10	10							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CL'	100	18	18							28.12～28.14m ・破砕部である。 ・淡黄色の粘土状～灰白色の礫質粘土状を呈する。
							100	8	0							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	D' CL' CL'	100	5	0							・淡黄色粘土：1mm ・走向・傾斜はN18° E61° Wである ・傾斜は43° である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は54° である。
							100	6	0							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CL'	100	4	0							●26.70～26.90m ・左ずれセメントである。 ・淡黄色の粘土状～灰白色の礫質粘土状を呈する。
							100	26	36							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CH'	100	17	40							●28.12～28.14m ・破砕部である。カタクレサイトからなる。
							100	10	10							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CM'	100	5	0							・淡黄色の粘土状～にぶい黄褐色の粘土混じり礫状～粘土質礫状を呈する。 ・淡黄色粘土：3mm ・N15° E64° W ・傾斜は43° である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は45° である。
							100	9	0							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CM'	100	8	0							●29.10～29.12m ・破砕部である。 ・左ずれセメントである。 ・灰白～灰黄褐色の粘土状～灰白色の礫質粘土状を呈する。
							100	8	0							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CH'	100	19	43							●29.10～29.12m ・破砕部である。 ・左ずれセメントである。 ・灰白～灰黄褐色の粘土状～灰白色の礫質粘土状を呈する。
							100	16	16							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CL' CL' CL'	100	10	10							・灰白～灰黄褐色の粘土状～灰白色の礫質粘土状を呈する。 ・灰白～灰黄褐色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN31° E51° Wである。 ・傾斜は49° である。 ・上盤境界の傾斜は49°、下盤境界の傾斜は45°～50° である。
							100	10	10							
m				花崗斑岩	明褐色 灰	CM'	100	10	10							30.56～32.21m ・破砕部である。 ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。 34.20～35.94m ・硬質だが、密着度の低い割れ目が多い。 35.94～37.30m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。 37.69～37.81m ・割れ目沿いに、砂状化している。 ・白色の粘土脈を伴う。
							100	10	10							

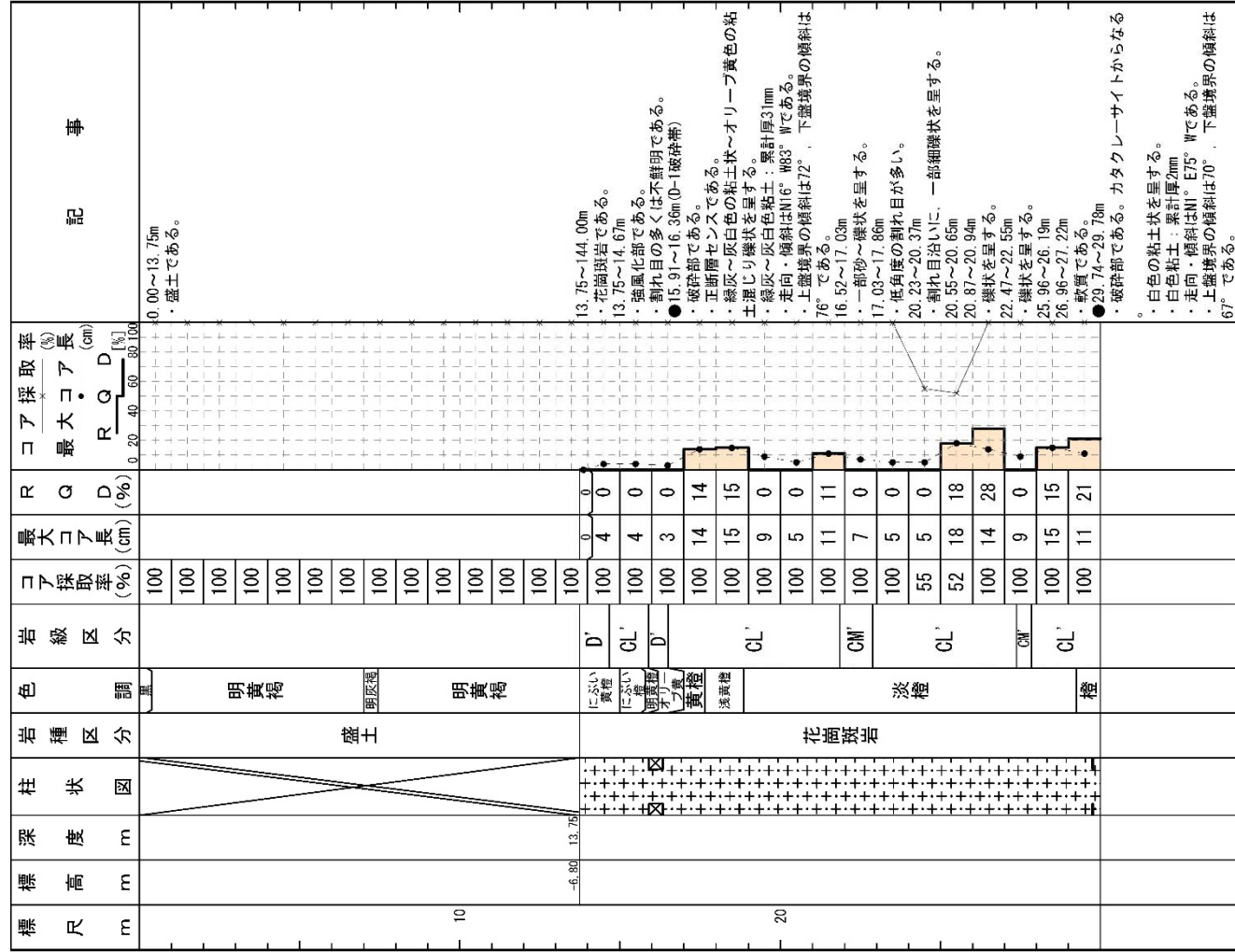
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
m	m	m			灰褐色	CL'	100	11	11						40.79～41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。
						CM'	100	9	0						●42.85～42.91m ・破砕部である。
						CL'	100	8	0						・右ずれセンスである。
						CL'	100	13	33						・灰白色の砂・礫混じり粘土状～明褐色の粘土混じり礫状を呈する。
						CM'	100	11	11						・灰白色粘土：累計厚25mm
						CL'	100	12	12						・走向・傾斜はNS71°Wである。
						CM'	100	11	21						・傾斜は45°である。
						CL'	100	11	11						・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は66°である。
						CM'	100	6	0						46.14～48.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。
							100	7	0						・上部は長石の多くが白濁化する。
							100	4	0						・一部で割れ目沿いに、砂状～細片化している。
							100	4	0						
							100	4	0						
						CL'	100	6	0						53.10～55.82m ・割れ目が多く、一部割れ目沿いに砂状し白色粘土を伴う。
							100	6	0						
							100	3	0						
							100	2	0						
						D'	100	3	0						●56.69～56.72m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。
						CL'	100	2	0						・淡黄色の粘土状～浅黄～黄灰色の砂・粘土混じり礫状を呈する。
						CL'	100	5	0						・淡黄色粘土：累計厚1mm
						CL'	100	5	0						・走向・傾斜はN2°W36°Wである。
						CM'	100	3	0						・傾斜は31°である。
						CL'	100	3	0						・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は31°である。
						CL'	100	5	0						●58.89～58.98m ・破砕部である。
						CL'	100	7	0						・左ずれセンスである。
							100	4	0						・灰白色の礫混じり粘土状～にぶい黄褐色の礫質粘土状～褐色の粘土混じり礫状を呈する。
						CM'	100	7	0						・灰白色礫混じり粘土：累計厚15mm
						CL'	100	9	0						・走向・傾斜はN11°W54°Wである。
						CL'	100	6	0						・傾斜は25°である。
						D'	100	2	0						・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は25°である。
						CL'	100	4	0						●59.69～59.75m ・破砕部である。
						CL'	100	2	0						・右ずれ正断層センスである。
						D'	100	2	0						・黄褐色の粘土状～にぶい橙色の砂混じり礫状を呈する。
						CL'	100	3	0						・黄褐色粘土：1mm
						D'	100	5	0						・傾斜は52°である。
							100	5	0						・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は37°である。
						CL'	100	5	0						60.00～62.23m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。
							100	7	0						・一部割れ目沿いに、砂状化している。
						D'	100	2	0						62.82～62.93m ・砂礫状を呈し、白色粘土脈を伴う。
						CL'	100	8	0						64.52～66.39m ・硬質であるが、割れ目が多い。
							100	4	0						・一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。
						D'	100	4	0						68.06～68.93m ・砂礫状を呈する。
							100	4	0						70.10～71.72m ・著しく軟質化している。
															・粘土～砂状化が進み、白色粘土脈を伴う。
															72.65～73.38m ・著しく軟質化している。
															・一部、細砂礫状を呈する。
															●76.59～76.89m ・破砕部である。
															・左ずれセンスである。
															・明黄褐色の粘土状～灰白～にぶい橙色の礫質粘土～粘土混じり礫状を呈する。
															・明黄褐色粘土：累計厚1mm
															・走向・傾斜はN41°E30°Wである。
															・傾斜は47°である。
															・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は37°である。
															79.15～85.03m ・粘土化が進み、著しく軟質化している。
															・原岩組織と割れ目の一部は残っている。

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
					明褐灰		100	5	0			
					暗黄褐	D'	100	4	0			
					明褐灰		100	3	0			
					暗黄褐		100	3	0			
					灰褐		100	3	0			84.54~84.71m ・砂状化が進み、軟質粘土を伴う。
					にぶい橙	CL'	100	3	0			
					褐灰		100	2	0			85.61~93.25m ・著しく軟質化している。
					にぶい黄緑		100	2	0			87.18~91.35m ・砂礫状を呈する。
					明褐灰	D'	100	3	0			
					明褐灰		100	6	0			
					にぶい橙		100	3	0			●91.35~91.54m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。
					にぶい橙		100	1	0			・灰白色の粘土状～灰白～にぶい黄緑～淡黄緑色の硬質粘土状～にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈している。
					灰褐	CL'	100	4	0			・灰白色粘土：累計厚10mm
					明褐灰		100	2	0			・走向・傾斜はN64° W20° Sである。
					にぶい橙		100	2	0			・傾斜は25° である。
					明褐灰	CL'	100	2	0			・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は20° である。
					にぶい橙		100	6	0			91.54~92.00m ・石英以外は砂状化している。
					灰褐		100	7	0			93.66~93.86m ・粘土化及び砂状化が著しい。
					にぶい橙		100	2	0			●99.50~99.69m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。
					明褐灰	CL'	100	5	0			・破碎部である。カタクレーサイトからなる。
					にぶい橙		100	8	0			・灰白色の砂混じり粘土状～明黄褐～褐灰色の粘土・砂混じり礫状を呈する。
					明褐灰	CM'	100	12	12			・灰白色砂混じり粘土：累計厚10mm
					明褐灰		100	8	0			・走向・傾斜はN15° W9° Eである。
					明褐灰	CH'	100	12	23			・傾斜は38° である。
					明褐灰		100	18	31			・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は37° である。
					明褐灰		100	10	10			102.00~104.28m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
					明褐灰	CM'	100	7	0			104.28~105.88m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
					明褐灰		100	10	10			105.88~119.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
					明褐灰		100	15	25			・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
					明褐灰	CH'	100	15	25			108.71~112.27m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。
					明褐灰		100	12	12			・割れ目には、挟在物は見られない。
					明褐灰	CM'	100	10	20			112.27~113.27m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
					明褐灰	CH'	100	20	72			・一部割れ目に、砂～シルト状緑泥石が見られる。
					明褐灰	CM'	100	22	40			113.27~117.32m ・短柱～柱状を呈する。
					明褐灰		100	12	34			・一部割れ目沿いに、砂～片状化している。
					明褐灰	CH'	100	25	47			117.32~117.39m ・割れ目沿いに、軟質化している。
					明褐灰	CM'	100	10	10			117.39~119.00m ・短柱～柱状を呈する。
					明褐灰	CH'	100	21	36			・下部に割れ目が多いが、挟在物は見られない。
					明褐灰	CM'	100	3	0			119.14~119.30m ・暗緑灰色の礫状を呈する。
					明褐灰	CL'						●119.11~119.25m (D-I 破碎帯) ・破碎部である。
					明褐灰							・正断層センスである。
					明褐灰							・緑灰色の粘土状～にぶい橙～暗緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。
					明褐灰							・緑灰色粘土：累計厚10mm
					明褐灰							・走向・傾斜はN20° E87° Wである。
					明褐灰							・傾斜は60° である50。下盤境界の傾斜は43° である。



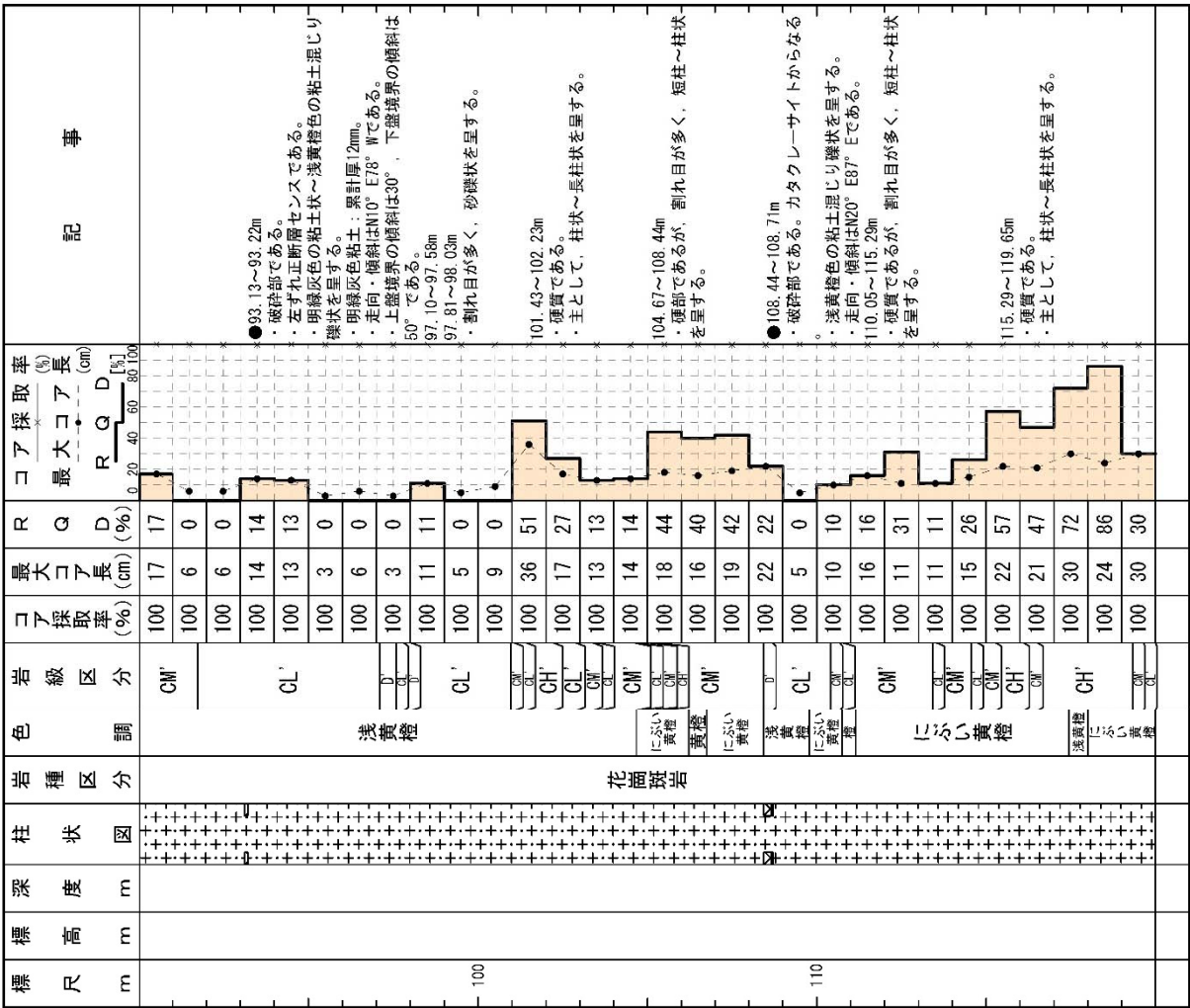
H27-B-4

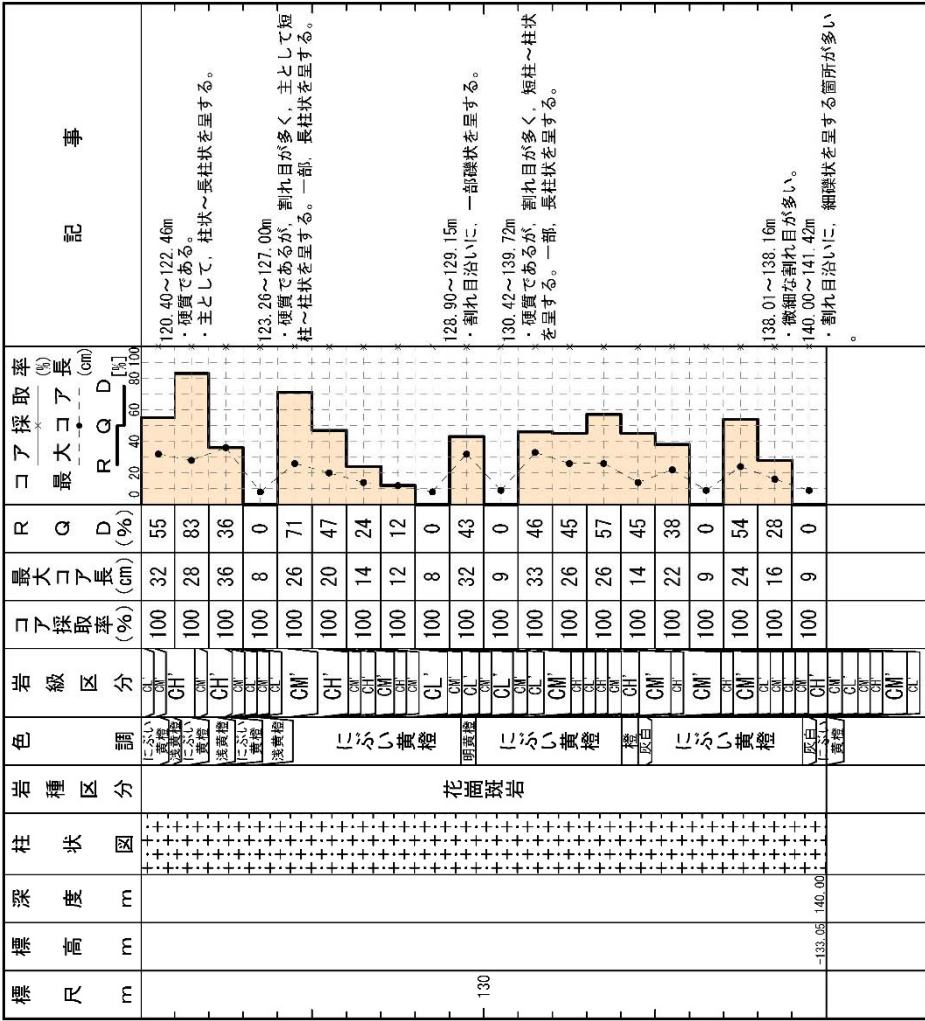
孔口標高	I.P.	掘削長	140.00m
------	------	-----	---------



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
			+++++		にぶい橙	GL'	100	13	25							31.77~31.93m ・低角度で、ほぼ並行する微細な割れ目が多い。 32.36~32.73m ・傾斜30°程度の、ほぼ並行する割れ目が多い。 33.00~33.62m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。 35.60~35.78m ・低角度の、ほぼ並行する割れ目が多い。 ・割れ目治いに、一部白色鉱物脈を挟む。 36.98~37.10m ・高角度の割れ目に沿って、幅12mm程度砂～細礫状を呈する。 37.36~39.84m ・硬質である。 ・主として、短柱～柱状を呈する。 41.00~41.20m ・低角度と高角度の割れ目が交差し、網目状を呈する。
40			+++++		浅黄	GL'	100	8	0							
			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	GL'	100	21	21							46.10~46.35m ・傾斜60°~70°の割れ目が多い。 47.11~47.32m ・微細な割れ目が、網目状に分布する。 ●48.30~48.33m ・破砕部である。カタクレサイトからなる。 ・にぶい橙色の粘土状を呈する。 ・にぶい橙色粘土：累計厚30mm ・走向・傾斜はN48° E78° Eである。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は45°である。 50.43~50.60m ・軟質である。 51.20~51.43m 51.66~51.97m 52.38~52.44m ・微細な割れ目が多い。 54.96~55.55m ・低角度の割れ目が多い。 56.45~56.61m ・低角度と高角度の割れ目が交差し、網目状を呈する。
50			+++++		明黄橙	GL'	100	4	0							
			+++++		にぶい橙	GL'	100	10	10							
			+++++		にぶい橙	GL'	100	9	0							
			+++++		にぶい橙	GL'	100	7	0							
			+++++		にぶい橙	GL'	100	10	10							
			+++++		にぶい橙	GL'	100	6	0							
			+++++		にぶい橙	GL'	100	19	32							
			+++++		にぶい橙	GL'	100	32	44							

標尺	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D (%)	コア採取率(%) 最大コア長 R Q D [cm]	記事
	m	+	花崗斑岩	にふい橙	CL'	100	4	0	●	60.07~60.45m	●	・微細な割れ目が多い。
						100	3	0	●	60.82~61.72m	●	
						100	3	0	●		●	
						100	6	0	●		●	
						100	4	0	●	63.90~64.30m	●	・変質している。 ・軟質化しており、割れ目は不鮮明である。
						100	3	0	●	●64.65~64.91m	●	・破砕部である。 ・正断層センスである。
						100	3	0	●	・褐灰色の粘土状～にふい橙色の粘土混じり ・機状を呈する。 ・粗灰色粘土：累計厚3mm。 ・走向・傾斜はN4°E 67°Eである。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°である。		
						100	3	0	●	●65.59~65.72m	●	・破砕部である。カタクレーサイトからなる。
						100	5	0	●	・灰白色の粘土状～褐色色の砂～礫状を呈する。		
						100	8	0	●	・灰白色粘土：累計厚3mm。 ・走向・傾斜はNS78°Wである。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は62°である。		
80	m	+	淡橙	CL'	100	7	0	●	67.28~67.75m	●	・変質している。 ・灰白色を呈し、粘土化している。	
					100	6	0	●	68.97~69.08m	●	・砂～細礫状を呈する。	
					100	13	13	●	74.19~74.34m	●	・傾斜30°～50°の割れ目が多い。	
					100	14	14	●	75.05~75.29m	●	・傾斜20°～40°の、ほぼ並行する低角度の割れ目が多い。	
					100	13	24	●	80.13~80.29m	●	・傾斜35°～55°の、同方向の割れ目が多い。	
					100	15	26	●	83.32~84.05m	●	・硬質であるが、割れ目が多く、短柱～柱状を呈する。	
					100	13	13	●	84.09~84.71m	●	・割れ目が多く、軟質化している。	
					100	12	34	●	86.14~88.26m	●	・硬質である。 ・主として、柱状～長柱状を呈する。	
					100	8	0	●	89.27~89.44m	●	・微細な割れ目が多い。	
					100	9	0	●		●		
	m	+	花崗斑岩	にふい橙	CM'	100	13	23	●		●	
						100	23	62	●		●	
						100	13	24	●		●	
						100	13	24	●		●	
						100	8	20	●		●	
						100	13	24	●		●	
						100	13	24	●		●	
						100	13	24	●		●	
						100	13	24	●		●	
						100	13	24	●		●	
	m	+	花崗斑岩	にふい橙	CM'	100	13	23	●		●	
						100	23	62	●		●	
						100	13	24	●		●	
						100	8	20	●		●	
						100	13	24	●		●	
						100	13	24	●		●	
						100	13	24	●		●	
						100	13	24	●		●	
						100	13	24	●		●	
						100	13	24	●		●	



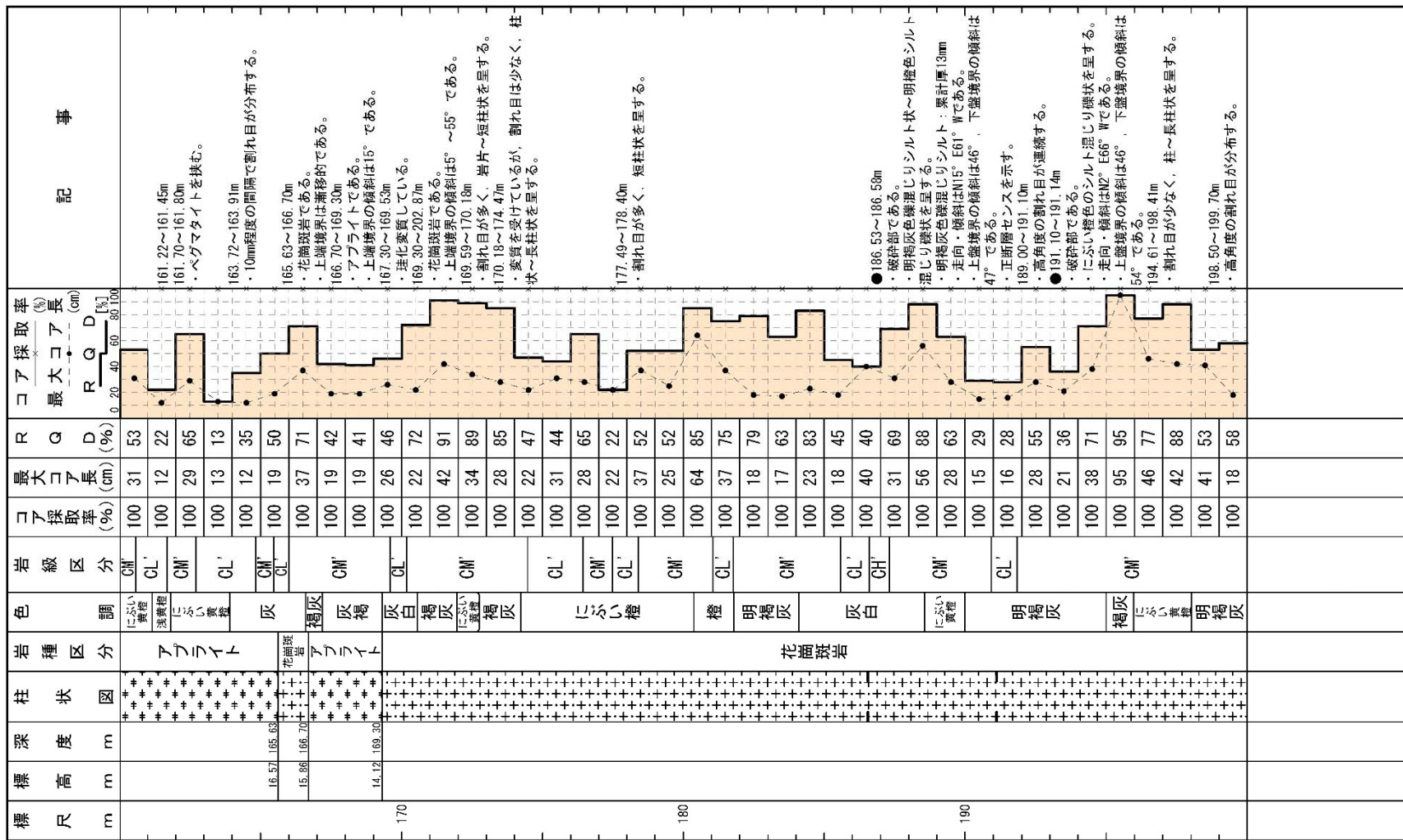


H19-No. 2

孔 口 標 高	I.P. 127.40m	掘 削 長	220.00m
---------	--------------	-------	---------

標 尺	標 高	深 度	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コ ア 採 取 率 (%)	最大コア長 (cm)	記 事
			++++	花崗斑岩	灰黄	D'	100	0	0	0	0	0	0	0.00~4.70m ・花崗斑岩である。
			++++	花崗斑岩	灰黄	D'	100	0	0	0	0	0	0	0.12~4.70m ・強風化部である。
			++++	花崗斑岩	灰黄	D'	100	0	0	0	0	0	0	2.35~2.42m ・変質が強い。
			++++	花崗斑岩	灰黄	D'	100	0	0	0	0	0	0	4.70~8.00m ・アブライトである。
			++++	アブライト	灰黄	D'	100	0	0	0	0	0	0	・上端境界は不明瞭である。
			++++	アブライト	灰黄	D'	100	0	0	0	0	0	0	・強風化しており、割れ目に植物根を挟む。
			++++	花崗斑岩	明赤灰	D'	100	20	20	0	0	0	0	8.00~10.20m ・花崗斑岩である。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	0	0	0	0	0	0	・上端境界は不明瞭である。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	0	0	0	0	0	0	・強風化しており、割れ目に酸化マンガン を挟む。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	18	18	0	0	0	0	10.20~90.62m ・アブライトが主体である。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	30	56	0	0	0	0	・所々に花崗斑岩とベグマタイトを挟む。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	13	35	0	0	0	0	・上端境界は不明瞭である。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	12	12	0	0	0	0	13.00~13.45m 15.21~15.35m 17.68~87.90m ・ベグマタイトである。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	43	75	0	0	0	0	・アブライトとの境界は傾斜10°~45°であ る。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	33	66	0	0	0	0	18.30~19.10m ・強風化部である。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	24	44	0	0	0	0	22.58~24.38m ・変質している。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	0	0	0	0	0	0	・粘土が網目状に分布する。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	20	30	0	0	0	0	・上端境界の傾斜は6°、下端境界の傾斜は5 5°である。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	23	82	0	0	0	0	・破砕部である。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	31	84	0	0	0	0	・砂質シルト状を呈する。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	58	76	0	0	0	0	・砂質シルト：累計厚65mm ・ポアホールテレビでは走向・傾斜は測定で きない。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	46	94	0	0	0	0	・上端境界の傾斜は55°、下端境界の傾斜は 43°である。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	30	63	0	0	0	0	・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	17	30	0	0	0	0	26.14~29.62m 28.65~30.30m ・花崗斑岩である。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	19	40	0	0	0	0	・上端境界、下端境界は漸移的である。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	41	95	0	0	0	0	29.88~30.00m ・トレライトを挟む。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	25	47	0	0	0	0	31.10~31.44m ・変質している。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	20	60	0	0	0	0	・灰白色粘土を網目状に挟む。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	25	69	0	0	0	0	・上端境界の傾斜は3°、下端境界の傾斜は2 7°である。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	26	80	0	0	0	0	31.44~44.90m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	29	82	0	0	0	0	36.21~36.48m ・変質している。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	29	82	0	0	0	0	・粘土化している。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	52	98	0	0	0	0	・上端境界の傾斜は22°、下端境界の傾斜は 77°である。
			++++	アブライト	灰白	D'	100	52	98	0	0	0	0	39.83~39.88m ・変質している。

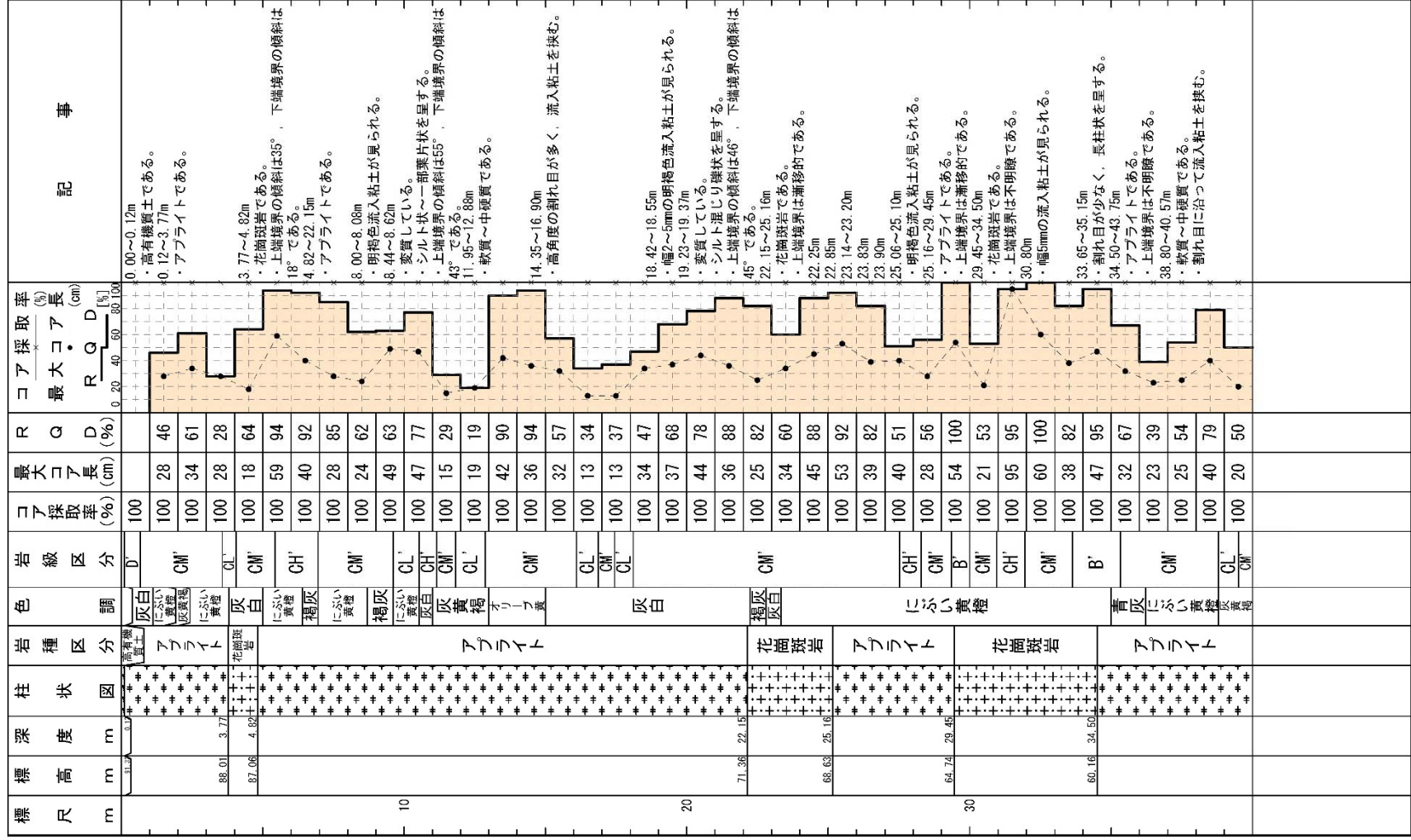
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
		m		アプライト	にぶい黄橙	CL'	100	43	96					
	45.57	122.30	+	花崗斑岩	灰白	CM'	100	35	91					122.30～123.70m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。
	44.63	123.70	+		にぶい黄橙	B'	100	40	81					123.70～136.55m ・アプライトである。 ・上端境界は漸移的である。
			+	アプライト	明黄褐	CM'	100	18	51					125.00～125.47m ・変質を受け、岩質が脆くなっている。
			+		にぶい黄橙	CH'	100	26	88					128.29～129.35m ・割れ目に沿って、褐色シルトを挟む。
130			+	アプライト	灰白		100	33	76					
			+		明黄褐		100	28	55					
			+	アプライト	にぶい黄橙	CM'	100	36	62					
			+		灰白		100	23	85					
			+	アプライト	灰白		100	33	55					131.45～131.90m 134.30～134.50m ・珪晶が散在する。
			+	花崗斑岩	褐灰		100	19	45					134.77～135.30m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ・割れ目に沿って、砂～シルトを挟む。
	36.03	136.55	+		にぶい黄橙	CL'	100	45	73					136.55～141.70m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は20°である。
			+	花崗斑岩	灰黄褐	CM'	100	41	86					141.70～169.30m ・アプライトが主体である。 ・所々に厚さ60～130cmの花崗斑岩を挟む。 ・上端境界は漸移的である。
140			+	アプライト	灰白		100	26	90					141.88～144.00m ・高角度の割れ目が多い。
			+		にぶい黄橙		100	30	80					●146.29～146.32m ・破砕部である。 ・綠色のシルト混じり砂状を呈する。 ・シルト混じり砂：累計厚30mm ・走向・傾斜はN7°E64°Wである。 ・上端境界の傾斜は31°、下端境界の傾斜は62°である。
			+	アプライト	灰白	CL'	100	13	70					146.32～146.45m ・変質帯である。 ・砂状～礫状を呈する。 ・上端境界の傾斜は62°、下端境界の傾斜は45°である。
			+	花崗斑岩	にぶい黄橙	D'	100	10	10					●147.04～147.06m ・破砕部である。 ・明灰色のシルト質砂状を呈する。 ・明灰色のシルト質砂：累計厚23mm ・走向・傾斜はN31°W70°Wである。 ・上端境界の傾斜は23°、下端境界の傾斜は34°である。
			+	アプライト	明黄褐	CL'	100	7	0					147.06～147.20m ・変質している。 ・砂状～砂質シルト状を呈する。 ・上端境界の傾斜は34°である。
150			+	アプライト	明褐灰	D'	100	5	0					147.25～147.58m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。上端境界に幅2～4mmの灰白色礫混じりシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は38°である。
			+	花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	5	0					●149.71～149.84m (D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・右すれ正断層センスである。 ・灰白色～褐色粘土状を呈する。 ・灰白色～褐色粘土：累計厚80mm ・走向・傾斜はN2°W72°Wである。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は54°である。
	25.46	152.39	+	花崗斑岩	明褐灰	CM'	100	22	42					149.84～150.34m ・変質している。 ・割れ目が密集する。砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は54°、下端境界の傾斜は41°である。
	25.02	153.00	+	アプライト	明褐灰		100	24	51					150.59～150.80m ・変質している。 ・礫混じり砂質シルト状を呈する。 ・上端境界の傾斜は69°、下端境界の傾斜は43°である。
	24.59	153.79	+	花崗斑岩	にぶい黄橙	CL'	100	15	15					151.31～151.50m ・変質している。 ・明褐～明黄灰色のシルト状を呈する。
	23.62	154.80	+	アプライト	にぶい黄橙	CL'	100	9	0					
			+		にぶい黄橙	CM'	100	16	16					



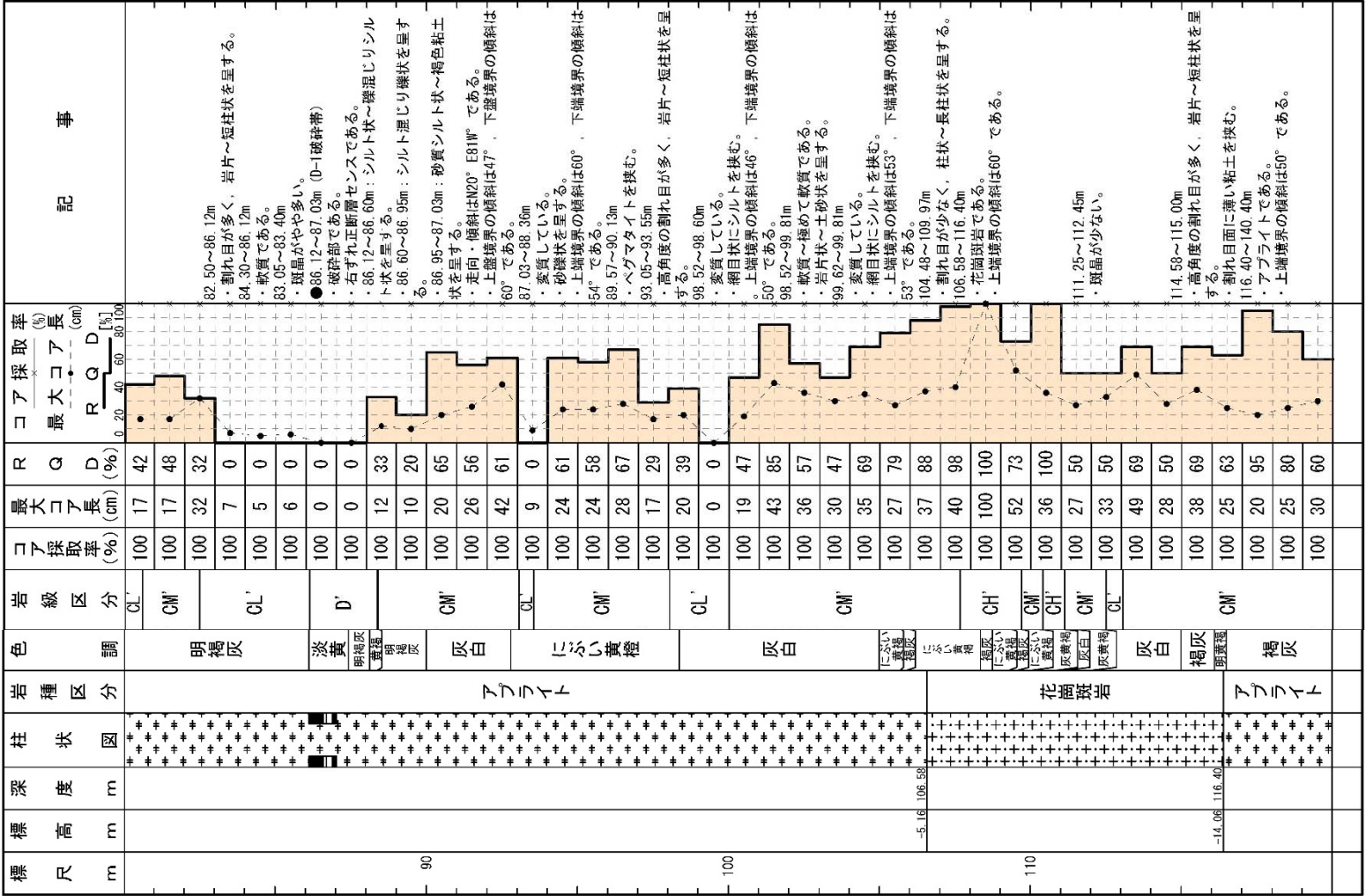
第7.4.4.174図 (5) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 2孔)

H19-No. 14

孔口標高	T.P.	掘削長	150.00m
------	------	-----	---------



標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
				アブライト	灰黄褐	CM'	100	22	56					●40.56～40.57m ・破砕部である。 ・幅12mmの黒褐色の礫質粘土状を呈する。 ・走向・傾斜はN11° E77° Wである。
	51.78	43.75		花崗斑岩	にぶい黄橙	B'	100	63	91					
						CH'	100	41	63					
	50.10	45.60		アブライト	淡赤橙	CM'	100	30	70					43.75～45.60m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。
						CH'	100	26	43					
							100	30	48					45.60～55.75m ・アブライトである。 ・上端境界付近は破砕部である。
							100	32	49					
							100	13	23					●45.63～45.70m ・破砕部である。 ・幅60～90mmの明黄色の礫理じりシルト状～明褐色のシルト混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN18° E83° Wである。
50				アブライト	灰白	CL'	100	12	24					・上端境界は傾斜30°、下端境界は傾斜58°である。
					明褐灰		100	41	41					
							100	23	33					
							100	32	60					45.70～56.00m ・軟質である。
							100	56	72					48.50～50.50m ・高角度の割れ目が多く、岩片～柱状を呈する。
							100	55	55					
							100	88	100					51.26～51.30m ・変質している。 ・暗褐色の礫理じり砂質シルト状を呈する。
	40.90	55.75		花崗斑岩			100	32	55					
	40.18	56.55		アブライト			100	19	68					
							100	21	41					52.25～52.78m ・変質している。 ・暗灰色のシルト混じり礫状を呈する。
	38.50	58.40		花崗斑岩	にぶい黄橙	CM'	100	28	69					
							100	29	79					55.75～59.80m ・上端境界は傾斜17°である。
	37.23	59.80		アブライト			100	23	81					
	36.90	60.50		花崗斑岩			100	26	91					58.11～58.44m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は42°、下端境界の傾斜は50°である。
	35.78	61.40		アブライト			100	35	63					
	35.59	61.79		花崗斑岩			100	28	62					
							100	39	92					59.80～68.20m ・アブライトである。 ・上端境界は不明瞭。 ・花崗斑岩を挟む。
				アブライト	明褐灰	CL'	100	31	76					
							100	60	90					
							100	0	0					61.55～65.00m ・珪晶がやや多い。
	29.62	68.20		花崗斑岩	にぶい黄橙	D'	100	17	30					
							100	63	90					62.70～66.18m ・軟質である。
							100	8	0					62.92～62.97m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は37°、下端境界の境界は36°である。
70							100	20	60					
							100	28	74					66.18～67.20m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
							100	18	57					67.78～68.11m ・破砕部である。 ・粘土状～礫状を呈する。
							100	30	60					
							100	39	79					・粘土：累計厚25mm ・走向・傾斜はN11° W78° Wである。
							100	28	43					・上端境界は傾斜40°、下端境界は傾斜32°である。
							100	23	42					
							100	36	74					68.20～70.85m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は不明瞭である。
							100	18	71					
							100	20	60					68.20～74.47m ・軟質である。
							100	28	74					70.60～70.70m ・ベグマタイトを挟む。
							100	39	79					70.85～106.58m ・アブライトである。
							100	28	43					・上端境界の傾斜は40°～50°である。
							100	23	42					
							100	36	74					72.43～72.70m ・割れ目が多い。
							100	18	71					74.77～80.00m ・割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。



6-7-4-1042

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
40			+	花崗斑岩	明褐色 にぶい 明褐色	CH'	100	46	69			R Q D	60 40 20	80 60 40	100	39.55~41.72m ・傾斜20° 及び80° 程度の割れ目が見られる。
50			+	花崗斑岩	明褐色 にぶい 明褐色	CH'	100	25	88			R Q D	60 40 20	80 60 40	100	41.72~65.00m ・傾斜60°~70° 程度の割れ目が見られる。 ・割れ目に沿って褐色化し、灰白色粘土を伴うことが多い。
60			+	花崗斑岩	明褐色 にぶい 明褐色	CH'	100	10	10			R Q D	60 40 20	80 60 40	100	43.16m ・傾斜45° 程度、幅5~8mm程度の石英脈を挟む。 43.25~43.50m 44.20~45.50m ・アブライトを挟む。 44.55~44.80m ・変質している。 ・微細な割れ目に灰白色粘土を挟む。 ・上端境界は傾斜53°、下端境界は傾斜49°である。 ●45.13~46.34m ・破砕部である。 ・灰白色~黄褐色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN3° W60° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は68°である。 ●46.85~46.97m ・破砕部である。 ・明褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土；累計厚0.6mm ・走向・傾斜はN63° E71° Sである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は67°である。 47.13~47.25m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は66°、下端境界の傾斜は30°であるが、傾斜の方向が異なる。 ●48.26~48.95m ・破砕部である。 ・明褐色の礫質粘土状~礫混じり粘土状を呈する。 ・灰白色粘土；累計厚10mm ・灰色~傾斜はN52° W71° SWである。 ・上端境界の傾斜は69°、下端境界の傾斜は45°である。 ●49.21~51.10m (D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・右すれ正断層センスである。 ・灰白色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土；累計厚100mm ・走向・傾斜は未測定。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は36°、主せん断面の傾斜は65°である。 51.10~57.42m ・軟質である。 51.73~52.12m 52.53~52.67m 53.67~53.72m 54.53~54.64m 55.85~55.90m 56.57~56.67m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は31°~76°、下端境界の傾斜は31°~77°である。 57.42~65.00m ・中硬質である。 59.67~61.35m 61.74~61.60m ・アブライトである。 64.78~65.00m ・変質している。 ・微細な割れ目が多く、一部に灰白色粘土、マンガンが網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は不明である。

第7.4.4.176図 (2) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H20-No. ②-1孔)